

ねんと ほつかいどうじしゅや かんちゅうがくしじょうこうりゅうかい
2020年度 北海道自主夜間中学誌上交流会

さつぼろえんゆうじゅくじしゅや かんちゅうがく しゅうねんきねん
札幌遠友塾自主夜間中学30周年記念

きろくしゅう
記録集



ほつかいどうじしゅや かんちゅうがくこうりゅうかいじつこういんかい
北海道自主夜間中学交流会実行委員会
さつぼろえんゆうじゅくじしゅや かんちゅうがく
札幌遠友塾自主夜間中学

目次

はっかん 発行にあたって	えんどうち えこ (遠藤知恵子)	3			
だい ぶ 第1部	ほっかいどうやかんちゅうがくこうりゅうかい 北海道夜間中学交流会2020	しじょうこうりゅう (誌上交流)	5		
1.	かくじしゅうやかんちゅうがく 各自夜間中学	かい つくる会	かつどうほうこく からの活動報告	6	
1)	か コロナ下	あさひかわかつどうほうこく での旭川活動報告	なかしまひろゆき (中島啓幸)	6	
2)	れいわさいしよ 令和最初	はこだてえんゆうじゅく の函館遠友塾	すがわらともあき (菅原智明)	8	
3)	くしろ 釧路	「くるかい」 一年間の活動と報告	いちねんかん かつどう ほうこく さとうやすひろ (佐藤康弘)	10	
4)	さっぽろえんゆうじゅく 札幌遠友塾	じしゅうやかんちゅうがく 自主夜間中学	ほうこく くろさわせいいち (黒澤晴一)	12	
2.	じゅこうせい 受講生	スタッフ	から	14	
1)	けいくん 「K君	おし から	教えてもらったこと	さとうやすひろ (佐藤康弘)	14
2)	はこだてえんゆうじゅく 函館遠友塾	さんか に参加して	わかすぎ こ (若杉れい子)	19	
3)	ふるさと 故郷	さとう (佐藤)	チエ	20	
だい ぶ 第2部	さっぽろえんゆうじゅくじしゅうやかんちゅうがく 札幌遠友塾自主夜間中学	しゅうねんきねん の30周年記念	21		
1.	いわ お祝い	のことば	23		
1)	はっかん 発行	よ に	ほっかいどうきょういくいいんかいきょういくちょう 寄せて(北海道教育委員会教育長)	23	
2)	しゅくじ 祝辞	さっぽろしきょういくいいんかいきょういくちょう (札幌市教育委員会教育長)	25		
3)	おと おも チャイムの音	に さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこうこうちょう 想う(札幌市立向陵中学校校長)	27		
2.	そつぎょうせい 卒業生	スタッフ	さんじょかいいん 賛助会員	から	29
1)	わたし 私	えんゆうじゅく と遠友塾	くわやまたまえ (桑山玉枝)	29	
2)	「じっくりクラス」 の歩み	あゆ と生徒さん	せいと との	であ の出会い	から
	まな 学んだこと	よこやまはるみ (横山晴美)	37		

3) 私と遠友塾 (坂本佳代)	45
4) 「中途半端な存在」として遠友塾に通うこと (植村友貴)	47
5) 札幌遠友塾での学び (長野琴音)	49
6) 遠友塾30周年に寄せて (佐藤友歌)	50
3. 遠友塾30周年に向けて「一言メッセージ」	52
4. 札幌遠友塾 自主夜間中学30周年年表	91
5. 札幌遠友塾 自主夜間中学 受講生数の推移	93

第3部 札幌遠友塾 自主夜間中学「30年の集い記念講演会」講演録 95

講演1	「公立夜間中学、それとも自主夜間中学」 (深澤吉隆)
講演2	「70代の高校生 米田豊満」 (米田豊満)
講演3	「妻への手紙」 (西畑 保)



「いらすとや」より

はっかん 発刊にあたって



ほっかいどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかい
北海道自主夜間中学交流会

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんきねんじぎょう
札幌遠友塾30周年記念事業

じっこういんちよう えんどう ちえこ
実行委員長 遠藤 知恵子

ねん いちどかいさい ぜんどうこうりゅうかい か なか しじょうこうりゅう かたち
年に一度開催の全道交流会ですが、コロナ禍の中、誌上交流という形になりました。
なお、こんねんど さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん とし ねんかん ささ かたがた
今年度は札幌遠友塾の30周年の年でもあります。30年間を支えてこられた方々
やかんちゅうがく おち よ こうりゅうかい かなめ まな
の夜間中学への思いをお寄せいただき、交流会の要ともなる、「学びのすばらしさ」を
きょうゆう いっさつ かんが よ げんこう みなさまがた おお
共有する一冊としたいと考えました。お寄せいただいた原稿に皆様方からの多くのお
こえ かんせい かんしゃもう あ きねんぎょうじ こうえんかい
声をまとめて完成いたしました。感謝申し上げます。また記念行事としての講演会では、
きび かんきょう なかやかんちゅうがく であ まな にんげんてき せいかつ じつげん かんどうてき
厳しい環境の中夜間中学と出会い、学びによって人間的な生活を実現された感動的な
たいけんたん はな ほんし けいさい
体験談をお話いただき、それも本誌に掲載いたしました。

こんねんどさっぽろえんゆうじゅく まんえん きゅうじゅく いちがっ きかん つうしん かだい
今年度札幌遠友塾はコロナの蔓延で休塾となった一学期間、クラス通信や課題のプ
りんとう てんわれんらく じゅこうせい みな かんけい たも どりよく
リント、電話連絡によりできるだけ受講生の皆さんとの関係を保つ努力をしてきました。
みな けんこうじょうたい と せいかつ ふあん かか と じゅこうせい
皆の健康状態はどうかを問い、生活に不安を抱えていないかを問い、そして受講生さん
たち まな よろこ わす おも はっしん こわ にゅうがく
達が「学ぶ喜び」を忘れないようにとの思いでの発信でした。コロナが怖いと入学を
あきら かた さいかいご えんゆうじゅく かよ かんせん さ じてんしゃ しゅつせき
諦めた方、再開後なんとしても遠友塾に通いたいと、感染を避けるため自転車で出席
する受講生さんもおります。そんな中新しい発見もありました。日ごろ互いに接するこ
とすく じゅこうせいせい いぜん こうりゅう ふ よろこ こえ じゅこうせい
との少ない受講生さんと、以前より交流が増えたことを喜ぶ声、またある受講生さ
んからは、なや ちえ わ どうこう くふう かせ ちからづよ ことば えんゆう
「悩むと知恵が湧くのよね」と、登校に工夫を重ねる力強い言葉もきかれ、遠友
じゅく まな いみ さいかくにん
塾の学びの意味を再確認することとなりました。

わたしたち しゃかい こうりつゆうせん かちかん けいざい はってん けっか かんきょうはかい もんだい
私達のこの社会は、効率優先の価値観で経済を発展させ、その結果、環境破壊の問題
う にんげんかんけい きはくか
を生み、人間関係を希薄化もさせてきました。

いま わたしたち ちから あらが おお ちから にちじょう わたしたち せいかつ はたら かた きょういく
今、私達の力では抗いかねる大きな力が、日常の私達の生活、働き方や教育

の在り方まで見直す機会となっています。困難を乗り越える様々な工夫も編み出されています。その意味では、競争社会の中で不利な立場におかれ、人間にとって学びとは何かを問い続けてきた夜間中学だからこそ、世の中に発信していく力を持っているような気も致します。

私達の生活を全く変えてしまうかもしれないこの難局に、全ての人が人間的な生活を実現していくための「学びの機会」をどのように整えていったらいいのか、この冊子を通し30年を振り返ることによって、共に考えるよすがとしたいと思います。

なお2022年には、札幌に公立夜間中学の設置が決まり。着々とその計画化が進められております。公立化は私達の長年の夢でもありました。絶えず学びの原点を問い直す存在として自主夜間中学はますますその存在意義が高まるのではとも考えています。

これからは私達の経験をふまえ公立夜間中学をはじめ様々な分野と連携しながら基礎教育の充実に努力していきたいと考えています。

だい ぶ ほっかいどう や か ん ちゅうがくこうりゅうかい
第 1 部 北海道夜間中学交流会2020

しじょうこうりゅう
(誌上交流)

1. 各自主夜間中学・つくる会からの活動報告
 - 1) コロナ下での旭川活動報告 (中島啓幸)
 - 2) 令和最初の函館遠友塾 (菅原智明)
 - 3) 釧路「くるかい」一年間の活動と報告 (佐藤康弘)
 - 4) 札幌遠友塾自主夜間中学からの報告 (黒澤晴一)

2. 受講生・スタッフから
 - 1) 「K君から教えてもらったこと」 (佐藤康弘)
 - 2) 函館遠友塾に参加して (若杉れい子)
 - 3) 故郷 (佐藤チ工)

1. 各自主夜間中学・つくる会からの活動報告



1) コロナ下での旭川活動報告

あさひかわ こうりつやかんちゅうがく かいだいひょう
旭川に公立夜間中学をつくる会代表

なかしま ひろゆき
中島 啓幸

あさひかわ ことし かつどう がつ にち こうかいこうざ はじ ぜんじつ にち ほっかいどうちじ
旭川での今年の活動は、2月29日の公開講座から始まった。前日28日に北海道知事
から日本初のコロナによる緊急事態宣言が発令されて200人入る会場に30人とい
う窮状の中で、実行した「人生やり直し道場」と題し、講師に、ヤクザから牧師に転身
した鈴木啓之さんとドラマ「金八先生」第2シリーズで“腐ったミカン”加藤優役で知
られる直江喜一さん（現在は役者から建設会社役員へ）をお招きしました。第1部の講演
では、それぞれの人生の挫折からどう希望を見つけたかを語っていただき、第2部では「ど
ん底からのはい上がり方」をテーマに活発な意見がフロアからも出され、大いに希望は
絶望の中から生まれることを参加者全員が、かみしめることができた。

よくげつ ひがしにほんだいしんさい ねん あ みなまたびょう さんじょう ぶんがく せかい
翌月は、東日本大震災から9年に当たる（水俣病の惨状を文学で世界にしらしめた
石牟礼道子さんの誕生日であることを覚えて）11日に花崎皋平先生、工藤慶一先生
（次ページに写真）をお招きし「東日本大震災から9年、今、田中正造が生きていたら」
をテーマに開催し、40人の参加者が与えられた。第1部はお二人の講演。花崎先生はこ
れまでの半生の中で田中正造の実践をどう活かしてきたかを語られ、工藤先生は札幌
遠友塾の創成期から今日までの闘いと学びを熱く語られた。その後、お二人の対談を
参加者との対話形式で進め、命の底深さについて学び合うことができ、お二人の師弟愛
のぬくもりと強さを実感することができた。

9月5日は、3密回避のご指示の中にあっても25名の参加者が与えられ、いじめ、差別
の中で1番弱い立場の命から大切にされたマザーテレサと杉原千畝の生涯に思いをはせ
て、写真展とドキュメント上映会を開催し、お二人の生涯の愛のぬくもりに触れ、
参加者全員深い感動を覚えて無事終えることができた。
今後も小さくコツコツ、公開講座という形を続けながら夜間中学の必要性を訴え続け
ていきますので、どうか共にごがんばってゆきましょね。



ひだり くら からはな さん・はな さん・ひっしや
左から工藤さん・花崎さん・筆者



2) 令和最初の函館遠友塾

—あきらめないところ—

はこだてえんゆうじゅくだいひょう
函館遠友塾 代表 すがわら ともあき
菅原 智明

ことし がつ はこだてえんゆうじゅく ねんめ むか さくねん いまにしぜんだいひょう わたし すがわら だいひょう
今年4月、函館遠友塾は12年目を迎えた。昨年、今西前代表から私（菅原）が代表
ひ つ げんざい で き ほんい しんがた かんせんかくだい ちゅうい
を引き継いだ。現在は、出来る範囲で新型コロナウイルスの感染拡大に注意しながら、
けんしんてき はたら がくしゅうねっしん じゅくせい さんか かつどう
献身的なスタッフの働き、学習熱心な塾生の参加により、活動できている。
さくねんと れいわがんねんと かつどう しょうかい
昨年度（令和元年度）の活動について紹介する。

がつ しんにゅうせい めい ぜんじゅくせいすう めい がくねんたいせい
4月：新入生は13名であった。全塾生数は54名で、2学年体制としてスタートし
た。スタッフの人数から、当面は2年制としたが、将来的には3年制を目指している。
そうかい おこな うんえいけいかく けんとう
総会を行い、運営計画などを検討した。

がつ はこだてえんゆうじゅく さっぽろえんゆうじゅく くしろ
5月：函館遠友塾のウェブページについては、札幌遠友塾、釧路「くるかい」とリン
クさせていただいた。函館遠友塾を知ってもらうきっかけになればと思っている。

がつ はる えんそく がつ にち はこだてちほうさいばんしょ けんがく さいばんしょ やくわり さいばん
6月：春の遠足（6月12日）として函館地方裁判所を見学し、裁判所の役割や裁判に
ついで説明を受けた。模擬裁判も体験し、塾生やスタッフにとって印象深い社会学習
せつめい う も ぎ さいばん たいけん じゅくせい いんしょうぶか しゃかいがくしゅう
になった。当日は北海道新聞、函館新聞、朝日新聞の取材があり、後日、掲載された。

とうじつ ほっかいどうしんぶん はこだてしんぶん あさひしんぶん しゅざい ごじつ けいさい
函館市教委2名が、1年英語、2年国語を見学し、「授業が本格的で、共に学ぶ姿勢や
しゅうちゅうりょく たか かんどう かんそう がつじゅうよっか
集中力の高さに感動した」との感想があった（6月14日）。

がつ まえかわきへい こうし きょういくこうえんかい がつ にち さんか きょういくきかい かくほうとう
7月：前川喜平さんが講師の教育講演会（7月21日）に参加し、教育機会の確保等な
どについて学ぶことができた（塾生及びスタッフ10名）。当日は、函館遠友塾のパン
はいふ
フを配布させていただいた。

がつ ぜんどうこうりゅうかい がつなの か はこだて めいさんか きっぽろ くしろ あさひかわ みな
9月：全道交流会（9月7日）に函館から5名参加し、札幌、釧路、旭川の皆さんと
こうりゅう ぶか じゅくせい あかいし がくしゅうたいけん はっぴょう
交流を深めた。塾生の赤石さんが学習体験を発表した。

がつ あき えんそく おこな がつ にち ど おおぬまこうえん ぜんこうしゅうかい やかん
10月：秋の遠足を行った（10月19日（土）大沼公園など）。全校集会にて、夜間

ちゅうがく えいが つー じゅくせい はいふ しゅうち
中学ドキュメンタリー映画「こんばんはⅡ」チラシを塾生さんに配布して周知した。

たいしよくきょういん はこだてえんゆうじゅく ほしゅう おこな がつちゅうじゅん しりょう おしまそうごう
退職教員に函館遠友塾スタッフ募集を行うため、10月中旬に資料を渡島総合
しんこうきょくたんとらぶしょ じきん しりょうはいふ ねが
振興局担当部署に持参し、資料配布をお願いした。

がつ こじんじょうほう かん かんりきてい あん さくせい かいぎ けんとう けつてい
11月：個人情報に関する管理規定（案）を作成し、スタッフ会議にて検討し、決定し
た。

がつ かい おこな も あ せいと
12月：クリスマス会を行った。ゲームやビンゴなどで盛り上がり、生徒とスタッフが
たの こりゅう しょうきょうこうこうていじせい ていじせい せいとほしゅう はな
楽しく交流した。商業高校定時制からは、定時制・生徒募集についてお話ししたいと
もう て ぜんこうしゅうかい せつめい ていじせい かか はこだてえんゆうじゅく
申し出があり、全校集会でご説明いただいた。定時制との関わりができ、函館遠友塾
びーあーる ていじせい つうがく むすか かた はこだてえんゆうじゅく まな なお
のPRにつながるとともに、定時制への通学が難しい方には、函館遠友塾で学び直し
できることを定時制生徒にお知らせいただくようお願いした。

がつ がつ にち にゅうがくきぼうしゃ きぼうしゃ む せつめいかい おこな がつ
2月：2月19日に、入学希望者、スタッフ希望者に向けて説明会を行った。2月26
日に、新型コロナウイルスの影響のため、休校とした。

がつ しんがた がつ ひ つづ きゅうこう
3月：新型コロナウイルスのため、3月も引き続き休校とした。

れいわがんねんとそつぎょうせい めい そつぎょうしき がつ えんき そつぎょうせい
令和元年度卒業生は10名であったが、卒業式を4月に延期し、卒業生とスタッフ
だけで卒業式を挙行した。令和2年度は、新入生4名、全塾生数44名（1学年19名、
がくねん めい にゅうがくしき しんにゅうせい おこな きゅうこうちゅう
2学年25名）でスタートした。入学式は新入生とスタッフだけで行った。休校中の
がつ じゅくせい がくしゅうしりょう そうふ かんしゃ ことば
6月に、塾生さんたちに学習資料を送付したところ、感謝の言葉をたくさんいただき、
スタッフも大変勇気づけられた。スタッフで話し合い、7月から授業を再開した。コロ
ま ねっしん べんきょう と く じゅくせい はこだてえんゆうじゅく げんどうりょく
ナに負けず、熱心に勉強に取り組んでいる塾生さんたちが、函館遠友塾の原動力に
なっていると実感している。今も活動が制限されているが、これからも工夫しながら函館
えんゆうじゅく けいぞく
遠友塾を継続してゆきたい。



3) 釧路「くるかい」一年間の活動と報告

釧路自主夜間中学「くるかい」

事務局 長 佐藤 康弘

今年、皆さんと同様に新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。何よりも一年の最後を飾る行事、修了式と卒業生を送る会が開催できませんでした。お手伝いくださいました学生さんとの中途半端なお別れに悔いが残ります。

当会では新型コロナウイルスの釧路管内発生報道を受け、2月24日に一旦2週間の休講を決定・通知したものの、とうとう学習を再開できぬまま前年度の学習を修了しました。幸い毎年制作していた文集は完成しており、会員の皆様方には「困ったことがあったら連絡を」とのメッセージを添えて、修了証・文集を郵送して年度末最後の作業を終えました。

4月に入り、7日に運営会議を開催。新年度の活動方針等を協議し、新学期の学習開始を5月12日まで延期することを確認しましたが、感染の勢いは衰えず、5月1日の運営会議で8月18日までの休講再延長を決定。その後、感染状況を見ながら再開のタイミングを探っていましたが、7月7日の運営会議で感染防止対策（案）、飛沫飛散防止具の試作品も検討素材にあげて検討し、7月21日に学習再開が実現しました。

会員には事前に2週間の健康状態を把握して頂き、当日会場での検温、手指の消毒、机には改良後の飛沫飛散防止具を設置するなど感染防止策を施すという大袈裟な形の再開となりました。学習時間も本来の90分より30分短縮して体力的な負担軽減にも配慮したのですが、感染への懸念から出席を自粛される会員もいて、参加者は少なめなスタートになりました。しかし、互いに元気な顔を拝見できる喜びに会場は包まれていました。同月28日には釧路市教育委員会の方々が当会を視察され意見交換をしましたが、その中で「夜間中学に関する二ス調査の意向があるが、その方法について

は「未定」との発言があり、当会も協力を惜しまないことをお伝えしました。

9月まで順調に学習が進みましたが、10月に入り釧路管内の新型コロナウイルス感染者の急増が報道され、再開後11回目の学習を終えた20日の翌日、とうとう釧路管内で20名の新規感染者、クラスターも発生したことから、役員判断で急遽2週間の休講を会員に通知し現在に至っています。10月の釧路管内感染者数は50名にも及んでいます。北海道では10月28日に感染対策の警戒ステージを「レベル2」に引き上げ、11月10日まで最大限の警戒を呼び掛けており、再度の学習再開が何時になるかは予測出来ない状況です。

今後は、12月15日のクリスマス・忘年会と3月16日の修了式を予定していますが、昨年みたいな形で終わらないでほしいと願うばかりです。

さて、学習活動を離れて、二つの話題を皆さんに提供させていただきます。一つ目は、共同通信社の企画で作家の雨宮処凛さんが10月3日に釧路を訪れ、当会を取材してくれたことです。感染防止の観点から賀根村代表ら限られた方が取材に協力しましたが、「ルポ2020の透視図」として、北海道新聞に雨宮さんの現地報告として掲載される予定とのことです。もう一つは、日本善行会釧路支部が当会の活動をご評価くださり、令和2年度秋季善行表彰の候補としてご推薦くださっており、10月12日に受賞の正式決定通知を頂きました。私たちのささやかな活動が、しかもまだ活動歴が浅いにもかかわらず気に掛けていただいていたことに大変感激しております。この喜びを全道の皆様と共に分かち合いたいと思っております。授賞式は12月中旬を予定しておりますが、先の新聞報道や今回の受賞を通して、夜間中学の活動を少しでも多くの方々に知って頂けること。そして、私たちが必要としておられる方々が学び舎への門を叩きかけになってくれることを心から願っています。



さっぽろえんゆうじゅくじしゅ やか ちゅうがく ほうこく
4) 札幌遠友塾自主夜間中学からの報告

さっぽろえんゆうじゅくじむきょくちょう くらさわ せいいち
札幌遠友塾事務局長 黒澤 晴一

こんねんと さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん むか しんがた
今年度で札幌遠友塾は30周年を迎えました。新型コロナ
ウイルスの影響がなければ北海道自主夜間中学交流会と共に記念の催事がいくつか
行われるはずでした。残念でなりません。しかし、この誌上発表や、感動的な記念講演会
（奈良市立春日中学校夜間学級卒業生、西畑保氏、米田豊満氏、前教頭の深澤吉隆
氏）を実施できました。「遠友だより（207号分）」「こんばんは遠友塾です（26号分）」
を冊子化して足跡を残すこともできました。

ここに至るまで、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、札幌市立向陵中学校、
富士ゼロックス北海道株式会社、北海道に夜間中学をつくる会、受講生、スタッフ、賛助
会員、同窓生、等の各界の方々の温かいご支援ご協力を頂きました。改めて深く
感謝いたします。

さくねん ほっかいどうじしゅ やか ちゅうがく ほうこく
昨年の北海道自主夜間中学交流会以降の歩みを簡単に報告します。2020年11月
げんざい
現在は、4クラス（じっくりクラス、1年～3年）、受講生58名、スタッフ78名です。
きょうか こくご すうがく えいご しゃかい かもく こべつがくしゅう まいしゅうすいようび
教科は国語、数学、英語、社会の4科目、個別学習（じっくりクラス）、毎週水曜日の
やかん じかん じゅぎょう じっし
夜間に2時間の授業を実施しています。

ねん がつ にち こうりょうちゅうがっこうびーていーえー かていきょういくがっきゅう
2019年9月17日、向陵中学校PTAの家庭教育学級にてスタッフがパネラー
として発表し交流を深めました。また、遠友塾の記事もPTA広報紙に写真入りで
けいさい けいもつかつどう きよ いただ
掲載され啓蒙活動に寄与して頂きました。

がつ にち とくべつじゅぎょう じっし いのち まも たいせつ かた だい
9月25日、特別授業を実施しました。「命を守る大切さを語りつなぐ」と題して、
ねん ほっかいどうなんせいおきじしん とし おくしり さいがい あ げんざい ほっかいどうぼうさいきょういく
1993年の北海道南西沖地震の時に奥尻で災害に遭い、現在は北海道防災教育アドバイザーの「三浦浩氏」のお話を聴きました。受講生のTさんの感想を紹介します。「昨年
の地震の時に何もできず、ただこわくてふるえた記憶を思い出しました。お話を聴いて、

とても参考になりました。最低限必要な物をそろえておくこと、考える前に行動することなど、胸に刻んでおきたいです。時々家族と話題にします。有難うございました」。

講演後の10月2日、2018年に続く2回目の避難訓練を実施しました。外に避難する内容で、真剣にそして設定時間より早くスムーズに出来ました。課題も見つかりました。聴覚障がい者の方、車いすの方への対応、階段から降りる時の状況、点呼の仕方等、今後に生かしたいと思います。

昨年度、とても喜ばしかったことの一つは「北海道新聞文化賞」を受賞したことです。30年間の歩みが評価され、11月6日に贈呈式が札幌グランドホテルで行われました。遠藤代表、工藤慶一さん、工藤朱美さんご夫妻初め7名が、晴れがましい気持ちと感慨深さを感じながら、授賞式に臨むことができました。支えてくれた関係者の皆様に改めて深く感謝する思いです。

12月には受講生、スタッフが一体となって合唱、寸劇等の発表忘年会を実施しました。国語科や、英語科等の学習の成果が表れた有意義な楽しい会でした。

また、12月6、7日には第65回全国夜間中学校研究大会（神戸市）に9名参加することができました。受講生の吉野太さんが全体会で指名され、自分の学びへの思いと今後の決意を発表し、参加者から大きな拍手を頂きました。

そして、新型コロナウイルスで状況は一変します。授業の続行か、休塾か等をスタッフ全員で悩み、協議し、一人一人の健康と安全を考え、2020年8月までの休塾を決定しました。しめくくりの卒業式を中止せざるを得ませんでした。断腸の思いでした。

休塾の間は各クラスが創意工夫して、便りを発行したり、手紙や課題の郵送、電話等で受講生の皆さんとの交流を図りました。そして2020年8月19日、出来る限りの予防措置を設定して教育文化会館にて再開しました。喜びと不安がまじりあう出発でしたが、11月現在まで継続できております。

1日でも早くコロナが収束することを願うばかりです。

「英語など」

僕は本が好きで、はじめは国語の勉強をしていました。ある日、ペットボトルの英語が目にはいり、何と書いているのかが気になり英語の勉強をしました。英語をはじめからちゃんと勉強したいと思い、成澤先生に教えてもらいながら、一生懸命勉強をしています。

「文集とは程遠い何か (\・ω・/)」

まず初めに一言。何を書けばいいのかわかりません。多分くるかいのことを書けばいいんでしょうが、まず書く事が多いので1 P では、途中で埋まるでしょう。今、自宅の居間で書いているので、(用紙の)補充が出来ません。何だか四行でいきなり部屋が寒くなりましたが、気にしたら負けでしょう。ここまでの文字消せば色々書ける気がしますが、自分らしくないな~と思っているので、気が向いたらくるかいの事書くことにします。向かなかつたら書きません。何だか雑談だらけになっています、これで良いのでしょうか? いや駄目ですよね・・・だらけてますね。雑談だらけだけに (\・ω・/) ←どや顔 正直顔文字は何で書いたかは謎です。自分の画力の無さに絶望した。

テンションが上がって来たので、ラジオを聞きながら書きたいと思います・・・このノリで書いたら何 P で終わるんだろう。

さて、話を戻しましょう。あれは今から二年半位前でしょうか。

ココスにご飯食べに行くよと言われて連れて来られました。なんやかんや勉強し

て、ご飯食べて家に帰りました。そして、明ちゃんこと、成澤弘明に出会った。漢字の勉強をしていたんですが、明ちゃんは仮面ライダーの話しかしなかった気がします。(笑)後は山登りをした話とか、春採湖の周りを歩いたとかでしょうか。

俺は最初三階の和式の部屋に居いたんですが、明ちゃんに一階に降りてみないかと言われて一階に降りました。感想は三階と大して変わりませんでした。一階に降りた後は英語の勉強をしました。英語を教えてくれているのは垂石さんです。あと、ちよくちよく大河内さんが乱入して来ます。乱入とは言ってもたまに真面目な話をしてくれます。回数は少ないですが。さて、まだまだ書きたいことは沢山ありますが、3時間くらいぶっ続けで書いてきたので疲れしました。次回予告！果たしてこの文章は通るのか、お蔵入りになるのか、黒塗りになるのか、そもそも次回はあるのか分かりませんが、時間があまりないのでここで終わります。お疲れ様でした。

ねんめ
4年目

(くるかい文集第4集より転載)

「1年を振り返って」

僕はこの1年を振り返って色々なことがあったなと思います。通信制の高校に通ったり、バイトしていたらいつの間にか1年経っていました。

その一年で僕が変わった事は、自分に自信が付いたり、バイトで体力が付きました。それ以外にも色々あるとは思いますが、パッと思いつくのはこれくらいです。

今の僕は一年後の僕の成長を見るのが楽しみです。

「^{きょねん}去年のまとめ」

まず^{だいいち}第一に、この^{じき}時期になると^{ぶんしゅう}文集を書くことになるので^{にっき}日記を買おうと^き決めました。ですが^{がつ}2月に^か買うと^{ちゅうとはんぱ}中途半端になってしまうと思い^{おも}四月に^か買うと^き決めたのが^{きょねん}去年の僕、そして^{いま}今、^{にっき}日記を買ってないことを^{おも}思い出した。

それが・・・
ことし ^{ぼく}今年の僕です。

という^い訳で^{わけ}去年の^{きょねん}記憶を^{きおく}引っ張り出します。クリスマス・^{ぼうねんかい}忘年会の^{とき}時はペーパーク
ラフトを^{つく}作り、^{たいかい}ピンゴ大会で^{いつ}五つ^{さんかしょう}リーチをしたにも^てかかわらず、^い参加賞しか^い手に入れ
ることが^{わらい}できませんでした。(笑)

^{うんどうかい}運動会は^{たぶん}スプーンリレー? ^{まいとし}だったはずです。多分・・・^{きおく}毎年やると^ま記憶が混ざ
って^{あきら}しまいます。なんだか^しんだで^{ごねん}四、五年いるので、^{あきら}しょうがないと諦めて^{あきら}スプーン
リレーの^{はなし}話に^{もと}戻ります。^お落としま^{ある}くりました。いやあ^{ある}スプーンにのせて^あ歩くだけなん
で、^{よゆう}余裕って^{おも}思っていたら、^て手は^{ふる}震えるは、^{ある}歩いたら^ゆ揺れるは、^あの^ゆてんやわんやでし
た。

あとは^{ことし}今年のことです。僕は^{ぼく}今年で^{こうこう}高校を^{そつぎょう}卒業します。とうとう^きここまで^き来たか
という^い感じです。くるかいに^き来て^{べんきょう}勉強をして、^{こうこう}高校に^い行き、とうとう^{そつぎょう}卒業です。ラス
ト^{おうえん}パートを^{うれ}応援してくれると^{うれ}嬉しいです。

^{ぴーえす} P S ^の ほめると^の伸びます。

^{ぴーえす} ※P Sとは^{ついしん}追伸の^い意味

はこだてえんゆうじゅく さんか
2) 函館遠友塾に参加して



はこだてえんゆうじゅくじゅくせい わかさぎ れいこ
函館遠友塾 塾生 若杉 れい子

ジッとしているのが苦手で、浅学多趣味の私は、四年程前、北海道新聞の夜間中学生募集の記事に飛びついた。午前中は卓球をしていたのでジャージ姿のまま、入学式に参加したら、新聞社が数社来て写真を撮ってくれた。その時の仲間七人と一緒にすまして、写真におさまった。皆勤賞があると聞いたので、「よし、それならば私でも」と張り切ったら、インフルエンザにかかり、すぐに挫折。

最初の社会の授業に感動した。その頃、“T P P”と良く耳にしていたが、何の事かさっぱりわからずにいたのに、その説明をわかりやすくしてくれた。もう忘れたけど、理科の授業では、豚の心臓が人間のものに一番似ていると、触らせてくれたのにはうれしくて。国語の時間は、毎回眼がキラキラに輝いているのではないかと、自分では思っている。英語はとても興味深いのに、さっぱり覚えられない。数学に至っては、答えは同じでも答を出すまでの過程が全く違う。孫が大きくなったら、一緒に勉強出来るかな。遠足も運動会も楽しかった。校外学習での一番の思い出は、家庭裁判所で裁判長役をしたことだ。黒い法衣を身にまとい、皆で裁判ゴッコ（模擬裁判）を体験した。

新型コロナウイルスが収束して、以前の生活に戻る日が一日も早く来ることを切に望む、遊び好きの私です。先生方、スタッフの皆様の御尽力には感謝しかありません。今後も、どうぞよろしくお願ひします。



3) 故郷

札幌遠友塾 2年 佐藤 千工

北海道開拓記念館が1971年4月に自然や歴史を学ぶこ

とができるようにと開館したと知りました。開拓と聞いて何かしら急に故郷を思い出しました。四方が山に囲まれている土地での稲作農業の生活です。

雪が消えて春風と共に山々も緑が深まってくると、農作業の始まりです。現在のよう
に機械などはなく、すべて人の手での仕事でした。一株一株植えた緑の苗の色が小さな
波となってなびいていました。夏には、七夕祭りや盆踊り、そして、川遊びと賑やかに、
のどかに過ぎた日々でした。そして、収穫の秋、たわわに実った稲穂が黄金色に広がっ
ていました。四方の山も紅葉に変わり、農家の庭の柿の実の色が夕日に映えて本当にきれ
いでした。

小学校には歩いて30分ぐらいの距離でした。道端の両側にはいろいろな草花が生
えていました。道草をしながら通学しました。今はすっかり変わり、小学校の跡地は別
の建物になっていました。

今はめったに帰らなくなった故郷。自分が生まれ育った土地には父母や家族と共に過ご
した懐かしい記憶、周囲の人々や友人との交わり、四季の風景、食べ物、と次から次へと
脳裏に浮かんでいきます。

でも、その思い出の中に残念なこともあります。戦争のため、男子が召集され、農家
の働き手が不足し、学童も毎日が手伝いと変わりました。この学校生活にもっと勉強
できたらと思っていました。

今、遠友塾で学ぶことの喜び、一方で、年齢と共に衰える思考力、記憶力、判断力、
行動力があります。でも先生とスタッフの皆様に優しく教えて頂き本当に感謝してお
ります。遠友塾は私の第二の故郷です。最高の故郷です。ありがとうございました。

だい ぶ さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく
第2部 札幌遠友塾自主夜間中学の

しゅうねんきねん
30周年記念

1. お祝いのことば

- 1) 発刊に寄せて (北海道教育委員会教育長)
- 2) 祝辞 (札幌市教育委員会教育長)
- 3) チャイムの音に想う (札幌市立向陵中学校校長)

2. 卒業生・スタッフ・賛助会員から

- 1) 私と遠友塾 (桑山玉枝)
- 2) 「じっくりクラス」の歩みと生徒さんとの出会いから
学んだこと (横山晴美)
- 3) 私と遠友塾 (坂本佳代)
- 4) 「中途半端な存在」として遠友塾に通うこと (植村友貴)
- 5) 札幌遠友塾での学び (長野琴音)
- 6) 遠友塾30周年に寄せて (佐藤友歌)

3. 遠友塾30周年に向けて「一言メッセージ」

4. 札幌遠友塾自主夜間中学30周年年表

5. 札幌遠友塾自主夜間中学受講生数の推移



1. お祝いのことば



1) 発行に寄せて

ほっかいどうきょういくいんかいきょういくちよう
北海道教育委員会教育長

こだま としひろ
小玉 俊宏

この度、札幌遠友塾自主夜間中学が、設立30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴塾におかれましては、北海道初の自主夜間中学として、平成2年の設立以来、生活に欠かすことのできない基礎的な学びを求め始める方をはじめ、義務教育の内容からの学び直しを希望する方などに対して、個に寄り添った学習機会を提供し、人生をより豊かにするための、様々な実践を積み重ねてこられましたことに、心から敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、先行きが不透明な社会情勢にあり、新しい生活様式などが求められる中、今こそ、自己の人格を磨き、未来に向かって豊かな人生を送ることができるよう、義務教育の目的である人格の完成を目指した基本的な資質を身に付けるという教育は、その年齢や国籍に関わりなく、極めて重要なことであると考えております。

このような中、貴塾が、様々な事情から学び直しを希望する方などを受け入れ、多くの志を持つスタッフによる学びの輪の中で、夢や希望をかなえるための教育の機会を、ボランティアとして長年に渡り、継続して提供されてきていることは、誠に意義深く、他の地域の自主夜間中学などに対しても大きな影響を与えていただいております、大変心強く感じております。

設立30周年を一つの節目とし、今後も、札幌遠友塾自主夜間中学の活動が受講生ひとりひとりの豊かな人生を送る一助となるよう御期待申し上げます。

むす 結びに、「^{まな}学びたい^{ひと}人が^い生きる^{あかし}ことの^{よるこ}証と^{みいだ}喜び^ばを見^な出^なせる^{たの}場、^{まな}仲間^{まな}とともに^{まな}楽しく^{まな}学^{まな}
^ばべる^{めざ}場^{せつりつじ}を^{せつりつじ}目指^{なが}す」とい^{まな}う^{まな}設^{まな}立^{まな}時^{まな}の^{まな}スロ^{まな}ー^{まな}ガ^{まな}ン^{まな}の^{まな}も^{まな}と、^{まな}長^{まな}き^{まな}に^{まな}わ^{まな}た^{まな}り、^{まな}学^{まな}び^{まな}の^{まな}場^{まな}を^{まな}提^{まな}供^{まな}さ^{まな}
^{まな}れ^{まな}て^{まな}き^{まな}ま^{まな}し^{まな}た^{まな}多^{まな}く^{まな}の^{まな}ス^{まな}タ^{まな}フ^{まな}や^{まな}ボ^{まな}ラ^{まな}ン^{まな}テ^{まな}ィ^{まな}ア^{まな}の^{まな}皆^{まな}様^{まな}に、^{まな}改^{まな}め^{まな}て^{まな}敬^{まな}意^{まな}を^{まな}表^{まな}し^{まな}ま^{まな}す^{まな}と^{まな}と^{まな}も^{まな}に、
^{まな}さ^{まな}っ^{まな}ほ^{まな}ろ^{まな}え^{まな}ん^{まな}ゆ^{まな}う^{まな}じ^{まな}ゆ^{まな}く^{まな}じ^{まな}し^{まな}ゆ^{まな}や^{まな}か^{まな}ん^{まな}ち^{まな}ゅう^{まな}が^{まな}く^{まな} い^{まな}っ^{まな}そ^{まな}う^{まな} こ^{まな}は^{まな}っ^{まな}て^{まな}ん^{まな} き^{まな}ね^{まな}ん^{まな}も^{まな}う^{まな} あ^{まな} ま^{まな}な^{まな} き^{まな}ょう^{まな}ゆう^{まな}
^{まな}札^{まな}幌^{まな}遠^{まな}友^{まな}塾^{まな}自^{まな}主^{まな}夜^{まな}間^{まな}中^{まな}学^{まな}の^{まな}一^{まな}層^{まな}の^{まな}御^{まな}発^{まな}展^{まな}を^{まな}祈^{まな}念^{まな}申^{まな}し^{まな}上^{まな}げ、^{まな}「^{まな}学^{まな}び^{まな}の^{まな}す^{まな}ば^{まな}ら^{まな}し^{まな}さ^{まな}」^{まな}を^{まな}共^{まな}有^{まな}
^{まな}す^{まな}る^{まな}記^{まな}念^{まな}誌^{まな}の^{まな}発^{まな}刊^{まな}に^{まな}寄^{まな}せ^{まな}る^{まな}言^{まな}葉^{まな}と^{まな}い^{まな}た^{まな}し^{まな}ま^{まな}す。



2) 祝 辞

さっぽろしきょういくいんかいきょういくちょう
札幌市教育委員会教育長

はせがわ まさひで
長谷川 雅英

このたび、札幌遠友塾自主夜間中学が設立30周年を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。ここにその永きにわたる足跡をたどり未来への礎とすべく「記念誌」を発刊されますことは、誠に意義深く、ご同慶に堪えませ

ん。
札幌遠友塾は、これまで「学びたい人が、生きることの証と喜びを見出せる場、仲間と共に楽しく学べる場」を目指し、年齢を問わず、自ら学ぶ意欲を持つ方々に対して、その学びの場を創出する活動を続けてこられました。途切れることなくこの記念すべき年を迎えられたことは、これまでボランティアとして塾活動を支えてこられた全てのスタッフの皆さまのご尽力の賜物であり、在籍されている塾生や卒業生の皆さまとともに、お喜びはひとしおのこととご拝察いたします。

札幌市では、札幌市教育振興基本計画に生涯学習環境・体制づくりを重点項目に掲げており、学ぶ意欲を持つ方々の環境が整うよう、学びの場の確保に向けた支援を行って参りました。札幌遠友塾のように、この学びの場を通じて、楽しい学びの「友」と出会い、互いに学び合い、より生き生きとした人生を送られることは、札幌市の目指す「生涯学習社会」の具現化された姿そのものであると考えております。

現在、札幌市においては、様々な事情から学齢期において十分に学ぶことができず、その後も学ぶ機会が得られなかった方々に対して、学び直しを保障する公立夜間中学の設立に向けて、準備を進めているところです。

この公立夜間中学につきましては、東北以北において初の設立となるため、30年の実績のある札幌遠友塾に、引き続き様々なお力添えをいただきながら、ともに連携する

ことで、札幌の新たな歩を進めて参りたいと考えております。

今年度においては、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態により、先を見通せない状況が続いております。このような大きな不安を抱える時代だからこそ、自ら学ぶ意欲を持った方々が生きる証として共に集う場となるよう、札幌遠友塾が一層大きな役割を果たすものと、期待しております。

また、今後とも札幌市の教育行政に御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、創立30周年という節目を契機として、今後も益々充実・発展されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

3) チャイムの音に想う



さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこうこうちょう
札幌市立向陵中学校校長

なかむら くにひこ
中村 邦彦

その瞬間のどよめきを忘れられません。

「この音・・・懐かしい・・・」中には、涙を流して、そうおっしゃる方もいました。

平成20年7月、試行的に初めて本校を会場に、遠友塾の方々が授業をされたときの一コマです。私は当時、教員として本校に勤務しており、佐藤信校長先生の命を受けて、チャイムを鳴らしました。遠友塾の生徒の皆さんは、大きな黒板とチョーク、机と椅子、掲示板・・・私たちにとっては当たり前前の設備に目を輝かせ、とても喜んでいらしゃったのですが、チャイムの音には想像以上の歓声が起こったことを今でもよく覚えています。

そしてそれ以上に圧倒されたのが、その後の授業に向かう真摯な姿勢です。ボランティアスタッフの皆さんの授業に目を輝かせ、圧倒的な集中力で、自ら学んでいく姿を目の当たりにして、学びの原点を思い起こさせていただきました。誰もが学ぶことが好きで、学びたいと願い、学びによって自ら成長していく実感を得たいと願っている。もし、今の子どもたちの中で、学ぼうとしない子どもがいるとしたら、それはその子の責任ではなく、その子の学びを支えてあげられなかった私たち教師の責任であると、遠友塾の皆様の学び姿を見て、改めて気付かされました。

生徒には、遠友塾の取り組みを紹介した番組「もう一度学びたい」を、道徳の時間に視聴させました。生徒たちは、社会の事情、家庭の事情などで学校に通うことができない人がいたこと、自分の祖父母の年齢くらいの方々も、もう一度学校で学びなおしたいと思っていることに率直に驚き、その学びへの情熱に感銘を受けていました。自分が当たり前前とと思っている環境が当たり前ではないことに気付くことで、平和であることの幸せ、

がっこう かよ しあわ かん まな いよく ま き えんゆうじゅく
学校に通えることの幸 せを感じ、学ぶことへの意欲が増したような気がします。遠友 塾
みなさま しんし まな すがた たし せいと き ひ
の皆様の真摯に学ぶ姿 は、確かに生徒たちのやる気に火をつけてくださいました。

えんゆうじゅく みなさま
遠友 塾の皆様からは、その後、子どもたち宛てに、教室を使わせていただいたお礼の
てがみ
お手紙をいただきました。廊下に掲示させていただきましたが、休み時間ごとに生徒たち
なが
がそれを眺めていたことを、寄贈いただいた「遠友だより」を拝見しながら、思い起こし
ました。

ねん こうちょう ほんこう もと えんゆうじゅく みなさま あ たの
11年ぶりに校長として本校に戻ってきて遠友 塾の皆様とお会いできるのが楽しみ
でしたが、このコロナ禍の中、それがかなわないことが残念です。30周年を皆様とと
よろこ
もに喜び、これまでのスタッフの皆様のご尽力に心から敬意を表するとともに、
しんがた かんせんしょう いっこく はや しゅうそく みなさま ほんこう まな
新型コロナウイルス感染症が一刻も早く終息し、皆様にまた本校で学んでいただける
ことを願っています。



2. 卒業生・スタッフ・賛助会員から



1) 私と遠友塾

くわやま たまえ
桑山 玉枝

札幌遠友塾の桑山玉枝です。私は昭和六年十月二十一日生まれです。私が二才の時に父が亡くなりました。そのために私たち兄妹はバラバラに親戚にあずけられました。私は母方の本家にあずけられ、物心ついたときはおばさんを本当の母と思っていました。

小学校に入る年の春に、風呂敷包みをもたされて生まれた家に戻されました。小学校に入るためでした。その時、母は再婚していて、女の子と男の子の二人の子供もおりました。何日かたって、家に大きな男の人がやって来ました。どこの人だろうと思っていたら子どもたちが「父ちゃんだ」と喜んで抱きついていきました。私には一言も声をかけてくれませんでした。仕事は船乗りで、しばらくぶりに帰ってきたらしいことが、母との会話からわかりました。その義父は二日家にただけで帰っていきました。

そのころから私も実家での生活に慣れてきて、子供たちとも遊ぶようになり、喧嘩をして泣かせることもありました。私が母のそばに行くことを邪魔する子供たちでした。母に甘えることもできない私は、母の目をぬすんで妹や弟をいじめることもありました。そんな時は和服の仕立てをしていた母にそばにある物差しでピシャリと叩かれました。あの痛さは今でも身に覚えています。時々帰ってくる義理の父にもずいぶん叩かれ、雪の中に投げ出されたこともありました。学校に行くようになっても家に帰るのが嫌で、遊びながら遅く帰るようになりました。

冬も終わりは春が来て二年生になるとき、私に子守りに来てほしいという話があると母から聞かされました。「田植えが終わったら迎えにゆくから」という母の話でした。行った先の農家は大きな家で、おじいさんとおばあさん、それに若夫婦と女の赤ちゃんがおりました。みんな優しい人たちでした。赤ちゃんの子守りをしながら、おばあさんにいろいろなことを教えてもらいました。〈編み物〉や〈お裁縫〉は教えてもらいましたが、〈文字の書き方〉だけは教えてもらえませんでした。今思うと、おばあさんもあまり字を書いていなかったように思います。田植えが終わっても迎えはきませんでした。私はここでずっと生活したいと思うようになっていました。

何年かすぎて私は十六才になっていました。戦争の終わった年でした。子守りをしていた赤ちゃんも小学校に上がる年になったので、私は実家に帰らなければならなくなりました。ここに来る前のことを思うと辛くなり、自然に涙がでてきました。そんな気持ちで帰った実家でしたが、母も義理の父も、妹も弟もみんな和やかに暮らしていました。義父も私に話しかけてくれます。私が「美味しい」といった魚をわざわざ買ってきてくれて「腹一杯食べ」と言ってくれました。以前の義父とは思えないやさしい義父になっていたのです。それなのに、私は一度もその義父に「父ちゃん」と言うことができませんでした。その義父が風邪をこじらせて昭和二十二年八月に亡くなりました。

それから一年ほどたってから、私は札幌に出ることになりました。母に話すと反対されました。札幌に行く当日の朝、「どうしても行くのかい？」と母が私に聞きました。母は悲しそうな顔で目に涙を浮かべて私を見ていました。玄関をでようとすると後ろから私を抱き締めてくれ「おまえの家はここなんだから、辛かったらいつでも帰っておいで。まっているから」と言ってくれました。その時私は初めて母に抱き締めてもらって母の温もりと、母の匂いを知りました。懐かしいあの時の匂いが今でも思い出されます。

札幌に出てからは、その母親の言葉を心の支えとして頑張ってきました。が、最初に働いた会社の寮も五年ほどで閉鎖になったので、札幌のススキノの飲食店に住み込みで働くことになりました。文字を読み書きできない私にはここしかありませんでした。

でも注文の数が違ったり、お勘定が合わなかったりすると、全部私が間違っただけに
されました。辛くてトイレで涙を流すこともありました。そんな時に、子守りをしてい
たところのおばあさんの言葉が思い出されました。

「女の子はいつも笑顔でなければ嫌われるよ」

そういえば、あのおばあさんはいつも笑顔でした。私もそれを見習っていこうと思いま
した。辛いこと悲しいことが沢山ありましたが、おばあさんと母の温もりを心に思っ
て働くことができました。

そうしているうちに、店に来てくださっていたお客様に結婚しようと言われました。
びっくりしました。彼は優しい方でした。何回も言われるので、私自身のことを全て話
しました。彼は黙って聞いてくれ、私は涙を流しながら話していました。

「わかった。俺にまかせろ」

と彼の家に連れて行かれました。彼のお母さんは私に

「あなたもいろいろ苦労しているよね」

「でも家の嫁にできません」

と言いました。彼はすぐに

「何故だ！」

と言いました。

「教育を受けていないあなたに、子供なんて育てられるわけ、ないでしょ！」

私はあまりの言葉に涙も出ませんでした。夢中で彼の家をとびだしてしまいました。気がつ
いたら靴も履かないまま、街を歩いていました。

教育を受けさせてくれなかった義父と母を恨みました。せめて顔を知らない本当の父
が生きていれば・・・とも思いました。彼は「家を出るので一緒に暮らそう」と言ってく
れましたが、私はそれを断りました。それ以来、結婚しようとは思わなくなりました。

私はそのとき二十九才でした。

そんなことがあったので、お店を変わることにしました。前のお店は住み込みだったの

で、新しく部屋も借りました。新しいお店では毎日忙しく、慣れない私には大変でしたが、仲間の方たちが親切に教えてくれるので私は感謝しながら楽しく働くことができました。少しずつ仕事にもなれてくると、昼の時間が勿体なく思えてきました。この時間を使って勉強したいと思って知り合いに相談しました。適当なところが見つかるまでという約束で、昼に働くお店を紹介されました。

昼も夜も働く毎日でした。毎日忙しく働いていて、気がついたら私も五十才を過ぎていました。そろそろ仕事をやめようかと考え店長に話しました。そしたら五十五才まで働けば厚生年金がもらえるので、それまで働くようにすすめられました。お店は会社組織になっていて、厚生年金に加入していたのです。私はすすめられるまま六十才まで働きました。

お店を辞めるので厚生年金をいただく手続きをしなければなりません。その手続きには、私が字を書けないことを知っている店長が「長いこと働いてくれてありがとう」と言っていてきてくれました。店長の親切には心から感謝しました。が、字を書けない自分を情けなく思いました。そしてますます勉強したいと強く思いました。これからは私の時間です。学校に行こうと決めました。

家の近くの小学校に行き、校長先生に「掃除でも何でもさせてください。お金はいりません。その代わりに一年生と一緒に国語のときだけ勉強させてください」

とお願いました。校長先生は教育委員会にも聞いてくれたのですが、だめでした。私は小学校に入るために決められた年があるとは知りませんでした。何回も校長先生にお願いしたのですが、無理でした。お友だちにも事情を話して、字を覚えたいので勉強を教えてくれるところはないかとたずねました。お友だちは高校の校長先生をしているご主人に私のことを話してみると言ってくれました。待っていると電話が来ました。うれしい連絡でした。市民会館で週一回、水曜の夜に開いている学校がありました。遠友塾という名前の学校でした。教えられた電話番号にすぐ連絡しました。すると水曜の夜

く 来るように言われました。と あ 飛び上がるほどのうれしさでした。へいせいじゅういちねんろくがつなか 平成十一年六月中ごろ
のことです。えんゆうじゅく にゅうがく しがつ にゅうがく し き 遠友塾の入学は四月なので入学の時期はもう過ぎていましたが、わたし
こでも 断られたら すわ こ 座り込みをしてでも ぜったいい 絶対入れてもらおうと思っていました。

えんゆうじゅく さいしよ じゅぎょう ざん 遠友塾にきて、最初の授業は〈かけ算〉でした。それまで〈たし算〉しか知らなかった私
は〈かけ算〉とは何か 全 く わかりませんでした。こくばん まえ せんせい とは別に、スタッフの人
が ぼろ おし 傍で教えてくれるのですが あたま はい 頭に入りませんでした。えいご おな 英語も同じでした。こくご おな 国語も同じよ
うなものでしたが、ひらがなやカタカナは読めたので、少しはわかりました。わたし も 読め
るものがあると思うと、わくわくしました。

でも なつやす み が 終わったところから、その日は分かったと思ったことが、つぎ ひ おぼ 次日は覚えていな
いということが つづ 続きました。おぼ 覚えられない自分が じぶん なさ 情けなくて、自宅の窓から見える藻岩山
にむかって、なんど なみだ なが 何度も涙を流しました。スタッフの横山さんに や 辞めようかと そうだん 相談もしまし
た。「もう少し がんば 頑張って」と はげ 励まされて、き と 気を取りなおしました。なみだ なが 涙を流すこともありま
したが、すいようび 水曜日になると しぜん 自然と したく 支度をして 教室に向かっていたのは、自分でも じぶん ふしぎ な 不思議な気
がします。そういうことを なんど 何度もくりかえしました。

あき 秋になって う まれて はじ めて、がっこう えんそく さんが 学校の遠足に参加しました。ゆ さき ほくだい しょくぶつえん 行き先は北大の植 物園でし
た。みんなで べんとう た 弁当を食べて、ゲームをしました。こども おおこえ さわ 子供のように大声で騒ぎました。お腹
のそこ から わら っ て、たの しい 一日でした。

に がつき お 二学期の終わりは、クリスマス・ぼうねんかい 忘年会です。それぞれの学年が 出し物 を します。わたし
も うた おど り 踊りました。楽しかったです。

おぼ 覚えられないことも 多 かったのですが、えいご あいさつ 英語で挨拶することも 少 しく つわ かってきまし
た。「グッド・モーニング」「ハウ・アー・ユー」。書 く ことはできなくても、はな 話すことがで
きて えいご じかん たの 英語の時間が 楽 になりました。こうして わたし えんゆうじゅく にねんせい さんねんせい す
いきました。もうすぐ そつぎょう 卒業だというときに、テレビ局の 取材 申し込みがありました。テ
レビに うつ 映されながら う まれて はじ めて そつぎょうしょうしょ 卒業証書をいただきました。その時は ことば で 言葉が出ない

ほど感激^{かんげき}しました。

卒業^{そつぎょう}しても、もっと勉強^{べんきょう}がしたかったので、一年生^{いちねんせい}にもどることにしました。ちょうどその年^{とし}から、ひとり一人^{ひとり}の希望^{きぼう}に合わせて勉強^{べんきょう}できる「じっくりコース」が始まり^{はじ}ました。私は^{わたし}やっぱり国語^{こくご}が勉強^{べんきょう}したかったのです。それで「じっくりコース」に入って勉強^{べんきょう}することにしました。私の^{わたし}担当^{たんとう}は安藤^{あんどう}トシ子^こ先生^{せんせい}でした。今^{いま}、先生^{せんせい}からいただいた手紙^{てがみ}を少し^{すこ}よ読んでみます。

今日^{きょう}で一学期^{いちがっき}が終わり^{おわ}ります。その成果^{せいこ}は？

- ① 短編^{たんべん}を三編^{さんべん}、読み通^よしました。内容^{ないよう}も、充分^{じゅうぶん}把握^{はあく}した様子^{ようす}です。
- ② 忙しい^{いそが}日もあった様^ひですが、とにかく^{よう}一日一文^{いちにちいちぶん}を書き続^かけました。お天気^{てんき}のこと、自分^{じぶん}がした事^{こと}、お友達^{ともだち}の事^{こと}、本^{ほん}を読^よんだ感想^{かんそう}、等々^{などなど}。

うれしかったです。私^{わたし}が勝手^{かって}に決^きめた事^{こと}を、ちゃんと実行^{じっこう}してくださいました。

たいへん^{たいへん}どりよく^{どりよく}おも^{おも}大変な努力^{おんり}をなさったと思います。

たいそう^{たいそう}じかん^{じかん}をおも^{おも}大層な時間^{おんじかん}をかけたと思います。

もの^{もの}がたり^{がたり}よ^よこえ^{こえ}はじ^{はじ}ころ^{ころ}かる^{かる}物語^{ものがたり}を読^よむ声^{こゑ}が初^{はじ}めの頃^{ころ}より軽^{かる}くなりました。

か^かぶん^{ぶん}すこ^{すこ}へんけい^{へんけい}して、てんこう^{てんこう}か^かうつ^{うつ}書く文^{ぶん}が少し^{すこ}ずつ変形^{へんけい}して、天候^{てんこう}ひとつ書く^かにしても、いろいろ^{ひょうげん}な表現^{ひょうげん}をする様^{よう}になりました。書^かいている字^じが軟^{やわ}らかくなりました。書^かき慣^なれてきたのでし^しょう。

なに^{なに}よ^よため^{ため}わた^{わた}はなし^{はなし}さんべん^{さんべん}ぜんぶ^{ぜんぶ}に^にど^どか^かうつ^{うつ}何^{なに}しろ読^よむ為^{ため}に渡^{わた}した「お話^{はなし}」三編^{さんべん}を、全部^{ぜんぶ}二度^{にど}ずつ書^かき写^{うつ}したのですもの。びっくり^{びっくり}しました。感心^{かんしん}しました。努力^{どりよく}は裏切^{うらぎ}らないのですね。夏休^{なつやす}みにまたあたら^{またあたら}しくさんべん^{さんべん}よ^よに^にがっき^{がっき}、それ^{それ}をよ^よき聞^きかせて下^{くだ}さい。楽^{たの}しみにして^しています。

てがみ^{てがみ}をいただ^{いただ}いて、わたし^{わたし}のこ^こをこ^こんなにもおも^{おも}って^{って}い^いて^てくだ^{くだ}さ^さったのか^{のか}と思^{おも}うと、なみだ^{なみだ}がで^でるほ^ほどうれ^れしか^かた^たです。あんどうせんせい^{あんどうせんせい}はげ^{はげ}う^うを受け^けながら、いちにちいちぶん^{いちにちいちぶん}か^かで^でるほ^ほどうれ^れしか^かた^たです。安藤先生^{あんどうせんせい}の励^{はげ}まし^{まし}を受け^けながら、一日一文^{いちにちいちぶん}を書^かくこ^こと^とで

国語辞典を引けるようになりました。またわかりやすく文を書くために、いろいろと気を付けるようになりました。そして字を書くことがとても楽しくなりました。国語だけは「じっくりコース」で勉強しましたが、他の教科は一年生と一緒に勉強しました。二回目の一年生でしたが、あまりよく覚えられませんでした。

ずっと安藤先生に教えていただきたかったのですが、都合で先生が遠友塾をお辞めになりました。それで私は次の年から一年生の一斉授業を受けることにしました。国語はなんとかついていけましたが、他の教科はそうはいきません。特に数学はなかなか理解できませんでした。今は電卓という便利な物もあるので、答を出すことはできます。でも私が知りたいのはどうしてその答になるのかということでした。その事を考えている間に、授業は進んでしまいます。これではいつまでもわからないままで終わってしまうと思うとどうしていいのか分からず、あんなに好きだった遠友塾に行く足も鈍ってしまいました。それが去年の三学期のことです。私が休んでいるのを心配して、スタッフの方が何人か電話をくださいました。私のような者を心配してしてくれたのかと思うと、申し訳なく思いました。それに、七年も通いながら何も身に付いていない自分にも腹が立ちました。思い直して一からやり直そうと決心しました。全部の教科を「じっくりコース」で勉強することにしました。

「じっくりコース」では、ひとつ一つていねいに細かく教えてもらい、安心しておぼえられるようになりました。今ではゼロのかけ算も分かるようになってきました。ちょっと見ると難しい漢字も、いろいろな漢字の組み合わせで出来ていることにも気がつきました。安藤先生のおっしゃった「努力は裏切らない」というのは本当のことでした。

私は今まで、テレビに出たり、人権救済の申し立てで自分のことを話したりしてきました。それはこれまでの自分の生き方を少しも恥ずかしいと思っていないからです。一生懸命に生きてきたと自信をもって言えます。でもそれだけではありません。私のように学校に行けなかった人が他にもいると思うので、その方々に遠友塾のような学校が

あることを知^しってほしかったのです。今^{いま}の私^{わたし}のように、楽^{たの}しく勉^{べん}強^{きょう}できる場^ば所^{しょ}がたくさ
んあればよいと思^{おも}ったからです。

私^{わたし}はこれからも、ず^{えん}とず^{ゆう}と遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく}で勉^{べん}強^{きょう}をつづけていきます。

(注) 桑^{くわ}山^{やま}さんは、1999年^{ねん}6月^{がつ}に68歳^{さい}で遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく}に入学^{にゅうがく}し、卒業^{そつぎょう}後も「じっくり
クラス」で学^{まな}びつづ^{つづ}け、2015年^{ねん}3月^{がつ}に体^{たい}調^{じょう}によりやむなく退^{たい}塾^{じゅく}され、2020年^{ねん}4月^{がつ}お亡^な
くなりになりました。2003年^{ねん}に全^{ぜん}国^{こく}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}校^{がう}研^{けん}究^{きゅう}会^{かい}は、日^に本^{ほん}弁^{べん}護^ご士^し連^{れん}合^{ごう}会^{かい}に人^{じん}権^{けん}
救^{きゅう}済^{さい}の申^{もう}し立^たてを^{おこな}行^{くわ}い、桑^{くわ}山^{やま}さんを含^{ふく}む3名^{めい}の遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく}受^{じゅ}講^{こう}生^{せい}が弁^{べん}護^ご士^しの聞^き取^とりにより、
作^{さく}文^{ぶん}を提^{てい}出^{しゅつ}しました。2006年^{ねん}日^に本^{ほん}弁^{べん}護^ご士^し連^{れん}合^{ごう}会^{かい}は、政^{せい}府^ふに「教^{きょう}育^{いく}を受^うける権^{けん}利^りの保^ほ障^{しょう}」
に關^{かん}する意^い見^{けん}書^{しょ}を提^{てい}出^{しゅつ}しました。同^{どう}年^{ねん}12月^{がつ}7日^{にち}、東^{とう}京^{きょう}都^と世^せ田^た谷^や区^く砧^{さか}会^{かい}館^{くわん}で開^{ひら}かれた第^{だい}
52回^{かい}全^{ぜん}国^{こく}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}校^{がう}研^{けん}究^{きゅう}大^{たい}会^{かい}で、桑^{くわ}山^{やま}さんはん^{はん}と^{とし}し^し半年^{べん}か^かけて弁^{べん}護^ご士^しによる聞^き取^とり作^{さく}文^{ぶん}を、
ス^てタ^かフ^かの手^てを借^{ぜん}りて全^{ぜん}面^{めん}的^{てき}に改^{あらた}め、大^{たい}会^{かい}史^し上^{じょう}初^{はじ}め^めて自^じ主^{しゅ}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}の生^{せい}徒^とが体^{たい}験^{けん}発^{はつ}表^{ひょう}
を^{おこな}行^{くわ}いました。(それ^{それ}ま^まで^では公^{こう}立^{りつ}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}校^{がう}の生^{せい}徒^との^みの^みの^み発^{はつ}表^{ひょう}で^{した}。)

あ^あひ^ひく^くわ^わや^やま^まさん^{さん}を^し思^しふ^ふた^ため、こ^この^{さく}作^{ひん}を^{さつ}ほ^ぼる^{えん}ゆ^{ゆう}じゅ^くく^く 30周^{しゅう}年^{ねん}の^き念^{ねん}碑^ひと^{して}、収^{しゅう}録^{ろく}
し^ます。

く^くど^どう^うけ^けい^いち^ち
(工^工藤^藤慶^慶一^一)



2) 「じっくりクラス」の歩みと生徒さんとの 出会いから学んだこと

さっぽろえんゆうじゅく 札幌遠友塾 スタッフ
よこやま はるみ 横山 晴美

かいこう すうねん 開校から10数年「じっくりクラス」はなかった。なぜ
このクラスをつくったのか。「じっくりクラス」が今の形

になるまでの歩みを振り返ってみたい。

<遠友塾の開校からじっくりクラスをつくるまで>

しんぶん じしゅ やか かんちゅうがく せつりつじゅんびかい よ きじ けいさい
新聞に自主夜間中学設立準備会の呼びかけ記事が掲載される。

- ◆1989.10.14 第1回 設立準備会が開かれる。
- ◆1990.1.30 第2回 設立準備会で4月開講、5月から授業開始を決定。とりあえず
教室を週1回3ヵ月分確保する。授業は国語系（社会科を含む）と数学系（理科を
含む）を6回ずつ。賛助会員募集の準備を始める。
- ◆1990.2.26 第3回 設立準備会 どんな人が何人くらい来るか見当がつかない。
20人くらい集まったらいいねと話していたのだが…。
- ◆1990.3.25 新聞に自主夜間中学開講の記事が掲載される。問い合わせが殺到し、
入学希望者が100名を超える。
- ◆1990.4.29 遠友塾設立集会 入学希望者75名。スタッフ希望者29名。50代～
70代の女性が多く、戦中戦後の混乱や貧困・差別・病気等で学心権利を奪われてき
た人、不登校で形式卒業した若者など多様な人が集まる。英語(ABC)を学びたいと
いう声が多く、教材に加えることにする。
あまりにも人数が多すぎて、1人1人の状況が全く把握できなかった。学習歴や
学びたい内容が違いすぎて、どこに焦点をあてた授業をしたらいいのかわからず、
授業の内容や教材が生徒さんの求めるものと合っていなかった。授業を担当するス

スタッフも自分の持っている知識を教えたい人が多く、生徒さんのわからない辛さがわからなかった。スタッフの考え方がばらばらで、コミュニケーションが上手く取れず、しばらく遠友塾の目指す方向が見えず混乱していた。

その後スタッフは経験や失敗を重ね、少しずつ力をつけていったが、基礎からの学びを求めて来た人たちは、授業の内容やスピードについていけず、黙って遠友塾を去って行った。

“このままでいいのか？自分がここですべきことは何か？ひらがなや数から学びたい人が、自分のペースでじっくり学べる場を作りたい！”

思いはどんどん強くなっていったが、実現まで多くの時間が必要だった。

じっくりクラスを作ろうと思うきっかけとなった1期生の生徒さんがいる。振り返ってみると、彼女との出会いから学んだことが多い。

Tさんの悲痛な叫び（1期入学 40代 94年卒業）

アイヌ民族の親の元に生まれ、言葉や暴力による虐待を受けながら育つ。学校でもいじめにあい、常に緊張と劣等感を抱え孤独に生きてきた。

「愛された経験がないから、人にどう優しくしたらいいかわからない。」

• 虐待や差別がもたらす心の傷の深さを知る。親でなくとも、自分を受けとめ、見守ってくれる誰かが必要なのだと知る。

• Tさんは何事も丁寧で全力投球。目の前の事に一生懸命になり、作業に時間がかかって、まわりとペースが合わなかった。

→1人1人、理解に必要な時間や学び方が違う。速いことがいいのではない。その人の持つ時間を大切にしなければならないことを学ぶ。

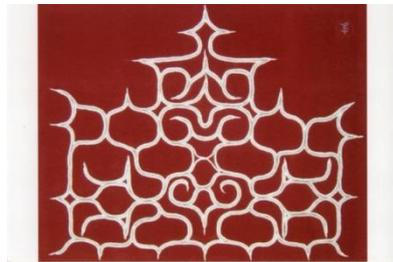
• 学びの主役は生徒さん。生きてきた中で受けてきた心の傷は、自分の力で向き合いい、越えていくしかない。スタッフができるのは、その人の持つ力を信じて、大丈夫

だよと声をかけながら見守ること。

- 私は1人の生徒さんと丁寧に向き合うことを大切にしたい。→1人が解放されていけば、出会った人たちも解放され元気になっていく。

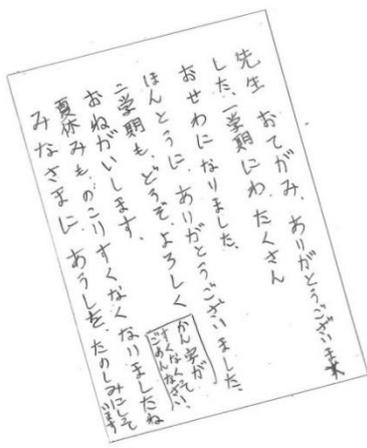
挑戦と挫折を繰り返して、Tさんは2003年秋、アイヌ刺繍の世界と出会う。

「アイヌ民族のもつ文化がこんなに素晴らしいものだと知って、初めてアイヌである自分にも誇りがもてた。今が本当に幸せ！」

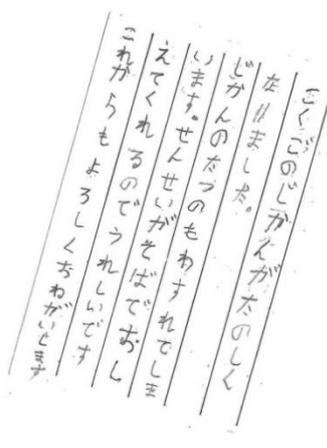


Tさんの作品

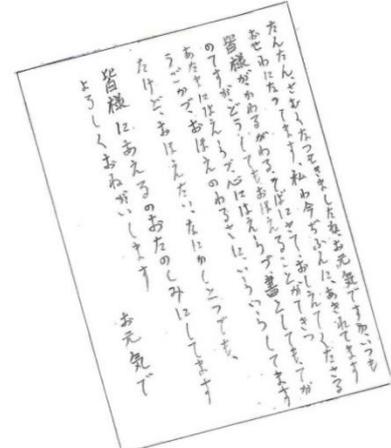
担当したクラスの中で、特に7期生は人数が多く、ひらがなからの勉強が必要な方が多かった。釧路から通うYさんご夫婦は、家族やスタッフ、仲間の励ましで、何とか卒業までたどり着けたが、遠友塾の授業は二人が学びたい内容とはかけ離れていた。そして、ひらがながやっとのSさん・Kさんが1年で遠友塾を去っていった。



Yさん (7期生)



Sさん (7期生)



KTさん (10期生)

「自主夜中なのに、どうして私たちに合わせてゆっくり進んでくれないの？」

アンケートに書かれた言葉が胸に重く響く。

そしてまた、切実な思いで学びの場を求めて遠友塾にたどり着いた人が

「ここは自分の来るべきところではなかった。」そう言って去って行った。

“もうこれ以上待たせるわけにはいかない！”

同じ考えを持つ仲間と、個別学習を中心とするクラスを作る準備を始め、2002年に

学習会を立ち上げる。

自分の名前が書けなかったOさん(67歳)と出会う

「義兄を人間らしく死なせたい。」という義妹さんの言葉が胸に突き刺さる。

Oさんと向き合いながら、できるところからやっていく決心をする

<じっくりコースからじっくりクラスへの歩み>

★2003年 じっくりコースとして、生徒さん3人からスタート。

1年生の教室の後ろで、国・数の個別授業を始める。学年所属は1年生。

英・社は1年生の授業に参加。

Oさん(国・数・途中から英語も個別) Hさん(2003年卒業。国・数)

K Tさん(99年入学、2003年卒業。国語のみ個別)

★2004年 別教室を確保。H R、社会、英語は1年生の教室に移動。5人

Oさん(国・数・英) T Sさん(国・数) K Sさん(数)

S子さん(95年入学 国・数)

F子さん(2000年入学 1年を4回繰りかえす。国・数・英)

★2005年 じっくりコースの英語を始める。 生徒さん3人→5人

Oさん(国・数・英) T Sさん(国・数) F子さん(国・数・英)

T Tさん(1学期後半に1年生からじっくりコースへ 国・数・英)

K Tさん(3学期に1年生から再びじっくりコースへ 国・数・英)

じっくりコースを作って、授業についていけず、やめていく人がいなくなったのが一番うれしかった。個別に生徒さんとじっくり向き合うことによって、何につまずき、何を求めているのかが少しずつ見えるようになってきた。何より1人1人に合わせた教材や進め方でじっくり勉強ができるようになって、生徒さんの学習意欲が高まった。

「おれ、ここに来て良かったと思うよ。」 Oさん

「以前は何を勉強しているのかわからないまま、ただ座っているだけで

辛かったけど、今は自分に合った勉強ができるから楽しい！」 F子さん



TSさん国語の時間に

Oさん初めての年賀状(2005年)

Oさん国語の時間に

★2006年 じっくりクラスとして独立する!

国・数は個別授業。社会科・英語は月に1回一緒に。時間割は独自に作る。

特別授業を年に数回行う。(作文の発表会、理科の授業、数学の重さの授業

胎児性水俣病患者さんとの交流会など) 忘年会デビュー!

授業担当者は学期ごとに、学習の目標や内容、生徒さんの様子を「ふりかえり」と

してまとめ、それを見ながらクラス会議で話し合う。これは現在も続いている。会議の後

は交流会。教材を作り、個別授業を担当するのは孤独な作業。一人で抱え込まないよ

うに、スタッフ間のコミュニケーションを大切にしようと思っ掛けた。教科では、数学を

担当することへの不安をもつスタッフが多かった。数学部会の協力を得て、スタッフの

ための学習会が開かれ、数学を学び直すことができた。

2009年度 国語を中心に学びたい人は、数学の時間も国語を勉強。

みんなで書道(1月) → その後毎年続いている。

じっくりクラスから初めての卒業生 OHさん 卒業文集作成2013年度

TKさん 卒業して定時制高校へ進学する。



2006年 KTさんが自分史を書き上げ、全国夜間中学研究大会で発表

→ 自分にも書きたいことがある。自分も書けるかもしれない。KTさんの書いた文章が仲間の心を揺さぶり、次々と自分史を書き始める。書いたり、語ったりする苦しい作業を通して、自分の歩んできた人生を見つめ直し、問い返し、色々なことに気づいて変わっていく。

「書くうちに背負ってきた重い荷物(おもいにもつ)が少し軽くなった。人生を書いただけなのに、新しい人生の扉(しんせい とびら)が開いたような気がする。」 S子さん

◆ じっくりクラスで新しい挑戦を続け、大きく変わっていったF子さん

「生きてきてよかった。今が生きてきた中でいちばん幸せだ。」

長い間、自分のことを語らず、本心をあまり人に見せなかった。忘年会の出し物(英語劇)の主役に挑戦し大活躍!その後、大好きだったヘルパーさんが亡くなり、感謝の思いを伝えたくて手紙を書くことに挑戦する。書けないと思っていた手紙が書いて自信がつき、今まで書きたかった人に次々と手紙を出し、うれしい返事が届く。その頃、市民会館が耐震工事で使えなくなるため、教室確保の運動を始めていた。

「自分のように学びの場を必要としている人たちのために、私も何かできることをしたい!」

自分の生い立ちを語り始め、自分史を書き上げる。(2008年1月) → 作文の発表会の場面がTVで放映され、夜間中学に通う仲間から手紙や温かいメッセージがたくさん届く。→ いのちの電話の会報に作文が載る。→ 義務教育等学習機会充実に向けた国会院内集会で体験発表をする。

◆ 心に残る若い生徒さんがいる。人と視線を合わせられず、いつもマスクをかけていた。

高校を出ていて計算はできるが意味がわからないので、初めから勉強して、わかったという実感がほしいと言われる。私自身も

「そういうものだ。」とやり方だけを覚え、何も理解していなかったことに気づく。たしざん・ひきざんの意味から勉強し、彼女と一緒に学び直していった。どうしたら彼女の心に届く授業ができるかいっぱい悩んだが、とても楽しい時間だった。

→ 生徒さんと向き合うためには、自分が学校教育の中で覚えたことを一度捨て、もう一度組み直していくこと。そして、その人が日常の中で思い続けている切実なことに迫れる、力を持った教材作りが大切だと彼女が教えてくれた。

83歳からじっくりクラスで学び始めたIさん

「字が読めないことを隠して生きてきた。自分が生きてきことの意味をずっと探してきた。残りの人生を、自分のできることをして、人を幸せにするために生きたい。」

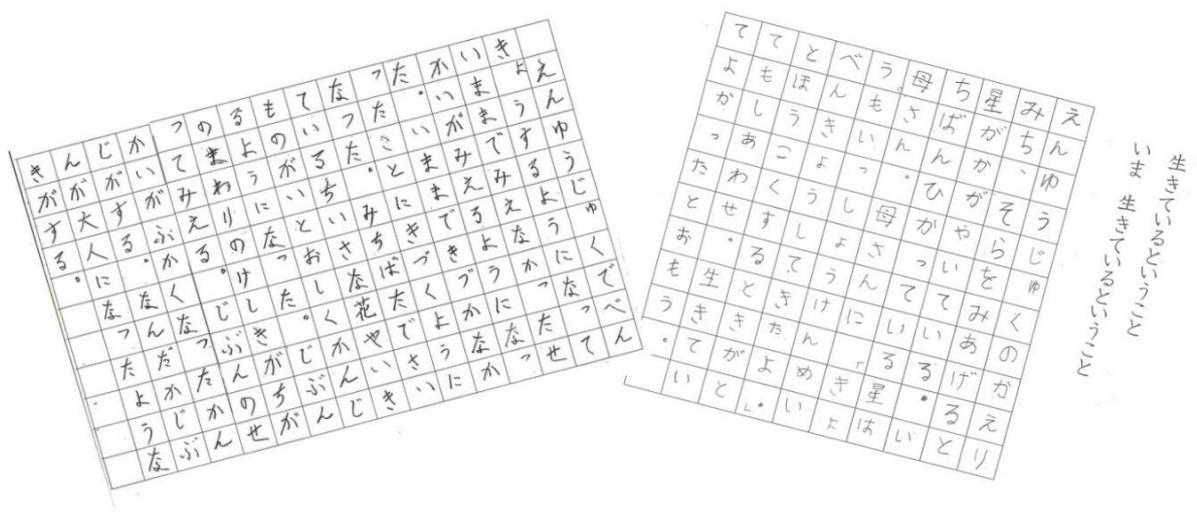
人生の大先輩に言われた厳しい言葉が心に残っている。

「聞こえないこと、文字が読めない辛さをもっとわかってほしい！」

私達は生徒さんの気持ちをわかったつもりになり、本人の意思をきちんと確認せずに行動してはいないだろうか？ → 異なる歴史や文化を持つ多様な人たちが、ぶつかり合い、折り合いをつけながら、お互いに理解し成長していく場が夜間中学。失敗から学び、相手への想像力を深めていきたい。

“ 生きることは学ぶこと、学ぶことは生きること。”

そう教えてくれたのは、遠友塾の生徒さん。じっくりクラスはそれぞれの人生が響き合って、深く温かな音楽に包まれていた。ここでの出会いが私の人生を豊かにしてくれた。出会ったすべての方々に“ありがとう”と伝えたい。これからも生徒さんとペースに合わせ、光や風を感じながら、大丈夫だよと声をかけ、一緒に歩む伴走者でありたいと思う。



Iさん 金子みすずの詩を読んで

F子さん 谷川俊太郎の「生きる」を読んで

3) 私と遠友塾



札幌遠友塾スタッフ 坂本 佳代

私と遠友塾との出会いは、1枚の新聞記事でした。その記事には遠友塾のことが書かれており、ここで自分自身を成長させる学びができればと考え、スタッフとなりました。

詳しい説明を受けた時に1番印象的だったことは、遠友塾が1990年4月に創立したということで、自分の生まれた年から続いているのかと、その歴史の長さには驚かされました。

学ぶこと・気付かされることも多く、特に①ふり仮名の大切さ、②「学ぶことは生きること」ということを、改めて認識させられました。

①については、私が初めて受講生さんに配布するプリントを作成した時のことです。

下書きを担当スタッフに提出した後で、印刷されたものを見て驚いたことは、全ての漢字にふり仮名が振られていたことです。

盲点だったと反省すると同時に、この経験からどんなに小さなことでも、常に受講生さん目線で授業づくりを行うことの大切さを学びました。

②については受講生さんの様子です。毎週水曜日、悪天候の日もある中一生懸命に通われ、授業もキラキラした眼で熱心に受けている姿を見ると、教育の力の大きさ、勉強できることのありがたみを感じます。

また、私は社会科のスタッフに所属していますが、まだまだ未熟な部分もあるため、今後は今まで以上に、受講生さんに興味・関心を持ってもらえる授業を行いたいと思

います。

そして遠友塾に来てから、私の人生も変わりました。なぜならあるスタッフからの誘いで、現在勤務している学校での採用に繋がったからです。

人の縁は不思議なものだと思いつつ同時に、ここに集まる全ての受講生さん・スタッフから、私は「生きることの大切さ」について学んでいるのだと考えています。

現在札幌に、公立夜間中学の設置計画が進められています。自主と公立、私は「どちらが」ではなく「どちらも」大切だと考えています。

「学びを求める全ての人に扉を開く」という考えこそ、教育の原点だと思うからです。

これからも学びを求める多くの人々にとって、遠友塾が光となるよう、私もスタッフの一員として日々精進したいと思います。

遠友塾創立30周年おめでとうございます。



4) 「中途半端な存在」として遠友塾に

かよ
通うこと



えんゆうじゅく 遠友塾 スタッフ
うえむら ゆうき 植村 友貴

なのは～なばたけ～に いり～ひうすれ～ みわた～すやまの～は か～すみふかし～
「菜の花 畠 に、入日薄れ、見渡す山の端、霞 深し」。

さくねん がつようか わたし はじ えんゆうじゅく おとす ひ かい うた おほろつきよ
昨年の5月8日、私が初めて遠友塾を訪れた日のはじまりの会の歌は、「朧月夜」で
した。初めて接する「遠友塾」という雰囲気に緊張しながらも、皆さんの歌声の温か
さに、心が解きほぐされていくような気持ちになったことを覚えています。その後、じっ
くりクラスのスタッフをさせていただくようになり、早1年半が経ちます。

「スタッフ」と書きましたが、私はこの1年半、スタッフとしてほとんど何もできず
に時間が過ぎてしまったような気がします。受講生さんのサポートに付いても、あわあわ
して上手く説明できなかったり、受講生さんに出された宿題を自分もやるのだと勘違い
してやってきたり、「私は果たしてスタッフと言えるのだろうか…。いったい何がしたく
て遠友塾に通っているのだろうか…」とモヤモヤしながら、「中途半端な存在」として遠友
塾に足を運んでいました。

この原稿を書くにあたり、遠友塾に通うなかで心に残ったことを思い返しなが
ら、そもそも立場にこだわること自体が間違っていたのかなと思うようになりました。私が好
きだったのは、立場の垣根を越えて、みんなで補い合いながら「学ぶ」をつくる遠友塾
であり、そういう場だからこそ生まれる、ふとした学びの瞬間や心を揺さぶられる瞬間、
そして、様々な違いを包摂し包み込んでくれるような温かさだったからです。じっくり
クラスに入ってから、「勉強」だけでなく、受講生さん1人ひとりの「日々の暮らし」に
寄り添ってサポートするスタッフさんたちの姿を見てきました。その姿を見る度に、
「遠友塾ってなんなんだろう。」と、心が洗われるような不思議な感覚を覚えました。は
じまりの会で『知床旅情』を歌った日には、和人の目線でアイヌが描かれた歌詞を見て、

アイヌの人たちがどんな気持ちを抱くのか、ある受講生さんの言葉を聞いて初めて思い至りました。漢字の読み書きを十分に学ぶ機会がなかったために社会生活の中で理不尽な状況を強いられている人がいるということを目の当たりにした時には、どうしようもなく「社会」というものが腹立たしく、同時に、その一員である自分もが憎らしく思えました。ある日のホームルームで、手話と口語を織り交ぜた詩の朗読に皆で耳を澄ませていた時、ふと「この場所は、ここにいる1人ひとりにとって、とても大切な場所なんだな」ということが伝わってきて、泣きそうになったこともありました。私は、遠友塾の歴史のほんの一部しか知りません。それでも時折、ここに集まってきた人たちが積み重ねてきた大切な時間が教室の中に滲み出て、それを感じずにはいられない時があります。

他者の人生や異論に耳を傾け、理解し合おうと努力すること。人が人と生きるうえでもっとも大切なことをないがしろにするような空気が蔓延る今の社会の中で、様々な背景や思いを抱えた人たちが集い、学び合う遠友塾という場は、何かとても大切なことを私たちに教えてくれているような気がします。

最後に少し話が変わりますが…。私は、自宅からアルバイト先に向かうとき、いつも向陵中学校の前を通ります。新型コロナウイルスの影響が出始めてから、向陵中学校のあの玄関と遠友塾の看板を見る度に、毎週水曜日の夕方の風景を思い出していました。夕闇が迫る頃、遠友塾に通う人たちにとって、あの玄関の灯りの下で、「くんばんは」を交わし合うひとは、大切な「いつもの風景」だったのではないかと思います。今、この原稿を書きながら、あの「いつもの風景」が早く戻ってきてほしいなあと思うと同時に、あの風景は最初からあったわけではなく、この30年、それぞれの立場で遠友塾の灯りをともし続けてきてくださった方々がいたからこそそのものなのだと、改めて感じています。

これからも、様々な事情や思いを胸に、遠友塾に辿り着く人たちがいる限り、その灯りが途絶えることのないよう、「中途半端な」私なりにできることを探していけたらいいなと思っています。30周年、本当におめでとうございます。

5) 札幌遠友塾での学び



さっぽろえんゆうじゅく まな
札幌遠友塾 スタッフ 長野 琴音

わたし えんゆうじゅく し だいがく じゅぎょう だいがく じゅぎょう なら
私が遠友塾を知ったのは、大学の授業がきっかけでした。大学の授業で習っただ
けでは、物足りず、えんゆうじゅく どのようながっこう じっさい くどうけいいち えんどう
お話を伺い、授業見学させて頂きました。初めて授業見学させて頂いた際、教室
にととてもあたたかまな ば ひろ みなさま まな すがた い い
温かい学びの場が広がっていたこと、皆様の学んでいるお姿が活き活きとお
わか 若くて、キラキラしていたことを覚えています。

じっくりクラスにはいそく いただ まいしゅう まいつき じゅこうせい
じっくりクラスに配属させて頂いてからも、毎週、毎月、受講生さんやスタッフさん
から、さまざま おし いただ わたし う まえ せいかつ ぶんか ちしき
様々なことを教えて頂きました。私が産まれる前の生活や文化、知識はもちろん
ですが、こころ あい こ てづく しゅわ がいこくご
心と愛が込められている手作りパンのとびっきりのおいしさ、手話や外国語での
ひょうげん ほうほう しかた さまざま くふう ほどこ こべつじゅぎょう ぜんたいじゅぎょう
表現の方法の仕方、スタッフさんの様々な工夫が施された個別授業、全体授業での
まな 学んだこと。そして、なにより、へんきょう へんきょう わ
勉強できることのありがたさ、みんなで勉強して分か
ることのよろこ じゅこうせい こころ やさ ほんとう まな
喜び、受講生さんとスタッフさんの心の優しさ。本当にたくさんのお話を学
び、感じました。かん すてき かたがた かこ たの おし いただ わたし
感じました。素敵な方々に囲まれて、楽しくたくさんのお話を頂き、私にと
っても、えんゆうじゅく たいせつ まな ばしよ いっしょ まな いただ ほんとう
遠友塾は大切な学びの場所です。いつも一緒に学ばせて頂き、本当にありが
とうございます！

これからは、わたしじしん えんゆうじゅく みなさま すがた もくひょう まな つづ にんげん
私自身も遠友塾の皆様のお姿を目標に、学び続けられる人間になり
たいと思います。

たくさんのかた じんりょく たまもの えんゆうじゅく しゅうねんむか こころ
たくさんの方のご尽力の賜物により、遠友塾が30周年を迎えられたこと、心よりお
いわ もう あ すえなが かつどう つづ いの もう あ
祝い申し上げます。これからも、未永くこの活動が続けられることをお祈り申し上げます。

6) 遠友塾30周年に寄せて

賛助会員（元スタッフ） 佐藤 友歌

札幌遠友塾30周年の節目、誠にありがとうございます。私はスタッフとして2年間参加し、その後賛助会員として支援を続けさせていただき、20年ほどが経ちます。この度、事務局から「記念誌発行にあたり原稿を」とお願いされましたので、あまり良い文章ではありませんが、思い出などを書いてみたいと思います。

私が札幌遠友塾を知ったのは20年ほど前、大学を卒業するころでした。新聞でスタッフ募集の記事を見て、教員を目指すうえで何か得るものがあるのでは、と考えて見学に行ったのが最初です。当時は教員採用試験に受からず、大学卒業後の進路が決まっていなかったため、勉強だけではなく何かをしたかったという気持ちもありました。

見学に行った日の終わりに、見学者を集めて事務局 長から札幌遠友塾についての簡単な説明があり、その中で「対外的にはボランティア活動にあたると思うが、ボランティア活動と思って参加してほしくない」と言われました。ボランティア活動と思わずにスタッフも生徒も一緒になって楽しく参加すること、これが札幌遠友塾の長年の活動につながっているのだと思います。

最初に書いた通り、私がスタッフとして参加したのはわずか2年間でしたが、その中で今も忘れない、印象深い方が3人いました。

1人目は第1期生として通い、その後もずっと通い続けていた方です。勉強のことよりも、その方の娘さんと私の弟が同じ障害をもっていて、親亡き後のことについてずいぶんと話した覚えがあります。当時で80歳くらいでしたから、既に亡くなられているとは思いますが、私も年齢を重ねた今、もう一度じっくりとお話をしてみたい方でした。

ふたりめ じごと たいしょくご かよ はじ かた たし わたし
2人目はずっとお仕事をされていて、退職後に通い始めた方です。確か私がスタッフ
になった年と同じ年に1年生として入ってきた方だったと思います。札幌遠友塾に通い
はじめて文字が読めるようになり、新聞に何が書いてあるかがわかるようになったと、喜
びを涙ながらに語っていらっしやいました。また、当時の私は数学を教えていましたが、
たまたま入手したマス目の大きい方眼紙をつかってタイル状のものをつくり、繰り上
りの足し算を授業で取り上げました。その時に、繰り上がりがあった、と言ってく
さったうれしそうな顔が忘れられません。

にんめ ふとうこう わたし おな とし かた ひじょう
3人目は不登校だった、私と同じぐらいの年の方です。コミュニケーションが非常に
苦手な方でした。それでも、もう一度勉強して社会に出たいという気持ちが強く、意を
決して遠友塾に参加してくれていました。最初のころは順調で、なんとかできるので
はないかとお互い一生懸命になっていたのですが、ほどなく一緒に関わってくれていた
スタッフが体調を崩してしまい、私も1人では対応しきれなくなり、その方とはあまり
関われなくなっていました。札幌遠友塾は楽しい思い出が多いのですが、これだけ
は大変申し訳ないことをしたと、今でも心残りです。今その方はどうされているのか知
る由もありませんが、元気に過ごされていることを願うばかりです。

しゅうしょく さっぽろえんゆうじゅく はな きょういん
就職とともに札幌遠友塾を離れることになりました。わけあって教員にはなりま
せんでしたが、札幌遠友塾に出会えたことは、私の中でひとつの宝になりました。い
つか、タイミングが合えばまたお手伝いしてみたいと思っています。

さっぽろえんゆうじゅく いま みな じんせい ゆた ば
札幌遠友塾が、今も、これからも、皆さんの人生を豊かにする場の1つであってほし
いと願っています。

3. 遠友塾30周年に向けて「一言メッセージ」

2020年11月に、遠友塾と関りが深い方々に「遠友塾30周年にむけて一言メッセージ」をお願いしたところ、188名の方から返信がありました。

受講生・スタッフ・賛助会員・卒業生・遠友塾への協力者・「全ての会の派の国会・道議会・市町村議会」の各議員・全国の夜間中学の運動に関わる方々から思いのこもった「一言」が寄せられました。

遠友塾30年の営みの重みが詰まった「一言集」となりました。また、全国からの励ましや連帯の呼びかけに、遠友塾の運動が全国に広がっていることを実感し勇気づけられました。

○ 受講生

ふるかわまこと
・古川誠さん

おめでとうございます。僕は札幌遠友塾大好きです!!

40周年 50周年 100周年 未永く続けてほしいです!!

しのやまもりひと
・篠山護人さん

30年 遠友塾に貢献してくれた人に敬意を致します。そこで一句

『三十年 過去と未来の 遠友塾』

みちた こ
・道田ルリ子さん

私は、コロナ禍以前の日常と学校（遠友塾）という空間で学ぶことができる有難さをより一層感じました。感染拡大で私達が学ばなければならない事は、当たり前だった

にちじょう たい かんしゃ わす こと
日常に対して、感謝を忘れてはならない事ではないだろうか。

きむらくにひこ
・木村國彦さん

えんゆうじゅく しゅうねん ぼく だんひと はなし はなし
遠友塾 30周年おめでとうございます。僕はあまり普段人と話 はしないです。話しな
い時は、一週間いじょうかなー。せいぜいあいさつぐらいです。でも塾 にきて先生とか
ほかの人と、少しは話したり聞いたりして楽しいです。遠友塾 とであえて、ラッキーで
す。

はまだ
・濱田ヒデさん

しゅうねん いわ もう えんゆうじゅくにゆうがく まな き おも じぶん はっけん
30周年お祝い申しあげます。遠友塾 入学で学びは気づきかな、と思える自分を発見。
これからも気づきを大切に学びたいです。

いしごうおかかつこ
・石郷岡勝子さん

さくねんぜんこくや かんちゅうがくけんきゅうたいかい さんか いただ まな かんどう いただ お
昨年全国夜間中学 研究大会に参加させて頂き、学びの感動を頂きました。老いても
こころ わか じんせい きばくざい す おも
心は若く、人生の起爆剤になりますように過ごしていきたいと思ってます。

こざわのりこ
・小澤典子さん

かんしゃ かんどう かんしん お かん なが まな や い よろこ い まな
感謝 感動 感心-----。老いを感じ乍らも学び舎に行ける喜びと、生きるという学び
を重ねております。

ひらいひさこ
・平井久子さん

あつという間に全世界が思うように行動ができなくなってきた、今こそオンラインの有り
かた み つけて、まな つよ、それを踏まえて勉強 できればと 考えてます。

・^{しもやまようこ}下山容子さん

30周年おめでとうございます。^{にがて}苦手ばかりの^{べんきょう}勉強ですが、^{まな}学ばせて^{いただ}頂いてありがたく、^{かよ}通わせて^{いただ}頂いております。

・^{たかたとしえ}高田利枝さん

^{さっぽろえんゆうじゅく}札幌遠友塾 30周年 ^{こころ}心より^{よろこ}喜び^{もち}申しあげます。^{こんご}今後も^{すば}素晴らしい^{まな}学びの^ば場を^{つづ}続けられますよう^{いの}お祈りいたします。

・^{おくせ}奥瀬レイ子さん

コロナで^{なが}長い^{ことやす}事休み^{はじ}だったのが、^{いま}始まって^{すいようび}よかったです。今は^く水曜日^{たの}が来^きるのが^{たの}楽しみです。

・^{つばやあきこ}坪谷彰子さん

30周年おめでとうございます。そして^{まな}ありが^ばとうござ^{であ}います。学びの^{ありがた}場に出^あ会^いえて有^{たの}難^しく^{うれ}嬉しく^{おも}思います。^{よろ}宜しく^{どうぞ}どうぞ!!

^ぐGood ^とevening ^{いぶ}から^{にん}始^まる ^{はじ}笑顔^{えがお}いっぱい^{えんゆうじゅく}遠友塾!!

・^{なりた}成田マツアさん

^{いっしゅう}一週に^{いちど}一度の^{えんゆうじゅく}遠友塾、^{いま}今は^{こうりょうちゅうがく}向陵中学^{きょうぶん}ではありませんが、^{まな}教文での^{まな}学びは^{すば}すばらしく、^{とも}また^{であ}友の^{いろいろ}出会い、^{しゃかいべんきょう}色々な^{かんむりよう}社会勉強も^{かんむりよう}させていただ^きき感^{むりよう}無量^{です}です。

^{せんせい}先生・^{かたがた}スタッフ^{めいわく}の方々には^{えんゆうじゅく}迷惑^でをかけ、^{しんせつ}親切^{おし}に^{かんじや}教えて^{かんじや}いただき^{ねんかん}感謝^{です}です。30年間もの^{まな}学びを^{つづ}続けて^{まな}いただき^{ありがとうございます}ありがとうございます。

・^{たけだえいひ}竹田英姫さん

30周年おめでとうございます。^{えんゆうじゅく}遠友塾に出^{であ}会い、^{がくもん}学問^{はじ}を始め、^{じんせい}人生^あの^{かた}有り^{かた}方^{まで}まで^{たく}たく

さんの事を学びました。私にとっては大きな財産になっております。これからも学び続けて財産を増やして行きたいと思っております。

ありがとうございました。

• 川合暢子さん

30周年おめでとうございます。

• 小森みさ子さん

私は遠友塾にお世話になって今年で5年になります。

30年という長期に渡り、多くの皆様のおかげで楽しく

勉強させて頂いています。ありがとうございます。



• 李在満さん

皆さま方30周年おめでとうございます。寒くなっています。お体に気を付けてね！

• 浅野京子さん

今年、遠友塾30周年おめでとうございます。

私も10年すぎました。遠友塾に入って、ほん

とによかったと思っております。



• 鈴木清子さん

遠友塾30周年おめでとうございます。友人が遠友塾を調べてくれて、向陵中学校

に通えた時は、とてもうれしかったです。中学生と同じ机に座って勉強できることが、

とてもうれしく喜びを感じています。みんなが親切でとてもたのしいです。これから

も遠友塾が長くつづきますように祈っています。

まつなが こ
・松永トモ子さん

さんじゅうしゅうねんむか ほんねん いわ もう あ たいへん か しゅうそく なか
三十周年迎えられた本年、お祝い申し上げます。大変なコロナ禍が終息していない中、
まな ば ありが せんせい かたがた ところ かんしゃ
学ぶ場をつくっていただきまして有難うございます。先生・スタッフの方々に心から感謝
いたしております。

うめざわのりこ
・梅沢紀子さん

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん じだい まな ひつよう
札幌遠友塾 30周年おめでとうございます。いつの時代になっても学ぶことが必要と
する人が居るはず。その人たちが遠友塾で友を得て、学ぶ喜びを分かち合い心豊かに
く なが えんゆうじゅく つづ こと ねが
暮らせるように、いつまでも長く遠友塾が続いている事を願っています。

てらしましよういち
・寺島昭一さん

えんゆうじゅくにながくお世話になりました。これからもよろしくおねがいします。

いしおかあいこ
・石岡愛子さん

えんゆうじゅく しゅうねん まな たいせつ まな よろこ おし わたし
遠友塾 30周年おめでとうございます。学びの大切さと学ぶ喜びを教えてください、私
の第二の人生。

・モラル カマルさん

えんゆうじゅく しゅうねん わたしたち まな みち ひろ ぞんざい
遠友塾 30周年おめでとうございます。私達の学びの道を広げてくれる存在としてか
けがえのない所です。今後更にごんごさう ねが
がんばりますので、よろしくお願ひします。

ながおか ち え こ
・長岡千恵子さん

しゅうねん えんゆうじゅく ますます はってん ところ いのり もう
30周年おめでとうございます。遠友塾の益々のご発展を心よりお祈り申しあげま
す。

よしかわたくや
・吉川卓哉さん

しゅうねん
30周年おめでとうございます。



ふるたともよし
・古田知義さん

えんゆうじゅく はい ねん わたしじえいぎょう ねん じゅうしょ しめい か
遠友塾に入ってから8年になりました。私 自営業で40年になりますが、住所・氏名を書
とき いちばん じ か にがて いま
く時などが一番いやでした。字を書くのが苦手だからです。それが今はそれほどいやでな
すうがくえいご
くなりました。数学英語もだいぶんおもしろくなってきました。

ふじた えみ こ
・藤田恵美子さん

えんゆうじゅく しゅうねん なが ごしどうかんしゃもう あ
遠友塾 30周年おめでとうございます。長きにわたり御指導感謝申し上げます。
いまざいせき まな まな こと わたし さいさん か たいへん とき のこ
今在籍し、学び、学ぶ事は私の財産になりました。コロナ禍の大変な時ですが、残りの
じんせいゆうき がんば でき ほんとう しゅうねん こと
人生勇気をもって頑張ることが出来ます。本当に30周年、スゴイ事です。

さとうはる お
・佐藤春雄さん

つうねん ねんかん せわ な ねんかん ちょうき わた かいこう こと
通年6年間お世話に成りました。30年間の長期に渡って開校された事は素晴らしい事
です。実は私 共のパークゴルフ同好会も同じ30周年をむかえて、札幌では最初の
じつ わたしども どうこうかい おな しゅうねん さっぽろ さいしょ
コースでした。その実績を守っていきます。び力ながら。

もりた ゆり こ
・森田百合子さん

えんゆうじゅく き べんきょう おし さっぽろ やかんがっこう つく
遠友塾は気がねなく勉強を教えてくださいました。札幌に夜間学校を作ってくれ
るために、ほんそう かがた がっこう ささ せんせい みな
るために、奔走して下さった方々、学校を支えてくれている先生、スタッフの皆さんの
おかげさます。なかま しあわ かんしゃ
おかげさます。仲間たちとありがたいね、幸せだね、と、感謝しています。

みずのりこ
・水野則子さん

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんきねん め で まな たいせつ みなさまがた
札幌遠友塾 30周年記念お目出でとうございます。学びの大切さをスタッフの皆様方

おし かんしゃ
に教えていただき感謝します。ありがとうございます。

〇 スタッフ

きしだひさし
・岸田久さん

ねん つづ けい い ひょう そりつとうしょ じゅこうせい
30年も続いたことに敬意を表します。そこには創立当初からのスタッフと受講生の
かたがた なみなみ くるう おも やかんちゅうがく きちよう しゃかいてきざいさん
方々の並々ならぬご苦労があったと思います。夜間中学は貴重な社会的財産です。

こんく み こ
・今久美子さん

さくねん さんか えんゆうじゅく じゅこうせい みな
昨年からスタッフに参加しているのですが、遠友塾の受講生さん、スタッフの皆さんの
いよく じょうねつ おどろ ちから つづ みなもとなん すば
意欲と情熱に驚かされています。この力が続いている源 何でしょうね。素晴らしい
せかい おも
世界だと思います。

かどまき わ こ
・門間喜和子さん

しゅうねん わたし えんゆうじゅく はい しゅうねん とき
30周年おめでとうございます。私が遠友塾に入ったのはちょうど25周年の時
した。あつという間でした。これからも長く続くことを願っています。

みさわえいち
・三澤英一さん

けいおうぎじゅく そうししゅふくざわ ゆきち おし ひと はんがくはんきょう おし もの まな もの べつべつ
慶應義塾の創始者福沢諭吉の教えの一つに「半学半教」がある。教える者、学ぶ者は別々
にあるのではなく、たが おし あ まな あ たが たか おし
遠友塾はまさに「半学半教」の場。これからの発展を願ってやまない。

おおいでただし
・大出匡さん

ひ あさ ねん つきひ かた ひびせつ
かかわるようになって日が浅く、とても30年の月日について語れません。ただ日々接
るなか まな よろこ かつぼう かん じぶん じんせい え
の中で、学ぶことの喜び渴望を感じます。自分にもこれまでの人生では得なかったもの

を受け取っています。そして、人と人とのつながりの大切さを実感します。

かぬまひでお
• 鹿沼秀夫さん

30年の歴史の中で、私に関わることができたのは最後の6年間だけです。そのわずかな間ですが、受講生さんの生き様からたくさんのお話を学びさせていただきました。その感動が私を支えています。2022年4月に札幌に公立夜間中学が誕生しますが、自主である遠友塾が存在する意義は少しも変わりません。これからも遠友塾のスタッフとしてあり続けたいと思います。

うらたしゅういち
• 浦田修一さん

ともに学ぶことの喜びに、心が震えています。

奇跡的な出会いの数々に、心がおどっています。ともに

生きる嬉しさに、心があたためられています。人間のたましいの奥深さに打たれ、みなさんとつながれることの喜びに浸っています。遠友塾30年の歩みに乾杯!!



さいとうあや
• 斎藤亜耶さん

30周年おめでとうございます。遠友塾に出会えて今のわたしがいます。ありがとうございます!!

いとうさとこ
• 伊藤郷子さん

学ぶことが驚きと楽しみの連続である限り、わが遠友塾は永遠に不滅です!!

みうらしょうじ
• 三浦正二さん

今季初めて参加させていただきましたが30年も続けてこれたというのは、生徒・職員の信頼関係が厚い証拠ですね。更なる発展を目指して自分も頑張っていきたいです。

あ べ の ぶ こ
• 阿部伸子さん

すいようび よる 「こんばんは!!」の挨拶と共に受講生とスタッフが学びの場にあつまります。

「学び」の楽しさと喜び、そして仲間との出会いを大切に30年を迎えました。その積み重ねの長さに敬意を表しますと共に、仲間の一人として連なっていることに感謝で一杯です。そして明日へ続くことを心より祈念申し上げます。遠友塾30周年、おめでとうございます。

さ かい じゆん こ
• 酒井順子さん

えんゆうじゆく しゅうねん
遠友塾30周年おめでとうございます。

30年前、道新朝刊の記事「札幌に遠友塾 自主夜間中学開校」私はこの記事を生涯忘れることは出来ません。遠友塾を今の学び舎に作りあげるまでの、多くの人々のご苦労に敬意と感謝申し上げます。30年の歴史の中に、16期生として学び、人生の消えない宝を頂きました。学ぶ喜びはこの上ない「幸せ」でした。学ぶ事をモットーに人生を生きていきます。遠友塾は永遠に続きますように心から感謝をこめて。

しらくらひろこ
• 白倉汎子さん

もと はじ えいご
「求めること これがすべての始まり」(英語のことわざ)

まな もと とち あゆ えんゆうじゆく ねん まな かんしゃ で あい かんしゃ!
学びを求めて共に歩んだ遠友塾の30年 学びに感謝!! 出会いに感謝!!

まつだひろあき
• 松田裕明さん

おも とお き なかはらちゅうや
「思えば遠くへ来たもんだ」中原中也

たかはしひとみ
• 高橋仁美さん

ねん なが わた えんゆうじゆく うんえい おお かたがた じんりよく ところ けいひ
30年の長きに渡り、遠友塾を運営されてきた多くの方々のご尽力に、心から敬意を表したいと思います。ここで学ばれたお一人お一人に、新たなる人生が開かれることを

たの
楽しみにしております。



ひらせあきひろ
・平瀬明廣さん

スタッフの^{いちいん}一員としてこれからも^{びりよく}微力を^つ尽くしたいと

おも
思います。公立の^{こうりつ}夜間中^{やかんちゅうがく}学が^{じしゅ}できても^{やちゅう}自主夜中^{ひつようせい}の必要性は^{うしな}失われません。

ただくみこ
・多田久実子さん

「^{いぜん}以前は^{じしん}自信がなくて^{ひとまえ}人前で^{はな}話すことなんてできなかつたけど、^{いま}今は^{へいき}平気。学問は^{ひと}人を^か変
えるのよ」^{えんゆうじゅく}遠友塾^{そつぎようせい}の卒業生から^き聞いた^{ことば}言葉が^{わす}忘れられません。

^{しゅうねん}30周年おめでとうございます。

いわさ
・岩佐タカさん

^{まさ}正に^{やま}山あり^{たに}谷あり！ ^{じゅこうせい}受講生・^{ぼしゅう}スタッフ募集はもとより、^{かいじょう}会場さがし、^{しやうりようこうしやう}使用料交渉、

その他^たいろいろな^{こんなん}困難を^の乗り越えてきた^{ちえ}知恵と^{ねん}エネルギーの^{たの}30年。これからも「^{えんゆうじゅく}楽しい
遠友塾」であるようにかかわっていきたくて^{おも}思っています。

^{ねんかん}30年間、おめでとう！ ありがとう！

はやしまちこ
・林真知子さん

^{しゅうねん}30周年ということで、^{えんゆうじゅくたんじょう}遠友塾誕生から^{やくはんぶんざいせき}約半分在籍していることになり、^{おも}その重みを
^{かん}感じています。「^{まな}学ぶ」ということ^{かちかん}の価値観・^{しんじつせい}真実性を^{じしん}自身にも^い言い聞かせながら、これ
からも^{じゅこうせい}受講生の方々と^{かたがた}共に^{とも}歩んで^{あゆ}いきたいと^{おも}思っています。

^{しゅうねん}30周年おめでとうございます。

きしだゆきお
・岸田幸夫さん

^{えんゆうじゅく}遠友塾^{ねん}30年の^{あゆ}歩みは、^{れき}スタッフ^{ねん}歴3年の^{わたし}私には^{そうぞう}想像も^{でんとう}つかない^{おも}伝統の^{こんご}重みです。今後

とも、^{じゅこうせいだいいち}受講生第一で^{がんば}頑張り、^{みち}道をつないでいけますことを^{きねん}祈念いたします。

^{なかのけいいち}
・中野敬一さん

^{ながねん}長年にわたり、^{まな}学びの^ひ灯を^{つづ}ともし^{おお}続ける^{かたがた}多くの^{どりよく}の方々の^{けいふく}努力に敬服します。これ
からも、^{まな}学びの^ひ灯をより^{いっそうあか}一層^{つづ}明るく^{つづ}ともし^{つづ}続けていきたいと思います。

^{ひらやまふみえ}
・平山文枝さん

^{えんゆうじゅく}遠友塾^{しゅうねん}30周年おめでとうございます。受講生の^{みな}皆さま、スタッフの方々の^{かたがた}活動は
“^{いし}意志のある^{みち}ところに^{つう}道は^{つう}通ず”^{ことば}“という言葉その^{はってん}ものですね。いっそうの^{はってん}ご発展を。

^{みやたともこ}
・宮田友子さん

^{えんゆうじゅく}遠友塾と^{であ}出会って^{ねん}30年。^{みし}見知らぬ^{じぶん}自分との^{であ}出会いでもありました。^{えんゆうじゅく}遠友塾が、^{えんゆうじゅく}遠友塾
に^{かか}関わる^{みなさま}皆様にとって、^{あた}新しい^{じぶん}自分を^{はっけん}発見する^ば場であって^ほ欲しい^{おも}と思います。

^{くどうけいいち}
・工藤慶一さん

たった^{にん}3人で^{はじ}始めた^{えんゆうじゅく}遠友塾が、^{ねん}30年を^{かつどう}こえて^{おお}活動していることは^{よろこ}大きな^{よろこ}喜びです。1
^{ねん}年^{にち}365日、^{やかんちゅうがく}すべて^{かつどう}夜間中学の^{つづ}活動を^{つづ}続け、^{みな}皆さんと^{とも}共に^{おも}ありたい^{おも}と思います。

^{たけはらみちこ}
・竹原紀子さん

^{まな}「^{ひと}学びたい^{まな}人に^ば学びの^{えんゆうじゅく}場を」の^{えんゆうじゅく}遠友塾。受講生さんの^{じゅこうせい}キラキラの^{まなざ}眼差しの^{きょうしつ}教室に^{いっしょ}一緒
に^{かんしゃ}いれて感謝!!

^{あらかれいこ}
・荒木礼子さん

^{しゅうねん}30周年おめでとうございます。これまでの^{ごどりよく}御努力・^{くろうあたま}苦勞頭が^さ下がり、^{はや}もっと^{えんゆう}早く^{えんゆう}遠友
^{じゅく}塾に^{であ}出会っていたら、^{はじ}初めて^{けんがく}見学した^{とき}時の^{かんどう}感動は^{わす}忘れません。また、^{たいちようちど}体調戻りましたら

さんか きもち
参加したい気持ちです。

かとうともこ
・加藤友子さん

まな しせい じんせい き
学ぶ姿勢のなかにそれぞれの「人生」があることに気づかされます。これからも学びを通
じてよりゆた いろど かんけい きず ねが
豊かで彩りのある関係を築いていきたいと願っています。

ほしばしんじ
・干場信司さん

えんゆうじゅく つど しあわ ぐうかん
遠友塾に集うみんなで作り出す「幸せな空間」をこれからも。

こでらひろおみ
・小寺寛臣さん

じゅこうせい みな こと おそ ところ
受講生の皆さまから、いろいろな事を教わり、そして「心のごちそう」をたくさ〜んい
ただいてきました。ほんとう ありがと えんゆうじゅく
本当に有難うございます。遠友塾、ずっとずっと・・・これからも!!

おかのただお
・岡野忠雄さん

あたり こと まな なお め まえ あか とき ほんとう うれ
新しい事でも、学び直しでも、パッと目の前が明るくなる時があります。本当に嬉しい
です。そのようなえんゆうじゅく めざ
遠友塾を目指します。

よしかわかおり
・吉川香織さん

えんゆうじゅく ころざし う つ
遠友塾の志が、これからもずっと受け継がれていきますように!!
おめでとうございます。

ふじたさちこ
・藤田幸子さん

ねん なが あいだえんゆうじゅく けいぞく けいひ ひょう まな あ なかま
30年もの長い間遠友塾を継続してきたことに敬意を表します。学び合う仲間として、
とき きょうゆう かんしゃ
時を共有できることに感謝します。

• 越智和彦さん

何年か遠友塾のスタッフに名を連ねています。途中やめようかなと思った時もありましたが、工藤前代表の励ましもあって、ささやかな力ですが続けてきました。「教える」というよりも「学んでいる」というのが実感です。

• 工藤朱美さん

30年前に遠友塾を立ち上げた時は、1年先の見通しも立っていませんでした。それが何と30年も経ち、いまだに遠友塾と共にいることに驚いています。たくさんの方たちとの出会い、大きな支えが、ただただありがたいです。

• 亀谷郁夫さん

30年、これは簡単に言えるような数字ではありません。創立当時の方々の苦労は想像を超えるものだったと思います。今、私たちはその趣旨を思い出しながら、これからも前に進んでいきたいものです。

• 三澤康英さん

30周年と聞いて驚いたと同時に、様々な方々のご尽力でやってきたのではないかとおもいました。これからさらに30周年、60周年と続いていくことを期待しています。

• 田邊洋子さん

遠友塾の30年間の一部分に関わられた事に喜びと感謝を感じています。

• 境悠紀子さん

30周年って、本当にすごい事ですね。最初にはじめられた方々に感謝です。札幌に公立夜中が出来るのはうれしいですが、不安も同居。いい公立になってほしい。

なかしまけいこ
・中島圭子さん

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん
札幌遠友塾 30周年おめでとうございます。

わたしは2007年から関わらせて頂いたので、もう13年になります。10年一昔と言
うけれど、あっと言う間に歳をとってしまいました。(笑)

この間に、たくさんの人に出会い、多くの事を学び考えることができました。これから
も、1人でも学びたいという人がいる限り、遠友塾を続けていきたいと思います。

ほんやかおこ
・本谷可乙子さん

しゅうねん
30周年おめでとうございます。

じゅこうせい にゅうがく こんにち じゅこうせい みな ひとみ
受講生として入学してからスタッフとなった今日まで、受講生スタッフの皆さんの瞳
と心で私の心を育てて頂きました。とても有り難く、生きて行くための踏み台を少し
ずつ上げることが出来ました。皆さんありがとうございます。

さかもとかよ
・坂本佳代さん

えんゆうじゅく しゅうねん わたし やくねん げつ
遠友塾 30周年おめでとうございます。私がスタッフとなってから約2年と8ヶ月が
経ちますが、本当に長い長い歴史が続いてるのですね。これからもスタッフの一員として、
みなさまと共に学んでいきたいと思えます。

すごうけいこ
・須郷啓子さん

ねんかんじょうねつ も つづ こと そんけい おお ひと えがお
30年間情熱を持って続けてこられた事を尊敬します。これからも多くの人を笑顔にし
て下さい。少しでもそのお手伝い出来るのが嬉しいです。

はなだせいこ
・花田聖子さん

まいかい じゅぎょう かんしゃ かんどう ひび じゅこうせい みな かん ところ かんが すがた
毎回の授業 感謝と感動の日々です。受講生の皆さんの感じる心・考える姿、そし
て授業者の皆さんの、難しい事を楽しく解りやすく伝える創意工夫の姿から、多くを

まな
学ばせていただいております。

てしまたけし
・手嶋 猛 さん

けんぽう ほしやう きやういく う けんり おこた くに じちたい か さっぽろえんゆう
憲法で保障されている「教育を受ける権利」を怠った国や自治体に代わって、札幌遠友
じゆく ねんかん なが わた じっせん き こと けいふく
塾が30年間の長きに渡ってそれを実践して来た事に、ただただ敬服いたします。

さいとうやすこ
・斉藤 康子 さん

しゅうねん
30周年おめでとうございます。「学び」のすばらしさを伝え続けて頂きたいと思っ
て
います。

いとうまきこ
・伊藤 牧子 さん

「こんばんは」から始まる優しい笑顔と温もり。大ぜいの私が出会い、つないできた30
ねん れきし なか すこ かんしゃ
年の歴史ですね。その中に少しでもかかわることができ、感謝しています。これからも前
すす
に進んでいきましょう。

よしだ えみこ
・吉田 恵美子 さん

まな もと ひと
学びを求める人がいて、その気持ちに Corresponding たい人がいて、そうして30年。

ふしめ とし こうりつやちゅう かいこう き
その節目の年に公立夜中の開校が決まりました。すごい事です。

しゅうねん ほんとう
30周年、本当におめでとうございます。

いちのせきたろう とくべつ
・一ノ関 太郎 さん（特別スタッフ）

きそ たいせつ
なぜ基礎が大切なのか？

ひと しどう たちば ひと
人を指導する立場の人は、なぜ「基礎をおろそかにしてはいけない！」だとか「基礎は大事
だよ。」というのでしょうか？

べんきやう しごと なに まな さい かなら きそ たいせつ い
勉強でもスポーツでも仕事でも、何かを学ぶ際には必ず「基礎は大切」ということを言

われているような気がします。

子供の頃から言われ続けているので、何となく「基礎は大切なんだろうなあ」とは感じていました。

でも私は、具体的に「なぜ基礎は大切なのか？」ということについて考えたことはありませんでした。

しかし大人になり気付いたことは、物事がうまくいかなかったり、失敗した時というのは、基礎をおろそかにしていること（基礎が身に付いていないこと）が原因となっていることがほとんどだということです。

逆に言うと、物事がうまくいく時というのは、その物事の基礎は何か？ということを理解し、基礎をしっかりと身に付けることができている時（基礎を高い精度でこなすことができている時）だということになります。

つまり、「基礎はなぜ大切なのか？」という問いに対しては、このように答えることができます。

「基礎とは物事を成功へ導くために1番大切なことだから。」と。

遠友塾30周年。これからも基礎を大切に歩いていくことを願っています。

○ 賛助会員

のむらとしゆき
・野村俊幸さん

30周年おめでとうございます。登校拒否と教育を考える函館アカシア会代表の野村です。国民の学ぶ権利の保障のために、素晴らしい活動を続けてこられたことに、心から敬意を表します。

ふじいようこ
・藤井洋子さん

30年の長きにわたり遠友塾を運営されてこられたスタッフの皆様に頭が下がります。

山あり谷ありまたまた谷ありでしょうが、まだまだ終わりではないようですが。

おおたきまさいち
・大滝雅一さん

塾の30周年、おめでとうございます。塾に学びの場を求めたたくさんの受講生のみなさまの努力と、塾の運営管理に当たられた、これもたくさんのスタッフのみなさまの献身に心から敬意を表します。

くどうさちお
・工藤左千夫さん

遠友塾30周年 心からお祝申し上げます。文化の先に差別はありません。むしろその非生産的な壁を越えていこうとするエネルギーこそが文化だと思っています。

くどうたかし
・工藤高志さん

遠友塾30周年おめでとうございます。コロナ禍の非常事態を乗り越えて、今後ともあらゆる領域の人達に門戸を開き、継続されることを期待しています。

たけなみ き み こ
・竹並紀美子さん

遠友塾30周年おめでとうございます。設立当初から携わってきた方々には、どれだけの苦勞があったことでしょうか。これからの益々のご活躍をお祈りいたします。微力ながら遠い地より協力していきたいと思えます。皆様お身体を大切に！

ひらのただし
・平野忠さん

遠友塾30周年おめでとうございます。夜間中学への思いは遠隔地愛知からでも気持ち一緒です。益々のご発展をお祈りしています。

くどうひろし
・工藤博さん

わたし さんじょかいいん ねん えんゆうじゅく こんごますますはってん いの
私も賛助会員30年 遠友塾が今後益々発展してゆきますよう祈っています。

たなかとしお
・田中利男さん

めいじ ねん う ねん う そ ぼ わたし しょうがっこう にゅうがく とき さい さい わたし
明治20年生まれの祖母は、私が小学校に入学した時は72才でした。6才の私の
きょうかしょ み れんしゅう はじ ねん ご さい たひだ とき
教科書を見ながら、ひらがなの練習を始め、3年後75才で旅立った時には、ひらがな
だけは書けるようになっていました。きっと「学ぶ喜び」を全身で感じていただろうと
そうぞう
想像しています。

やしまえつこ
・矢島恵都子さん

みな まな よろこ せつ わたし こうれいしゃ げんき つらぬ し こと
皆さまの“学ぶ”喜びに接し、私も高齢者ですが、元気を貰っています。知らない事
をネットや辞書で調べたり、学ぶ楽しさを皆様と共有(?)しています。
コロナに負けずガンバリましょう！

ふじ ほっかいどうかぶしきがいしゃさま
・富士ゼロックス北海道株式会社様

へいしゃ ねんまえ しゃかいこうけんかつどう はすうくら ぶ しえん いただ さっぽろ
弊社は10年前から社会貢献活動「端数倶楽部」として支援させて頂いております。札幌
えんゆうじゅく かつどう せいと みなさま ゆた じんせい つな こころ ねが
遠友塾の活動が、生徒の皆様の豊かな人生へ繋がっていくことを心から願っております。

ひろた ほっかいどうぎかいぎいん
・広田まゆみさん（北海道議会議員）

とうしょどうちやうない たいおう まどぐち じやうたい みなさま つよ どりよく
当初道庁内にも対応する窓口もない状態でしたが、皆様のねばり強い努力で、30
しゅうねん むか げんざい こころ けいひ ひょう さまざまかだい
周年を迎えられ、現在にいたりますこと心から敬意を表します。また、様々課題があ
ると存じますが、より素晴らしい未来を確信します。おめでとうございます。

あまみやきょうこ
・雨宮恭子さん

30周年おめでとうございます。“学ぶことは生きること”みなさんの歩みに心から敬意
を表明します。

たかはしけいいち
・高橋啓一さん

生徒さんたちの学ぶ事への情熱と、スタッフの皆さんの熱意に支えられて30年も続い
てきた遠友塾に乾杯！これからもずっと・・・

なかしまよう
・中島洋さん

おめでとうございます！ 継続は力なり！です。シアターキノも、あと2年で30周年
です。後を追いかけますね。

ふくおせつこ
・福尾節子さん

先日、仲間（新婦人）とDVD「こんばんは」夜間中学を見ました。そこで初めて日本
では15歳になると自動的に卒業証書をもたらえることを知りました。たとえ
小中学校に通っていても、通えなくても。私は15歳を過ぎているのに、こんな漢字
も英語も知らないのかと、フシギに思っていたのですが、やっと理解できました。どん
なに辛い悲しい日々だったことでしょう。札幌にも早く公立の夜間中学ができることを
切に望みます。

おおすぎ
・大杉ユリ子さん

30周年おめでとうございます。また皆様の活動をお知らせいただきありがとうございました
ました。私事ですが、体調が悪化していろいろな活動を退いていております。申し
訳ありませんが、遠友塾の会員も退会させていただきます。この葉書を使っただけの申し出
で本当に申し訳ありませんが、ご理解いただき下さい。お願い致します。

しまだきよりの
・島田清矩さん

えんゆうじゅく しゅうねん けいぞく ちから みな まな ところ も つづ
遠友塾 30周年おめでとうございます。継続は力です。皆さん学ぶ心を持ち続けて
よ じんせい おく くだ さい
良い人生を送って下さい。 92歳

けんじょうよしかず もとこうりつやかんちゅうがっこうきょういん
・見城慶和さん（元公立夜間中学校教員）

えんゆうじゅく ねん あゆ にほん きょういくし とくい ひかり はな かがや
遠友塾の30年の歩みは、日本の教育史に特異な光を放って輝いています。ここには
あるべき教育を先取りする、学びの本道が生きついています。

いわいひろや
・岩井浩也さん

あ よる か しれん の こ さき よ せかい ひろ
明けない夜はない。コロナ禍という試練を乗り越えた先に、より良い世界が広がっている
ことを希求しましょう。遠友塾のこれからの30年に期待します。

さとうみつこ
・佐藤光子さん

しゅうねん ころゆた にんげん そだ まな ば やかんちゅうがく いま
30周年おめでとうございます。心豊かな人間を育てる学びの場である夜間中学。今
はコロナ禍で厳しい環境ですが、今後とも人間形成の学びの場に、心からエールを送り
たいと思います。

せきもとやすたか もとこうりつやかんちゅうがっこうきょういん
・関本保孝さん（元公立夜間中学校教員）

えんゆうじゅく しゅうねん ほんとう なが ねん なか ほっかいどう ぎむ
遠友塾の30周年、本当におめでとうございます。長い30年の中で北海道の義務
きょういくみしゅうりょうしや まな ささ ねん がつ さっほろし ころりつやかんちゅうがく かいせつ
教育未修了者の学びを支え、ついに2022年4月に札幌市に公立夜間中学が開設
されることになり、この上なく喜んでいきます。

ほんだあきこ
・本田明子さん

ねんまえ た あ くだうけいいちせんせい みなさま どりよく きょう つづ
30年前に立ち上げた工藤慶一先生はじめ皆様のたゆまぬ努力で、今日まで続いており
ます。夜間中学の設立までようやく先が見えてきたようです。学ぶのに遅いということ

はいと言います。スタッフの皆さん、どうぞご自愛下さいませ。

• 野川義秋さん（埼玉に夜間中学を作る会代表）

30周年おめでとうございます。

川口自主夜間中学も、10月3日に35周年集会を埼玉に夜間中学を作る会と開催しました。お互いに、この節目の年を飛躍台にして、共に歩んでいきましょう。

• 相馬秀世さん（遠友塾元スタッフ）

遠友塾30周年おめでとうございます。週に一度暖かい空気に満ちあふれている教室に集い、我を振り返り、仲間との交流を通して、新たな学びを求め、心豊かな人生を送らんとする皆さんに心からの拍手を送ります。

『理由ありて学ばざりしを省みて 遠友塾に通う喜び』

『入学に胸躍らせる受講生』

『卒業に学びつづける笑顔かな』

• 西原洋子さん

教師生活を守ってくれた人生の言葉を贈ります。

『真理と正義を愛し、個人の価値を尊び自主精神を養う』

• 工藤仁美さん

30周年おめでとうございます。熱心に学んで来られた方々と学びを支えておられる皆様の努力に心から敬意を表します。皆様の努力でようやく市も動き出しましたね!!

• 田中和子さん

遠友塾30周年記念誠におめでとうございます。私は奇しくも御塾とのご縁を頂

感謝しております。役立たずの私ですが、只ひたすら前を向いて行こうと思ひます。

・今紺恵子さん

遠友塾は30歳。関係されてきた皆様の努力と工夫の賜です。公立夜間中学へのひとすじの道。一本の木でもありますね、地に根を張り枝を大きく広げました。遠友塾でなければ出会えなかった人と人。学びたい方々がおられる限り、遠友塾は続いて欲しいと願っています。

長引くコロナ禍の中、ありがとうございます。

・吉田礼子さん

30周年おめでとうございます。長い間のスタッフの方々の努力に敬意を表します。学びは喜びです。微力ですが、一人でも学びたい！と思う人の気持ちに寄り添いたいと思ひます。

・西川康子さん

自分から「今、学びたいのだ」と行動した受講生の方。その意思を受け止め支えるスタッフの方々。実際に学ぶ場を作り、それを存続させるべく行政を引っ張り続けている事務局の方。この5年間送って下さったお便りから、私も沢山学ばせて頂いております。

・砂沢健さん

30周年おめでとうございます。コロナ禍で制約の大きい中で、スタッフの皆さんも、生徒の皆さんもたいへんご苦労さまです。学ぶこと、知ることは驚きだったり、喜びだったりします。時には知らない方がよいこともあるけど、その心を言葉にして、気の合う人に話したり、書いてとどけたりするのも楽しいことですネ。

よしかわかつひこ
・吉川勝彦さん

“夜間中学校”にかかわっている皆さんからは「教育基本法」を忠実に！という思いを強く感じるのです。札幌を含め、全国にたくさんの「夜間中学」開校を願っています。
(遠友塾から学んだことです)

ほしのぼる えんゆうじゅくもと
・星昇さん(遠友塾元スタッフ)

30周年おめでとうございます。これまでのスタッフ及び受講生の皆さんの協力・努力でこの日があるのだと思います。今後とも末長く発展される事を祈念しております。

おだしままさこ
・小田嶋政子さん

遠友塾30周年おめでとうござおます。30年間の長い間支えられたスタッフの皆さま、熱心に学ばれた方々のご努力に心から敬意を表します。未来を信じて……。お祝いを申し上げます。

ごとうねなみ えんゆうじゅくしょだいたいひょう
・後藤鎮義さん(遠友塾初代代表)

日夜の活動ご苦労様です。感謝しています。僕は今でも大阪の夜中生の言葉「文字は命や」という叫びが、夜中の全てかと思っています。これは五十年程前に知った言葉です。皆様の今後のご活躍 祈りおります。

こばやしいくこ もとほっかいどうぎかいぎいん
・小林郁子さん(元北海道議会議員)

遠友塾の中で学ぶことによって、生活が変わり生きる姿勢が変わることを目の当たりにしてきました。これからも、苦難の中にある人に共に生きる希望をもたらし続けて下さいますように。

いまにしたかひと はこだてえんゆうじゅくぜんだいひょう
・今西隆人さん（函館遠友塾前代表）

しゅうねん
30周年おめでとうございます。札幌遠友塾を支えてられるスタッフの皆様、そして
がくしゅうしゃ みなさま たこう いの
学習者の皆様のご多幸をお祈りいたします。すてきな学びの場が、40年50年と続く
ねが
ことを願っています。

ますだようこ かしはら やかんちゅうがく そだ かい
・増田洋子さん（榎原に夜間中学をつくり育てる会）

ねん なが やかんちゅうがくうんどう げんてん かつどう ほんとう
30年もの長きにわたり、夜間中学運動の原点からブレずに活動されていること、本当
けい い ひょう えんゆうじゅく みな ころがま まな き ひ し
に敬意を表します。遠友塾の皆さんからスタッフとしての心構えを学び、気を引き締
めています。しゅうねん
30周年おめでとうございます！

やまもとわたる えんゆうじゅくもと
・山本航さん（遠友塾元スタッフ）

しゅうねん かか まな
30周年おめでとうございます。スタッフとして関わらせていただき、学ぶことのすば
さいにんしき じだい か えんゆうじゅく かつどう じゅうようせい か
らしさを再認識させられました。時代は変わっても、遠友塾の活動の重要性は変わら
ないと思います。おち ねん ねん む ひやく きたい
50年、100年に向けてさらなる飛躍に期待しています。

いしかわけいこ
・石川恵子さん

えんゆうじゅく しゅうねん まな せかい ひろ かのうせい ひろ
遠友塾30周年おめでとうございます。学ぶことは世界が広がること、可能性が広がる
ことだと思ひます。おち まな きも ささ かつどう すえなが つづ きねん
“学びたい”という気持ちを支える活動が、末永く続きますよう祈念
いたします。

でくちとしひさ
・出口寿久さん

かねけいしゅ ごくろう こころ けい い ひょう ねん ねん む
これまでの関係者の御苦労に心から敬意を表しますとともに、40年・50年に向けて
さら はってん きねん いっしょうがいまな しょうがいがくしゅう たの おお かがた
更なる発展を祈念します。一生涯学びつづける「生涯学習」の楽しさを多くの方々に
つた ねん ねん む
伝えていただければと思ひます。学びは自身の可能性を広げるものであり、いくつになっ
たいせつ
ても大切にしたいですね！

なかにいだみのる くしろ
・中新井田 稔さん（釧路「くるかい」）

どんな時だって、どんな事だって、学びの元（対象）。学ぶことは、決して誰からも奪われない財産。遠く離れていても、仲間と共に学び続けることは、幸せな事かもしれない。
じゆう かんしゃ こ
自由と感謝を込めて・・・

えら まり こ えんゆうじゅくもと
・江良眞理子さん（遠友塾元スタッフ）

30周年心からお祝い申し上げます。工藤先生御夫妻とスタッフの皆様的情熱とごどりよく ころから かんしゃいた
御努力に心から感謝致しております。
ほうふ ゆめ いっしょ み いただ ころ れいもう あ ほんとう
亡夫のライフワークにとの夢を一緒に見させて頂き、心からお礼申し上げます。本当に
おめでとうございます。

て の
・出野タイさん

それぞれ厳しい環境の中、遠友塾へ通われている皆さん、そしてそれを支えていらっしゃるスタッフの皆さんに、いつも感動しております。
さくねんどうしんぶんかしょう とき けいぞく ちから みな がんば くだ
昨年道新文化賞をいただいた時もうれしかったです。継続は力です。皆さん頑張って下さい。

とくなが ち せ えんゆうじゅくもと
・徳永知勢さん（遠友塾元スタッフ）

しみんかいかん いっきせい むか わたし いちいん きんちょう えんゆうじゅく
市民会館に一期生を迎え、私もスタッフの一員として緊張していた遠友塾スタートの日が目には浮かびます。学ぶことは生きる力と受講生に教えてもらい、80才の今も大学の社会人聴講生を続けています。昨年はイタリア美術、今年は中国美術、楽しいですよ！

ねもと こ
・根本ちえ子さん

しゅく ねん わたし わか ころ もとだいひょうくどう ふさい せ わ
祝30年ですね。私が若い頃、元代表工藤ご夫妻にはたいへんお世話になりました。

スタッフの皆様、夜間中学設立に向けて難局は大ですが、がんばりましょう。

かわしましげる
・川島 滋さん

わたしはこの10月で88歳になりました。今でも勉強をつづけております。そのことを皆にお伝え下さい。

いぬい よしこ
・乾 淑子さん

夜間中学の公立化を目指して、まだまだ課題が山積みですね。よろしくお願い致します。

そつぎょうせい ○ 卒業生

ひびのひろあき
・日比野博明さん

30周年記念おめでとうございます。私は勉強は楽しく学ぶことができました。本当にありがとうございました。

きくち
・菊地ユキさん

遠友塾30周年記念おめでとうございます。人生忘れられない3年間でした。楽しかったです。先生・スタッフの皆様には大変お世話になり、学ばして頂きました。ありがとうございました。懐かしく思い出しております。

コロナ禍早く治まりますよう祈ります。どうぞご自愛をお願い致します。

いぐちのぶこ
・井口伸子さん

拝啓 だんだん寒いので、お体に気を付けて勉強を頑張ってください。

こづか りみ こ
・小塚婦美子さん

30周年おめでとうございます。遠友塾での20年間は私にとって宝物です。これ
からも、ますますの発展をお祈りいたします。

うめつ しづ こ
・梅津志津子さん

楽しかったの一言に尽きますね。卒業後今でもお付き合いをさせて頂いている友人もで
きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

わたなべ よりこ
・渡辺順子さん

30周年おめでとうございます。皆様のご尽力により多くの困難を乗り越え、30
周年という大きな節目を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。遠友塾のま
すますの発展、そして受講生の笑顔が続きますように!!

いけだりょうこ
・池田良子さん

遠友塾30周年誠にありがとうございます。15回卒業生として工藤代表スタッフ
の皆様にご敬意を表し心より感謝申し上げます。工藤代表のたゆまぬ行政へのアタッ
クと苦難の30年、安定と継続祈願望みます。

ひぐち はるか
・樋口遼さん

30周年おめでとうございます。私も高校生活、頑張っています。世界史がとても好き
です。

なかや
・中屋カホルさん

札幌遠友塾30周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。塾長その他スタッフ
の皆様の努力と協力のたまものに頭が下がります。感謝してます。

また、皆さんの事を思い出しています。幾つになっても学びたいですね。皆さん体につけて下さい。

ながのきょうこ
・長野京子さん

札幌遠友塾30周年記念は札幌の歴史にも残ることでしょう。30年間を支えてくれた方々を尊敬致します。私は10年前、長年の夢であった高校進学が出来たらと、遠友塾で学んだおかげで、59年ぶりに卒業することができました。遠友塾を忘れたことはありません。人生の最高の喜びとなっております。

ほんもとさだと
・本元真人さん

長い間、ありがとうございました。毎回のおたより楽しみにしておりました。父は95歳になり、慢性硬膜下血腫で手術しましたが、右片麻痺・記憶障害となりました。これから、ずっと田中病院にお世話になることと。今までありがとうございました。皆様もお元気で(代筆)。

たかはしすえ
・高橋静江さん

8回卒業生です(2000年)。中卒の私は学校に通いたかった思いを、脳出血で半身不随になって、やっと立って歩けるようになった時、新聞で募集をみて、後先考えずに電話しました。車椅子の同級生に元気をもらって通学しました。私のくんしょうです。ありがとうございました。

なかやまゆみ
・中矢真弓さん

遠友塾は宝船。学ぶことができ感謝いたしました。

(俳句)『学び舎に無差別攻撃終戦日』(目をつむると視えます) 国民小の4年生でした。

30周年おめでとうございます。遠友塾とのめぐりあいを大切に抱きしめます。

・田本圭子さん

30周年おめでとうございます。私もお世話になりました。夜間中学も出来るのとこと、今後共、皆さまのご健康を祈りつつ、ご発展願って止みません。

・二敷富士子さん

遠友塾30周年おめでとうございます。私は5年間学ばしてもらって、今では老人クラブで役員もやれるようになりました。本当にありがとうございました。

・本田キミ子さん

30周年おめでとうございます。初代先生方大変ご苦労されたことでしょう。80才～3年とても楽しく勉強させて頂きました。小学校も満足に行けず、初めての卒業証書、皆勤賞、私の宝ものです。ほんとうにありがとうございました。

感謝 92才。

・高島英之さん

私も二十何年前にここに来て勉強しました。あの頃が懐かしいです。これからもずっと続いてほしいです。

・小野寺宏基さん

体調に気をつけてください。

・佐々木京子さん

30周年本当におめでとうございます。色々思い出します。高齢のため手も足も

ふじゆう ひとり である でき みな これからもがんばって下さい。 心
不自由になり一人で歩くことが出来ません。 皆さんこれからもがんばって下さい。 心
よりおいのりしています。

たかいやすこ
・高井康子さん

70才を過ぎて遠友塾・有朋高校で勉強しました。今でも高校の教科書は手許にあり
ます。学ぶ事は大好きで楽しいです。誰もが楽しく学べる平和（コロナの無い）が来てほ
しいです。遠友塾の為に貢献下さっている先生スタッフの皆様、
心から感謝いたします。

たかはしあつこ
・高橋淳子さん

遠友塾30周年おめでとうございます。先の戦争で学べなかった私は、6期生として
工藤先生ご夫妻のお優しいお導きのおかげで、中学生としての3年間が有意義で大切な
宝物と成って居ります。

たけなかりゆうこ
・竹中隆子さん

30周年おめでとうございます。ここ迄の道のりは大変な御苦労があったと思います。
そして、今があり私達は楽しく学ぶ事の喜びを感じました。皆さんとのご縁を大切に、
先生スタッフの方々のこれからの活躍を、心からお祈り致します。

よしだはつえ
・吉田初江さん

30年って一言に尽きますが、長い長い間スタッフの皆様のご尽力があってこそで、
感謝と共に大変に喜ばしい事ですね。豊かな心で人としてあるべきをご指導いただき、
98才。足・腰・脳の弱体化故、英語を復習しています。来世があれば“学び”たい。遠友
塾よとこしえに。

なかむら ゆ き こ
・中村由紀子さん

30周年おめでとうございます。自粛生活の中、溜まったビデオを整理。その中に2018年3月16日放送された遠友塾のテープを見つけ再生、懐かしい先生スタッフの顔を見ながら、当時の学びに思いを馳せております。皆様、今後もお体を大切に頑張ってください。

にしかわ まきこ
・西川真喜子さん

私は在学中ずっと先生方の熱い思いの源は何かと思ってきました。この30年間の弛まぬ努力の積み重ねが政治さえも動かし、「夜間中学」設立の実現に近づいている事、もっと多くの人達にその機会を与えたいという情熱に敬意を表したいと思います。週に一度の「遠友塾」、本当に私達の学びたいという気持ちに寄り添い、支えてくれた事に、多くの同窓生はあの素晴らしい時間をそれぞれの心の宝物とと思っている事でしょう。感謝と共に益々の発展を祈念いたしております。

おおさき れいこ
・大崎玲子さん

30周年おめでとうございます。一言で30年と言いましても、生まれた子が30才になるまでの苦労、並大抵では無いと思います。でも、見事に花は咲きました。私も昨年からは来年は30周年、出席すればなつかしい友に会えると楽しみにしておりましたが、コロナのせいで、卒業式・入学式・遠足・クラス忘年会など、皆オジャン。大変な年でございました。末筆では御座居ますが、13年間お世話になりました遠友塾を、今春卒業致しましたが、遠藤代表初め諸先生スタッフの皆様ありがとう。

とくめい かた
・匿名の方からのメッセージです

このたびはおめでとうございます。気のきいた文は書けませんのですみません。

まいにちいそが なか せんせいたち あたま さ せんせいがた しんぼく と き すく た
毎日忙しい中、先生達には頭が下がります。先生方の親睦の時の少ないですが足しに

して下さい。これからも宜しくお願いします。

(寄付して頂いた5万円は、遠友塾の活動に使わせて頂きます)

さいとうのぞみ
・斎藤 望さん

2年間仕事をしながら通いましたが、あっという間の2年間でした。1年目は息子と一緒に通いました。今も疲れてくると、またあの教室に戻りたいなああとつぶやいています。

夜間中学校は、子供の時からずーっとぽっかりあいたままの心を満たしてくれたところでした。

息子にとっても世の中へ一歩ふみだせるようになった1年間でした。

こんどうあさこ
・近藤朝子さん

遠友塾に通って、学ぶことが生きがいになりました。これは一生の宝物です。献身的なスタッフやボランティアの皆さんに本当に感謝しています。ありがとうございました。

こまつこういち
・小松公一さん

夜間中学の記事が目にとまり思い出してしまった。白線帽子すてた日を思い出ぐらす
恩師のことは、70すぎても忘れない悲しい思い出。

○ 遠友塾への協力者

しみすよしはる えんゆうじゅくもと
・清水芳洞さん（遠友塾元スタッフ）

ひとつの大きな節目を迎え、益々のご発展をお祈り申し上げます。

『教育とは教はりしことおしなべて 忘れし後に残るものをいふ』

『高齢の夜学の生徒のおほどかさ 休み時間に漬物ふるまう』

『樺太を引揚し辛苦 とつとつと語りて震う老夜学生』

• 佐藤 信さん (元向陵 中学校校長)

12年前の感動の身震いは今でも鮮明に蘇ってきます。遠友塾の受け入れが決まり、キタラでの合唱コンクールにご招待しました。閉会式で私の話が終わったその時、くるま 車の遠友塾の方が「皆さんの合唱を聴いて感動した！自分もがんばりたい！」とさけ 叫び大ホールに響き渡ったのです。一瞬間の静寂。その後、生徒席から誰ともなく自然に拍手が湧き上がり、その輪が生徒全員に、そして保護者席へと、キタラの大ホールが拍手の渦に包まれたのでした。

• 石井 香奈さん (遠友塾元スタッフ)

30周年おめでとうございます。数年の間でしたが遠友塾に関わらせて頂いたことは、わたしにとって大きな財産です。今、教員として教育に関わっているのも、皆さま方の学びに対する志のおかげです。ますますのご発展をお祈りしています。

• 篠原 省三さん (遠友塾元スタッフ)

遠友塾30周年おめでとうございます。私も70才から80才までの10年間スタッフとして楽しくお手伝いできた事、楽しい思い出になっております。

• 荒澤 ひろみさん

30年という長きにわたり活動を支えてこられたたくさんのスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。活動の輪がひろがり、幸せや喜びの花々が咲きほこっている様子を大変うれしく感じております。

• 杉本 貢さん

30周年お疲れ様です。北海道で2つ以上の夜間中学校を目指しましょう。

先日高知県教委の説明会に参加し、積極的な姿勢から多くのことを学びました。

『教えるとは共に未来を語り、学ぶとは誠実さを胸にきざむこと』

ルイ・アラゴン

ここのかすえ
・河野和枝さん

えんゆうじゅく しゅうねんまこと けいぞく ちから えんゆうじゅく
遠友塾 30周年 誠におめでとうございます。「継続は力なり」といいますが、遠友塾

そのものです。政府の教育政策に加えられた夜間中学運動の美りと感動しています。

こんご こゆう まな はってん くだ
今後その固有の学びを発展させて下さい。

あきたたかし
・秋田隆志さん

はいけい こうかん こう
拝啓 向寒の候

みなさま はってん よろこ もう あ
皆様ますます発展のこととお慶び申し上げます。

やかんちゅうがく せいと みなさま せんせい みなさま しゅうねん
夜間中学の生徒の皆様、先生、スタッフの皆様30周年おめでとうございます。

みな まな しえん こんご わか せたい かがみ
皆さんの「学びたい」「支援したい」を、今後とも「若い世代への鏡」として

その情熱が、社会へ伝わりますように。今後とも、微力ながら応援いたします。

けいぐ
敬具

まつながしょうじ
・松永昭治さん

か すがないかく め しじょどりよく こうじょ い
代わった菅内閣は、目いっぱい自助努力したところに公助を、と言っています。それなら

30年もがんばった遠友塾への国からの応援に期待したいものです。先日釧路の夜間

中学のとりくみが道新にありました。遠友塾同様、スタッフのみなさんの尽力に頭

が下がりました。

すべ かい は こっかい どうぎかい しちょうそんぎかい かくぎいん
○ 「全ての会派の国会・道議会・市町村議会」の各議員

ひろあき さっぽろしぎかいぎいん
・ふじわら広昭さん（札幌市議会議員）

ねんかん そつぎょう おお みなさま ほんとう くらう
30年間に卒業された多くの皆様、本当にご苦労さまでした。

さっぽろしな いちいち はや おお みなさま ま のぞ こうりつ やかんちゅうがく かいこう
札幌市内に一日も早く多くの皆様が待ち望んでいる公立の夜間中 学が開校するよう、
ちから あ がんば
力を合わせて頑張りましょう。

おがたかおり さっぽろしぎかいぎいん
・小形香織さん（札幌市議会議員）

ひとり ひとり ころよ まな すば きょうゆう なに
一人ひとりに心を寄せ、学びわかることの素晴らしさを、みんなで共有することを何よ
りも大切にして、実践されてきた30年だと思えます。公立夜間中 学となって、この実践
たいせつ じっせん ねん おも こうりつやかんちゅうがく じっせん
がいっそう広がることを心から願っております。

しゅうねん
30周年おめでとうございます。

ひなたきよかず いわみざわしぎかいぎいん
・日向清一さん（岩見沢市議会議員）

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん か だお せいかつ
札幌遠友塾 30周年おめでとうございます。コロナ禍にあって、これまで通りの生活・
まな かんきょう まな きも たいせつ ぜんしん
学びがしづらい環境にあります、「学びたい」という気持ちを大切に、これからも前進
つづ おうえん
を続けましょう。いつでもどこでも応援しています。

かたひらかずよし いしかりしぎかいぎいん
・片平一義さん（石狩市議会議員）

じんせい まな はじ まな お ひと い ため
人生は学びから始まり学びで終わる。人として生きる為に!!

みやがわじゅん ほっかいどうぎかいぎいん
・宮川潤さん（北海道議会議員）

しゅうねん けんがく えんかくち
30周年おめでとうございます。見学させていただき、いくつになっても、遠隔地から
でも、まな いよく かんめい う せんそう のこ らか きず つよ ころのこ まな
学ぶ意欲に感銘を受けました。戦争が残した深い傷も強く心に残りました。学ぶ
けんり ほしょう ば えんゆうじゅく やくわり は きたい とも わたし おうえん
権利の保障の場として遠友塾が役割を果たすことを期待すると共に、私も応援してお
ります。

まえかわたかし さっぽろしぎかいぎいん
・前川隆史さん（札幌市議会議員）

せいと たち すがた まな ほどひと じんせい ゆた みな
生徒さん達の姿をみて、「学び」というものがどれ程人の人生を豊かにするか、皆さんの

活動の尊^{かつどう}さをしみじみと感^{かん}じています。更^{さら}なるご活^{かつやく}躍^{きたい}をご期^き待^{たい}しております。

・稲^{いな}田^た保^{やすこ}子^きさん（北^{きた}広^{ひろ}島^{しま}市^し議^ぎ会^{かい}議^ぎ員^{いん}）

まな ともしび
学^{まな}びの 灯^{ともしび}をいつまでも!!

さっぽろえんゆうじゅく みな じゅんすい ほのお さんじゅうねん ねんげつ て つつ ひと
札幌^{さっぽろ}遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく}の皆^{みな}さまの純^{じゅん}粋^{すい}な炎^{ほのお}が三十^{さんじゅう}年の年^{ねん}月^{げつ}を照^てらし続^{つづ}けていたの^{ひと}です^ね。“人^{ひと}が^{あかし}人^{ひと}である証^{あかし}”

・木^き場^ば淳^{じゅん}さん（北^{ほっかい}海^{かい}道^{どう}議^ぎ会^{かい}議^ぎ員^{いん}）

ぜんどうこうりゅうかい しじょうかいさい ひとことごあいさつもう あ さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん
全^{ぜん}道^{どう}交^{こう}流^{りゅう}会^{かい}の誌^し上^{じょう}開^{かい}催^{さい}にあたり一^{ひと}言^{こと}御^ご挨拶^{あいさつ}申^{まう}し上^あげま^す。札幌^{さっぽろ}遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく} 30^{しゅうねん}周^{ねん}お^めめ
でと^{ねん}う^がご^つざ^さい^ほろ^し。い^{こうりつ}い^やい^{かん}よ^{ちゅう}よ^がく^く 20^{かい}2^{せつ}2^あ年^{ねん}4^ら月^{げつ}札^さ幌^ほ市^しに公^{こう}立^{りつ}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}が^{かい}開^{せつ}設^あさ^られ^ます。新^{あら}
た^{いっ}な^ぽ一^む歩^{こん}に^ご向^むけ、今^{こん}後^ごも^ごは^ごた^ごら^ごい^ごて^ごま^ごい^ごり^ごま^ごす。

・小^こ竹^{たけ}と^{とも}も^こさん（札^{さっぽろ}幌^ほ市^し議^ぎ会^{かい}議^ぎ員^{いん}）

えんゆうじゅく しゅうねん じんりょく すべ
遠^{えん}友^{ゆう}塾^{じゅく} 30^{しゅうねん}周^{ねん}ま^{こと}に^おめ^でと^うご^ざい^ます。こ^れま^でご^じん^りょ^くい^ただ^いた^すべ^の
皆^{みな}様^{さま}方^がに、心^{こころ}よ^り感^{かん}謝^{しゃ}と敬^{けい}意^いを^{もう}申^あし上^まげ^ます。

やかんちゅうがく まな じ ここうていかん たか じんせい ゆた かがた
夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}で^の学^{まな}び^{によ}って自^じ己^こ肯^{こう}定^{てい}感^{かん}を^{たか}め、人^{じん}生^{せい}を^{ゆた}か^なもの^にに^され^た方^か々^がた^かく^さ
ん^いら^っし^ゃる^おと^おも^いま^す。

こんご こうりつやかんちゅうがく かいせつ まな もと かがた おも う と きょういくかい かくほ
今^{こん}後^ごは公^{こう}立^{りつ}夜^や間^{かん}中^{ちゅう}学^{がく}が^{かい}開^{せつ}設^あれ、学^{まな}び^を求^{もと}め^る方^か々^の思^かい^を受^うけ^と止^とめ、教^{きょう}育^{いく}機^き会^{かい}が^{かく}確^{かく}保^ほ
さ^るこ^とを^き待^{たい}し^てお^りま^す。私^{わたし}も微^び力^{りょく}な^がら頑^{がん}張^ばっ^て参^まり^ます。

・長^{なが}屋^やい^ずみ^{さん}（札^{さっぽろ}幌^ほ市^し議^ぎ会^{かい}議^ぎ員^{いん}）

しゅうねん なが わた まな ささ つづ ところ
30^{しゅうねん}周^{ねん}お^めめと^うご^ざい^ます。長^{なが}き^に渡^{わた}り「学^{まな}び」を^さ支^さえ^{つづ}続^{つづ}けて^こら^れた^こと^に心^{こころ}か
ら^{けい}意^いを^{ひょう}表^{ひょう}し^ます^とと^もに、人^{ひと}に^{やさ}い^{しゃ}かい^にする^ため^に力^{ちから}を^{つく}尽^{つく}く^して^いき^ます。

いしかわ こ さっぽろしぎかいぎいん
・石川さわ子さん（札幌市議会議員）

まな ねが おお かたがた きぼう かつどう つづ えんゆうじゅく こんご
学びたいと願う多くの方々の「希望」となって活動を続けてこられた遠友塾が、今後も
ひとり おひとりよ そ おお かたがた ささ わたし おうえん
お一人おひとりに寄り添って、多くの方々を支えてくださるよう、私も応援いたします。

つるやさとみ きたひろしましかいぎいん
・鶴谷聡美さん（北広島市議会議員）

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねん ねん がつ はじ ほうもん けんがく
札幌遠友塾 30周年おめでとうございます。2020年2月に初めて訪問、見学させ
ていただき、生徒のみなさん、指導スタッフの方々の授業に向かう姿勢に、「学び」が人生
の希望となっていることを、改めて気づく機会となりました。遠友塾に集うみなさんの
「学び」を大切にする思いを、ひとりまたひとりへとつないで、次の夜間中学の設置に
む いったいぼ あゆ
向けて一歩ずつ歩んでいきましょう。

びりよく わたし おうえん いただき
微力ですが、私も応援させて頂きます。

みちただいき しゅうぎいんぎいん
・道下大樹さん（衆議院議員）

さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんほんとう まな けんり けんぼう こくみん ひと
札幌遠友塾 30周年本当におめでとうございます。学び権利は憲法で国民に等しく
保障されています。政治や行政が教育環境を整備・実行し（公助）、学び支え合いな
がら（自助・共助）学ぶ大切さと喜びを分かち合える社会が広がれば良いですね。私
も皆様と一緒にそんな社会の実現に向けて政治の場で頑張ります。皆様がコロナ禍を乗
り越えて、学び続けることができますようお願いいたします。

○ 全国夜間中学関係 基礎教育保障に関わる方々

かねむらのぶこ くしろじしゅやかんちゅうがく だいひょう
・賀根村伸子さん（釧路自主夜間中学「くるかい」代表）

しゅうねん えんゆう やがっこう こころざし けいしやう なが みち おも
30周年おめでとうございます。遠友夜学校の志を継承しての長き道のりを思うと、
むね ほんしんりよく おお ひと うご みなさん わたしども みちび
胸がいっぱいになります。また、その発信力は多くの人を動かし、そして私共も導か
れました。

こころ かんしゃもう あ
心から感謝申し上げます。ぬくもりのある学び舎をこれからも。

なかしまひろゆき あさひかわ こうりつやかんちゅうがく かいだいひょう
・中島啓幸さん（旭川に公立夜間中学をつくる会代表）

ちい とも みち みちくさ いた まな よろこ きょうゆう
小さく灯り、コツコツひとすじの道を道草しながら、みんなで痛みと学ぶ喜びを共有し
た、ひとりひとりの深いまなざし笑顔は美しい。

おかたとしゆき き そきょういくほしやうがつかいかいちょう
・岡田敏之さん（基礎教育保障学会会長）

しゅうねん まこと
30周年、誠におめでとうございます。

これまでたくさんの人たちの「生きるための学び」を支えてこられた遠友塾がますます
じゅうじつ こころ いの
充実しますよう、心からお祈りいたします。

また、みなさんから学びのエネルギーに寄せさせていただきます。

くろかわゆうこ もとこうりつやかんちゅうがくきょういん
・黒川優子さん（元公立夜間中学教員）

ねんかん みな どりょく ぶか けい い ひょう こうりつやかんちゅうがく かいせつ せま
30年間の皆さまの努力に深い敬意を表します。公立夜間中学の開設が迫ってきまし
たね。いま ほんとう たの こんご ぜんこく やかんちゅうがくうんどう き そきょういくほしやう
今、本当に楽しみにしています。今後全国の夜間中学運動・基礎教育保障の
うんどう ちからつよ ひ くだ しゅうねん
運動を力強く引っばって下さい。30周年おめでとうございます。

ほっかいどう かんせんしょう かくだい しんばい じあい
北海道でのコロナ感染症の拡大、心配しています。どうぞご自愛を。

そえだよしゆみ くしろじしゅやかんちゅうがく もと
・添田祥史さん（釧路自主夜間中学「くるかい」元スタッフ）

ねんまえ えんゆうじゅく たね め ぶ ほっかいどう かだい む あ
30年前に遠友塾がまいた種がようやく芽吹こうとしています。北海道の課題に向き合
う公立夜間中学になるように大事に育ててください。じしゅ こうりつ かんけい かた じっせん
自主と公立の関係のあり方を実践
とお ていき きたい
を通して提起してくれることを期待しています。

すがわらともあき はこだてえんゆうじゅくだいひょう
・菅原智明さん（函館遠友塾代表）

えんゆうじゅく しゅうねん じしゅやかんちゅうがく まな ひとびと いっしょ なが
遠友塾30周年おめでとうございます。自主夜間中学で学びたい人々と一緒に、長い

あいだかつどう
間活動されてきたことは、^{じゅこうしゃ}受講者、^{スタッフ}スタッフ、^{かんけいしゃ}関係者の^{ねつい}熱意と^{どりよく}努力によるものと^{かんぷく}感服しております。^{こんご}今後も^{ますます}益々のご^{はってん}発展を^{きねん}祈念いたします。

^{おかなるびこ}
・岡稔彦さん

^{しゅうねん}30周年！^{こころ}心から^{いわい}お祝いを^{もう}申し上げます。^あスタッフの^{みな}皆さん、^{いま}今も^{まな}学ぶ^{せいと}生徒の^{みな}皆さんへの^{まんこう}満腔の^{けい}敬意とともに……。

^{じょうなんちゅうがっこう}・城南中学校「^{やかんがっきゅう}夜間学級」(^{きたきゅうしゅうし}北九州市)

^{そうせつ}創設^{しゅうねん}30周年おめでとうございます。^{さっぽろえんゆうじゅく}「札幌遠友塾」をこれまで、^{まも}守り^{そだ}育てて^き来た^{じゅこうせい}受講生・^{みな}スタッフの^{けい}皆さんに^{ひょう}敬意を表します。

^かコロナ禍の^{なか}まただ中ですが、^{きた}北と^{みなみ}南で^{とも}共に^{がんば}頑張りましょう！



さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく しゅうねんねんびょう
4. 札幌遠友塾 自主夜間中学30周年年表

西暦	月	「札幌遠友塾自主夜間中学のあゆみ」と条件整備の軌跡 (1)	場所
1987	9	遠友塾読書会開始（牧野金太郎世話人） 「君たちはどういきるか」他	北海道教育会館
1989	10	第1回設立準備会開催 15名参加	札幌市民会館
1990	4	結成式・開講式 104名参加（代表：後藤鎮義，事務局長：馬場克明，事務局員：工藤慶一）	札幌市青少年センター
1993	3	第1回卒業式	札幌市民会館
	4	卒業記念パーティー・同窓会設立	共済ホール
1995	7	”満5周年遠友のつどい” 92名参加	共済ホール
1996	8	（代表交代：工藤 慶一）	
1999	7	”開講10周年記念のつどい” 140名参加	共済ホール
2002		札幌市民会館 耐震構造の問題から5年後の取り壊し決定	
2003	3	全国夜間中学校研究会が日本弁護士連合会に人権救済申立 （札幌遠友塾受講生3名：日弁連に作文提出～弁護士聞き取りによる）	
	4	「じっくりコース」開設	
	10	市民会館取り壊しに伴う代替教室場所確保の要望書を札幌市教育委員会に提出	
	10	夜間中学の映画「こんばんは」上映会 370名参加	かでの2・7
2004	9	”15周年記念のつどい” 106名参加	札幌グランドホテル
2006	5	来年度における「札幌市民会館」の代替として「教育文化会館」認められる	
	8	日本弁護士連合会 政府に意見書提出 「学齢期修学することのできなかった人々の教育を受ける権利の保障に関する意見書」	
2007	1	上田札幌市長に学校の教室使用と教育文化会館使用料半額減免の要望書提出	
	2	教育文化会館使用料半額減免が認められる	
	3	第15回卒業式をもって札幌市民会館閉鎖	札幌市民会館
	4	第18回入学式 26名	札幌市教育文化会館
	5	北海道に夜間中学をつくる会設立（札幌市と北海道に5項目要望書提出）	
	9	「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人々への修学保障についての 請願書」を北海道議会に提出	
	10	「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人々への修学保障についての 陳情書」を札幌市議会に提出	
	10	札幌弁護士会より第4回人権賞受賞	札幌弁護士会館
2008	1	札幌市議会文教委員会にて陳情審議（工藤陳述）～継続審議となり3月末廃案	札幌市議会
	4	旭川遠友塾開設	
	5	「調査の結果、市中心部で専用の空き教室はなかった」との市教委回答に対して 受講生・スタッフ35名で市教委と話し合い	札幌市教育委員会会議室
	7	札幌市立向陵中学校試行使用（11月新年度向陵中学校での授業が認められる）	札幌市立向陵中学校
2009	4	第20回入学式を札幌市立向陵中学にて挙行29名/函館遠友塾・釧路「くるかい」開設	札幌市立向陵中学校
	9	”20年記念のつどい” 170名参加	札幌市教育文化会館
	12	第55回全国夜間中学校全国大会（神戸）で、「夜間中学の法整備」に向けて 超党派国会議員に積極的に働きかけを行う提案がなされる。	神戸市総合教育センター
2010	1	全道6万人署名 北海道議会に提出	
	8	（代表交代：井上 大樹）	
2012	4	（代表代行：富田 忠義）	
	8	（代表交代：遠藤知恵子）	
	8	義務教育等学習機会充実法に向けた「超党派参加・国会院内の集い」（171名参加）	衆議院第二議員会館
	9	”北海道自主夜間中学フォーラム” 150名参加	釧路市生涯学習センター
	12	義務教育等学習機会充実に関する法案整備を求める国への意見書全会一致で採択	札幌市議会・北海道議会
2013	4	受講生Nさん川北小学校で授業を受け始める	
	8	義務教育等学習機会充実に関する議員立法成立に向けた「超党派参加国会院内シンポジウム」（127名参加）	衆議院第二議員会館
	8	”北海道自主夜間中学交流会” 国語・数学の公開授業（100名参加）	エルプラザ
	11	社会貢献支援財団より社会貢献者表彰受賞	帝国ホテル東京

西暦	月	「札幌遠友塾自主夜間中学のあゆみ」と条件整備の軌跡 (2)	場所
2014	4	夜間中等義務教育拡充議員連盟発足（超党派国会議員57名）	衆議院第一議員会館
	8	「夜間中等等の全国拡充に向けた」国会院内シンポジウム（183名参加） 札幌市議会に国勢調査教育項目改善に関する陳情書提出	衆議院第一議員会館
	9	”北海道自主夜間中学交流会”in函館(120名参加)	函館ロワジールホテル
	10	「義務教育未修了者の実態把握と教育環境整備を求める意見書」採択 札幌市議会総務委員会にて陳情審議（工藤陳述）全会一致可決	北海道議会 札幌市議会
	11	「義務教育未修了者の実態把握のため、国勢調査の「教育」項目の改善を求める意見書」本会議にて採択	札幌市議会
2015	5	「超党派フリースクール等議員連盟」と「夜間中等義務教育拡充議員連盟」が合同で議連総会開催。立法チーム設置。	憲政記念館
	6	今国会での義務教育未修了者のための法成立を期す国会院内の集い（180名参加）	衆議院第二議員会館
	9	”北海道自主夜間中学交流会・札幌遠友塾25年の集い”（131名参加）	札幌市教育文化会館
2016	5	第7回基礎教育保障学会準備会開催（札幌遠友塾の受講生20名含む67名参加）	北大教育学部
	8	基礎教育保障学会設立総会	国立国語研究所 立川市
	9	文部科学省事務次官”前川喜平氏”札幌遠友塾視察	札幌市立向陵中学校
	9	”北海道自主夜間中学交流会”	札幌市立向陵中学校
	11	札幌市議会に「公立夜間中学校のすみやかな設置を求める陳情書」提出	札幌市議会
	12	「教育機会確保法」公布	国会
2017	2	札幌市議会文教委員会陳情審議（工藤陳述）全会一致可決	札幌市議会
	2	秋元札幌市長札幌遠友塾視察・札幌市議会本会議において陳情第240号採択	札幌市議会
	9	第2回基礎教育保障学会研究大会	大阪教育大学
	9	”北海道自主夜間中学交流会”	札幌市立向陵中学校
	11	第1回夜間中等等に関する協議会開催	道庁本庁舎
2018	3	第2回夜間中等等に関する協議会開催	道庁別館
	6	衆議院議員馳浩氏他の夜間中等議員連盟に所属する議員に国勢調査項目改善の陳情	国会議員会館
	7	第3回夜間中等等に関する協議会開催（提言書「公立夜間中学について」提出）	北海道第二水産ビル
	7	7・27全国に夜間中学の開設を！研修交流会（140名参加）	衆議院第一議員会館
	9	第3回基礎教育保障学会研究大会	首都大学東京 南大沢
	9	胆振東部地震発生により北海道自主夜間中学交流会中止（誌上記録誌発刊）	
2019	1	第4回夜間中等等に関する協議会開催（札幌市に公立夜間中学校の設置確認）	北農健保会館
	2	札幌市長谷川教育長 本会議答弁にて公立夜間中学校設置を前向きに検討と答弁	札幌市議会
	4	札幌市長選挙における2候補共に札幌市に公立夜間中学校設立公約	
	6	札幌市補正予算事業で「公立夜間中学校設置に向けた調査費300万円」計上	
	8	第4回基礎教育保障学会研究大会	京都教育大学
	9	”北海道自主夜間中学交流会”	札幌市立向陵中学校
	9	札幌市本会議において長谷川教育長 2022年4月公立夜間中学校開校答弁	札幌市議会
	10	映画「こんばんはII」上映講演会（全国夜間中学キャラバンスタート：157名参加） 森監督・関本さん・戎さんの講演、相沢札幌市教育部長の挨拶	札幌市教育文化会館
	11	札幌遠友塾第73回北海道新聞社文化賞受賞	
	11	第5回夜間中等等に関する協議会開催	道庁本庁舎
2020	3	札幌遠友塾コロナ禍のため休校（8/19の2学期開始までの間）	
	6	札幌市教委による公立夜間中学校の在り方検討会議第1回開催	オンライン開催
	7	札幌市教委による公立夜間中学校の在り方検討会議第2～4回開催	札幌市教育委員会会議室
	8	道教委作成の全道市町村教育委員会宛資料に対する意見書を遠藤代表・工藤提出	
	8	協議会に新たな提言書「北海道における公立夜間中学の設置に向けて」提出	
	9	共催による第5回基礎教育保障学会研究大会（主催：法政大学図書館司書課程）	オンライン開催
	9	札幌遠友塾30周年記念事業（コロナのため北海道自主夜間中学交流の集い中止） ●「遠友だより」（30年分209号）・「こんばんは遠友塾です」（10年分26号）冊子刊行 ●夜間中学講演（DVD作成） ●誌上交流会記録誌2021/3発刊予定	

5. 札幌遠友塾 自主夜間中学受講生数の推移

札幌遠友塾自主夜間中学受講生数の推移

年度	入学者		卒業生	修了生				合計	(卒業+修了) 3月在籍者	教室場所	登録 スタッフ
	4月	3月		卒業期	1年生	2年生	3年生				
1990	86			85				85	85	札幌市民会館	31
1991	64			48	63			111	111	〃	33
1992	8	43	1期	12	29			41	84	〃	27
1993	18	18	2期	20	13	9		42	60	〃	25
1994	13	11	3期	18	17	5		40	51	〃	34
1995	35	14	4期	30	15	6		51	65	〃	43
1996	41	13	5期	43	27	4		74	87	〃	43
1997	31	19	6期	28	40	7		75	94	〃	33
1998	14	35	7期	23	22	8		53	88	〃	31
1999	31	18	8期	31	19	7		57	75	〃	51
2000	20	10	9期	21	28	13		62	72	〃	48
2001	25	20	10期	24	14	11		49	69	〃	42
2002	14	12	11期	11	18	8		37	49	〃	41
2003	21	6	12期	20	7	19		46	52	〃	47
2004	41	5	13期	34	22	7		63	68	〃	50
2005	31	10	14期	27	25	15		67	77	〃	60
2006	17	19	15期	19	24		5	48	67	〃	57
2007	26	17	16期	24	22	2	8	56	73	札幌市教育文化会館	69
2008	32	13	17期	28	23	6	10	67	80	〃	78
2009	29	15	18期	23	24	6	10	63	78	札幌市立向陵中学校	79
2010	25	19	19期	23	25	2	10	60	79	〃	67
2011	12	18	20期	13	26	6	10	55	73	〃	79
2012	20	19	21期	17	16	7	12	52	71	〃	79
2013	12	9	22期	19	14	7	16	56	65	〃	78
2014	11	11	23期	9	20	5	12	46	57	〃	78
2015	10	10	24期	13	25	2	10	50	60	〃	79
2016	10	3	25期	23	13	4	8	48	51	〃	74
2017	18	5	26期	22	19	5	8	54	59	〃	72
2018	20	13	27期	25	18	5	12	60	73	〃	78
2019	23	10	28期	24	25	4	13	66	76	〃	85
2020	7									札幌市教育文化会館	
総計	765	415		757	653	180	144	1734	2149		

* 資料: 卒業文集(第1号~28号)に掲載された”札幌遠友塾自主夜間中学のあゆみ”より

* 年度: 4月新学期開始から翌年3月の卒業修了式の1年間

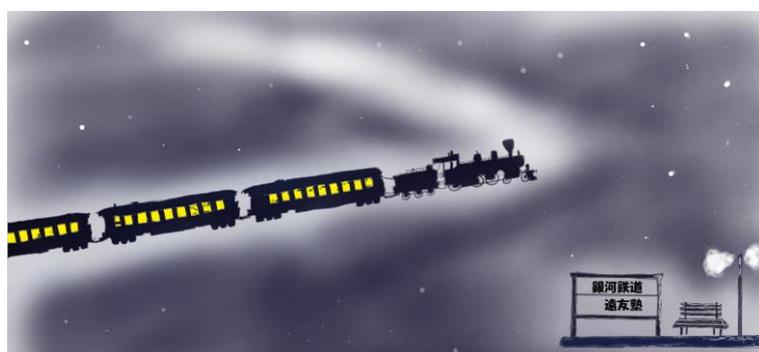
* 入学者: 入学式に参加できた人数のことをいい、卒業後の再入学者も含まれます。
(1990年のみ第1回授業開始人数・2020年入学式はコロナのため8月実施)

* 卒業生: 初めて3年生を修了する人のみ、「卒業生」となります。

* 修了生: 卒業生以外の方で1年間で修了した方は、すべて修了生となります。

* じゅくり: 個別学習の場として、2003年に「じゅくりコース」開設。
2006年に「じゅくりクラス」になりました。

遠友丸



(イラスト：堀米久仁子^{ほりこめく にこ})

だい ぶ
第3部

さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく
札幌遠友塾自主夜間中学

ねん つど きねんこうえんかい
「30年の集い記念講演会」

- こうえん とうりつやかんちゅうがく じしゅやかんちゅうがく ふかざわよしたか
講演1 「公立夜間中学、それとも自主夜間中学」(深澤吉隆)
- こうえん だい こうこうせい よねたとよみつ よねたとよみつ
講演2 「70代の高校生 米田豊満」(米田豊満)
- こうえん つま てがみ にしはたもつ
講演3 「妻への手紙」(西畑保)

こう えん ろく
講 演 録

にち し ねん がつ にち ど こご し ぶんかいえん
日 時：2020年9月12日(土)午後1時30分開演

ば しょ かい だいかいぎしつ
場 所：かでの2・7 4階 大会議室

講師プロフィール

*西畑 保（にしはた たもつ）氏 1936年1月5日生まれ

- 小学校は2年生頃より学校に通えなくなる。
- 以後、文字の読み書きができないことで多くの壁にぶつかる。
- 2000年4月、退職を機に春日中学校夜間学級に入学
- その後、文字を取り戻し、苦勞をかけた妻にラブレターを送る。
- 2003年 住友信託銀行「妻から夫に、夫から妻に。60歳のラブレター」金賞受賞
- 2010年 内閣府「平成22年度家族や地域の大切さに関する作品コンクール」手紙、メール」一般の部優秀賞
- 2020年 春日中学校夜間学級卒業

*米田豊満（よねだ とよみつ）氏 1948年11月3日生まれ

- 12歳よりグローブや靴づくりの職人として働く。
- 2016年6月 春日中学校夜間学級に入学
- 2017年度より生徒会長を歴任
- 2020年3月 春日中学校夜間学級卒業
- 2020年4月 奈良県立大和中央高校入学

*深澤吉隆（ふかざわ よしたか）氏 1965年2月15日生まれ

- 1990年4月 奈良市立中学校教員
- 2011年4月 奈良市教育委員会事務局指導主事
- 2016年4月 奈良市立春日中学校夜間学級教頭
- 2020年4月 奈良県立同和問題関係史料センター所長



ひだり 左から にしはたもつ 西畑 保さん、 よねたとよみつ 米田 豊満さん、 ふかざわよしとか 深澤 吉隆さん



よねたとよみつ 米田 豊満さん



にしはたもつ 西畑 保さん



（用語の説明：本講演録の中で使われている用語「バリアフリー」「新渡日」
「学齢期」「SDGs」については、講演録の最後に説明があります。）

○司会（遠友塾スタッフ浦田修一）

皆さん、こんにちは。ご苦労さまです。

ただいまから、札幌遠友塾自主夜間中学30年の集い記念

講演会を開催いたします。開催に当たりまして、札幌遠友塾自主

夜間中学の遠藤知恵子代表から、挨拶と講師の紹介をさせていただきます。



○遠藤 皆さん、こんにちは。

私たちは、毎年、道内に四つある自主夜間中学を中心に、

年に1回ずつ体験発表をして交流を行う全道交流会を開い

てまいりました。

今年の全道交流会は、札幌遠友塾の30周年記念にも当たりますので、大々

的に行う予定でございました。ところが、残念ながら、コロナウイルスの蔓延が

収まらなくて、2年前と同じく誌上交流、発表いただいたものを文章化して

冊子にすることになってしまいました。

ただ、夜間中学での学びのすばらしさについて、ぜひ体験談をお話ししてい

ただく機会を持ちたいと思ひまして、古い歴史を持つ奈良の春日中学校の

卒業生とスタッフの方のご講演を企画してまいりました。厳しい環境の中で

夜間中学と出会い、学びによって人間的な生活を実現されたその豊かな経験を

お話しいただけることと思ひます。そこからきっと多くの励ましを得られるの

ではないかと期待しております。

このご講演だけはぜひ実現したいと思ひていましたところ、幸い、人数を

大幅に絞って、小規模ながら実現することができる状況となりました。ありが

たいと思ひております。せっかくの貴重な体験ですので、ビデオで収録して多

くの方々に見ていただきたいと思ひております。

ところで、春日中学は、遠友塾の皆様のご記憶にもあると思ひますけれども、



いっさくねん いぶりとうぶじしん わたし ひごろしやう がっこう つか
一昨年の胆振東部地震で、私たちが日頃使用している学校を使えずに、つらい
おも
思いをしているときに、「頑張れ、負けたらあかんで」という寄せ書きを送って
くださいました。はるか遠い関西からの寄せ書きにととても励まされまして、元氣
で できごと おも だ
の出来る出来事だったことを思い出します。

もう一つ、春日中学校の思い出は、数年前に、全国夜間中学研究大会だった
とおも
と思いますが、遠友塾の受講生さんたちと一緒に参加した時のことです。
かすがちゅうがっこう がっこうほうもん しゅたいてき かっぱつ かつどう せいとかい ようす み えんゆうじゅく
春日中学校の学校訪問で主体的に活発に活動する生徒会の様子を見て、遠友塾
の受講生さんも大いに刺激を受けまして、しばらくは生徒会をつくりたいとい
う話をしておりました。このように、距離は離れていても、はるか関西からの
はげ ぜんこくこうりゅうかい たいけん おな かだい きょうゆう かがたがた こうりゅう いぎ
励ましや全国交流会での体験で同じ課題を共有する方々との交流、その意義
つよ かん
を強く感じたものです。

きょう
今日は、その春日中学夜間学級を卒業されたお二人と、この3月までそこで
きょういん せんせい にん かた はなし ねが
教員をしておられた先生の3人の方にお話をお願いいたしました。

ここで、3人の方々の略歴をご紹介します。

みなさまが たもと おも うらめん こうし いんさつ
皆様方のお手元にあると思いますが、裏面に講師プロフィールが印刷されて
おりますので、それをご覧になっていただきたいと思います。

にしはたもつ はくしゅ にしはた ねん がつ
まず、西畑保さんです。(拍手) 西畑さんは、1936年1月生まれですか
ら、もう84歳になられます。私よりも先輩です。そこに書いてありますよう
に、しょうがくせい ころ がっこう かよ もじ よか おお
小学生の頃から学校に通えなくなり、文字を読み書きできないことで多く
かべ あ い
の壁にぶち当たってこれたと言っております。

ねん がつ しごと たいしよく かが
2000年の4月に仕事をしておられたところを退職されて、そこから春日
ちゅうがっこう やかんがきゅう にゅうがく もじ と もと くるう
中学校の夜間学級に入学されたそうです。そこで文字を取り戻し、苦勞をかけ
つま おく かいきよ ねん てがみ
た妻にラブレターを贈るという快挙をなされました。2003年のその手紙が、
おっと つま つま おっと さい ひょうだい きんしょう じゅしょう
「夫から妻へ、妻から夫へ、60歳のラブレター」という表題で金賞を受賞
されました。これについても皆さんのお手元に行っていると思っております、すば

らしいお手紙です。それがさらに、2010年には、内閣府の平成22年度「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」の手紙・メールの一般の部で優勝されました。

そして、この2020年3月、春日中学校夜間学級をご卒業されました。

本当にいろいろな体験をされてこられた方ですので、楽しみにしています。

もうお一方は、米田豊満氏です。(拍手) 米田さんは1948年11月の生まれで、まだ誕生日が来ていないので、71歳ですね。12歳よりグローブや靴作りの職人として働いてこられた方です。2016年に春日中学校の夜間学級に入学し、2017年から生徒会の会長を歴任されてこられました。

そして、この春の2020年3月に、西畑さんとご一緒にご卒業されました。

現在は、さらにその先に進まれまして、奈良県立大和中央高等学校に入学されました。非常に意欲に燃えた方です。

このお二人のほかに、もうお一方にお話しいただきます。

深澤吉隆氏です。(拍手) 深澤さんは、1990年に奈良市立中学校の教員になられて、教育畑にずっと勤めてこられますが、平成16年4月に、奈良市立春日中学校の夜間学級の教頭先生になられて、このお二人と一緒に学校におられた方です。

この3月に退職されたのですね。

○深澤 転勤です。



○遠藤 すみません。54歳ですから、ずっと若いんですね。転勤で、奈良県立同和問題関係史料センターの所長さんとして転勤されました。

いろいろな人権問題等々に関わる重要な史料センターの所長さんとして、いろいろな体験についてお話しいただけるとおもいます。

それでは、3人の方々からよろしくお願いいたします。(拍手)

○司会 最初に、深澤吉隆さんからご講演いただきます。

演題は「公立夜間中学？ それとも自主夜間中学？」ということでお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○深澤 改めまして、皆さん、こんにちは。

今、紹介していただきました深澤と言います。

ここに来たときに、「フカサワ」ですか「フカザワ」ですかと聞かれたのですが、深澤という苗字は関東エリアに結構多いのです。しかし、大本は、山梨県という場合が多いのです。私のご先祖様は山梨県だったようですが、山梨県の深澤グループは「フカサワ」らしいです。なぜか東京に行った人たちが濁って「ザワ」になっているという話を聞いたことがあります。今日の話にあまり関係ないのですが、よろしくお願ひします。

今、挨拶の中にもあったのですけれども、ほとんど何の支援もない中で、自分たちの力で高い理念を持って、30年、遠友塾自主夜間中学校を運営してきたスタッフの方々には、本当に敬意を表したいと思います。また、それをお手伝いしてくれている方や応援してくれている方、それから、何よりもそこに通っている生徒さんにも、改めて敬意を表するとともに、これからも頑張っていたければと思います。

また、今日のこういう貴重な場に私たちを呼んでいただいて、話す機会を与えてくれたことに非常に感謝するとともに、せっかくのこういう機会ですから、何かの役に立てられればうれしいと思いながらお話をさせていただきたいと思っております。

私は、北海道における公立夜間中学校の話をお聞きすることがないので、

どんな話をしているかと考えていましたが、札幌にも公立夜間中学校ができるということで、今日は、公立の中学校があっても自主夜間中学校の役割が非常に大事だということを含めて話をしていると思いました。そして、タイトルも、「公立の夜間中学？ それとも自主夜間中学？」という形にさせていただきました。

自主夜間中学校の目標は、公立夜間中学校をつくるということです。公立になれば中学校の卒業資格がもらえますし、専任のスタッフが来て授業を教えるなど、環境が整うわけですが、公立ができて公立に通うことができない生徒さんもいます。ですから、公立夜間中学校ができることは最大の目標ですけれども、もとより中学校の選択肢がたくさん増えるというのは、学習する方にとっては非常にいいことだと思っています。

今、写っているのは、3月で去ってしまいましたが、私たち3人が通っていた春日中学校です（写真1）。校舎は鉄筋コンクリートの2階建てで三十数年たっています。でも、本当に立派に建てていただいて、ところどころで雨漏りはするのですが、耐震も大丈夫だということとで現在も使っております。



写真1 夜間中学（昼間）

これは昼間の写真ですが、夜はこういう感じになります（写真2）。あの看板は後づけで、今から十五、六年か、もうちょっと前に生徒さんが作ったものだそうです。こういう学校です。夜になると明かりがともって、毎日ライトアップされている学校で、皆さんは学習しています。



写真2 夜間中学（夜）

夜間中学校やかんちゅうがっこうというけれども、本当にほんとうに必要なひつようのだからかとよく聞かれます。こういうことをよく言われるのですが、「夜間中学校やかんちゅうがっこうはあってはならないけれども、なくてはならない学校がっこうなのだ」と。あってはならないのは、そもそもこの日本にほんに住んでいる以上は教育いじょうを受ける権利けんりがあって、学校がっこうに通うことができなければならないのです。ですから、そこで漏れてしまうことがあってはならないのです。しかし、実際にじっさい全ての人が学校がっこうに通えて教育きょういくを受けているかということ、そうではない現実げんじつがあって、そういう人たちが苦勞くろうの末に夜間中学やかんちゅうがくにたどり着きました。今いま、学習がくしゅうを続けているということで、その方かたにとってはなくてはならないのです。そういう方かたが一人ひとりでもいる以上はなくてはならない学校がっこうなのだという信念しんねんの下に、我々われわれは日々活動ひびかつどうしております。

まず、夜間中学校やかんちゅうがっこうはなぜできたのか、夜間中学校やかんちゅうがっこうはどんなところなのかという話をはなしします。ここは、ご存じの方せんが多いかたと思うので、さらっと進めようと思おもいます。

まず、できたのは、第2次世界大戦だいじせかいたいせんが終わってからです。戦後の混乱せんご こんらんの中で教育きょういくを受けることができない、それから、いろいろな差別さべつや経済的けいざいてきな問題もんだいで、義務教育きむきょういくを受ける権利けんりが保障ほしょうされなかった方かたたちがその権利けんりを取り戻すためにできたものです。これは先ほども言ったところうよきよくせつです。紆余曲折うよきよくせつはあるのですけれども、現在げんざいも続つづいております。そういった中なかで、春日夜間中学校かすがやかんちゅうがっこうは1978年ねんに開校かいこうしていますから、42歳さいになる学校がっこうです。

最初は、先ほども言いましたように、戦争せんそうや差別さべつなどの理由りゆうで学まなべなかつた方かたたちが来きていたのですが、生徒せいとさんの層そうが変かわってきています。1990年代ねんだいくらいから外国籍がいこくせきの生徒せいとさんが急増きゅうぞうしてきています。これも本当に乱暴ほんとう らんぼうな言い方かたをしてしまうのですが、どういふ方かたが多いかたかということ、中国ちゅうごくから帰国きこくされた方かたやその家族かぞくです。それから、バブルころの頃がいこくに外国らうどうしやからの労働者うけいの受入れかくだいを拡大かくだいしていく中なかで、外国がいこくから仕事しごとで来きたり、結婚けっこんなどで日本にほんにき来た方かたが増ふえています。

いま なら やかんちゅうがっこう せだい かた せいと ちゅうしん
今、奈良の夜間中学校では、この世代の方たちが生徒さんの中心になっていま
す。

そういう形^{かたち}でしばらくきていたのですが、ちょうど私^{わたし}が夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}に勤め
出した前後^{ぜんご}から、春日夜間中学校^{かすがやかんちゅうがっこう}をめぐる状^{じょう}況^{きょう}が大きく動き出します。

それは何か^{なに}と言^いいますと、2015年^{ねん}の7月^{がつ}に文部科学省^{もんぶかがくしょう}が、形式卒業^{けいしきそつぎょうしゃ}者^{しや}、
いわゆる中学校^{ちゅうがっこう}を一度^{いちど}卒業^{そつぎょう}して卒業証書^{そつぎょうしょうしょ}を持^もっている方^{かた}の受入^{うけい}れを認^{みと}めるこ
とになりました。それまでは、不登校^{ふとうこう}やいじめなどで十分^{じゅうぶん}に学^{まな}べなかつた方^{かた}た
ちは夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}に入学^{にゅうがく}できなかつたのですが、できるようになっていきます。

それから、これもご存知^{そんじ}の方^{かた}が多い^{おお}と思う^{おも}のですが、2016年^{ねん}の11月^{がつ}に、
教育機会確保法^{きょういくきかいほほう}という法律^{ほりつ}ができています。その中^{なか}で、これは大きい^{おお}のですが、
国籍^{こくせき}に関係^{かんけい}なく義務教育^{ぎむきょういく}の機会^{きかい}を保障^{ほしょう}していくということで、これに基^{もと}づき、
国^{くに}は、各都道府県^{かくとどうふけん}と政令市^{せいれいし}に、最低^{さいてい}1校^{こう}の夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}を設^せ置^ちしましよと呼^よび
かけることになっていったわけ^{わけ}です。こうしたこと^{こと}から、札幌^{さっぽろ}にも公立^{こうりつ}の夜間
中学校^{ちゅうがっこう}をつくること^{こと}につなが^{つな}がっていった^いたのではない^{おち}かと思^{おも}います。

先^{さき}ほど言^いい忘^{わす}れた^れたのですけれども、今^{いま}は形式卒業^{けいしきそつぎょう}と言^いわれる方^{かた}が入学^{にゅうがく}を始^{はじ}
めています。春日中学校^{かすがちゅうがっこう}は10人^{にん}を下回^{したまわ}るのですが、問合^{といあ}せの数^{かず}が年々^{ねんねん}増^ふえてい
るのですが、夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}の入学^{にゅうがく}に至^{いた}らずにそのまま高校^{こうこう}に行^いってしま^{かた}う方^{かた}がい
ます。しかし、これは選^{せん}択^{たく}肢^しが一つ^{ひとつ}増^ふえたこと^{こと}になり、注^{ちゅう}目^{もく}されつつあること
から、これからは、その形式卒業^{けいしきそつぎょう}と言^いわれる方^{かた}が中心^{ちゅうしん}にな^なってくるのではない^{おち}
かと思^{おも}っております。そうした中^{なか}で、設^せ置^ちが進^{すす}んでいるのか^かということ^{こと}になり
ます。

現在^{げんざい}、夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}は全国^{ぜんこく}に34校^{こう}あります。私^{わたし}の身^み近^{ぢか}には夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}がある
ことを知^しっている人^{ひと}はいるのですが、奈良県^{ならけん}には夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}を知ら^しない方^{ほう}が多^{おほ}
く、知^しっていても全国^{ぜんこく}の中^{ちゅう}学校^{がっこう}はどこも同^{おな}じよう^{おち}だと思^{おも}っている方^{かた}が多い^{おほ}ので
す。私^{わたし}も夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}のことを知ら^しなかつたのですが、夜間中学校^{やかんちゅうがっこう}は、ほぼ関東^{かんとう}

と近畿に集中しています。開校予定のところも含めて、今は大体こんな形です。

来年の4月は徳島県と高知県、福岡県の大牟田市にできます。徳島と高知県立としてできるのですが、県立の夜間中学校は初めてです。その次は、平成22年4月に札幌になります。ほかにもいろいろあるのですが、最近の夜間中学の動きはこのような形になっています。

ここまでが今の全国の大体の様子で、ここから春日中学校の話をしていきたいと思います。

まず、春日中学校は公立の中学校ですので、卒業したら中学校の卒業の資格を得るわけです。卒業生台帳に、昼の中学校に通っている生徒さんと一緒に記載されます。

在学中は中学生ですので、学生証が発行されて、J Rなどは学割を使うと100キロメートル以上は2割引になるし、映画館なども学割で入れるわけですが、では、一体何年間通えるのかということになります。

市では、中学生ですので、基本的に3年とうたっています。しかし、生徒さんの中には小学校を出ていない方もいます。また、中学校を出ていても、十分学べなかった。でも、高校へ行きたい。なるべく早くいきたいけれども、自信をつけたいので、もう一回勉強したいという方もいます。こういう方は、早く卒業したいのです。いろいろなニーズの方がいます。しかし、そもそも授業が4時間しかないのです。公立の昼の中学校は大体6時間あるのですが、夜間中学校は夜ですので、4時間しか取れないのです。これは夜間高校も一緒です。ですので、昼のことを全部やろうとすると、そもそも3年では無理です。

そういうことがあって、春日中学校では最低で1年、最高で9年間在籍できることになっています。1年というのは中学校3年生で編入する形ですが、そういうこともできますし、1年生から入学して、こつこつ進めて9年間在籍で

きることもできます。

これについては問題^{もんだい}があって、話す^{はな}と長^{なが}くなるので、今日^{きょう}は話^{はなし}があまりできないのですが、今日^{きょう}、こちら^こに來^こられている西畑^{にしはた}さんは20年間^{ねんかん}通^{かよ}っていたのです。しかし、教育委員会^{きょういくいいんかい}は、形式卒業^{けいしきそつぎょう}を受け入れることになったときに、制度^{せいど}を整^{ととの}えたいということで年限^{ねんげん}を9年^{ねん}にすることを打ち出^{うちだ}してきたのです。

しかし、ちょっと待^まってくださいという話^{はなし}になり、各校^{かくこう}の状^{じょう}況^{きょう}によって最大^{さいだい}で12年^{ねん}になりました。これは、生徒会^{せいとかい}が中心^{ちゅうしん}に立ち上^たがって市^しに要望^{ようぼう}を出^だしていく中で、では、最大^{さいだい}12年^{ねん}を認め^{みと}ましょうということで、現状^{げんじょう}は少し押し戻^{おし}した形^{かたち}になっています。

公立^{こうりつ}の夜間^や中学校^{かんちゅうがっこう}ですので、授業料^{じゅぎょうりょう}はなしです。そして、教科書^{きょうかしょ}はもちろん無償^{むしょう}で提供^{ていきょう}されます。

問題^{もんだい}は通学費^{つうがくひ}です。奈良県^{ならけん}は結構^{けっこう}広く、交通費^{こうつうひ}のかかる生徒^{せいと}さんがたくさんいるのですが、交通費^{こうつうひ}については教育委員会^{きょういくいいんかい}に補助^{ほじょ}を出^だしていただいています。あわせて、郊外^{こうがい}学習^{がくしゅう}などの行事^{ぎょうじ}がいろいろあるのですが、バス^{つか}を使^{つか}ったり、電車^{でんしゃ}でどこかに行^いかなければいけないときも教育委員会^{きょういくいいんかい}に補助^{ほじょ}していただいています。奈良市^{ならし}の場合はこれ^{ばあい}が非常^{ひじょう}に大き^{おお}いのですが、それがないところもあります。

ただ、諸費用^{しょひよう}については、経費^{けいひ}が幾^{いく}らかかかります。例えば^{たと}、先^{さき}ほど言^いいましたけれども、生徒会費^{せいとかいひ}は年間^{ねんかん}2,000円^{えん}かかります。それから、校外^{こうがい}学習^{がくしゅう}はその都度^{つど}で額^{がく}が変^かわるのですけれども、交通費^{こうつうひ}以外の部分^{ぶぶん}で実費^{じつひ}がかかっています。

就学援助^{しゅうがくえんじょ}は昼^{ひる}の中学生^{ちゅうがくせい}にも小学生^{しょうがくせい}にもありますが、奈良市^{ならし}は3年間^{ねんかん}認め^{みと}ます。修学旅行^{しゅうがくりょこう}については、3年^{ねん}が過ぎ^すても行^ゆく年^{とし}に認め^{みと}ますということで、今^{いま}やっ^やっていただいています。

それから、これもよく話題^{わだい}になるのですが、奈良市^{ならし}では、補食^{ほしょく}や給食^{きゅうしょく}がない

じょうきょう
状況になっています。

さきほど言いましたけれども、鉄筋コンクリート2階建てです。しかし、写真では分かりにくいのですが、スロープなどが全部ついているのです。隣に、昼と共用の体育館があるのですが、そこにもスロープがついていて、そのまま行けるようになっています。

それから、エレベーターがあります。当初はなかったのですが、車椅子の生徒さんが入ってくる中で、運動活動をして設置していただいた経緯があります。この効果は大きく、今は高齢の方が多くて足腰が悪い方がいるので、非常に役立っています。夜間中学校にはいろいろな状況を抱えている方が来ますので、バリアフリー（注1）化が必要だと思えます。多目的トイレもしっかりですが、そういった設備については整っている形になっています。

では、どんな人が来ているかといいますと、今年度の9月現在ですが、生徒さんは、17歳から82歳までで58人の方が来ています。女性が圧倒的に多いのですが、これは全国的な傾向だと思えます。なぜ女性が多いのかということをお考えすると、これだけで1時間がたってしまうので、今日はやめておきますが、これも考える必要があると思えます。

国籍はこんな形になっていまして、中国の方が約8割です。今、急増しているのがネパールの方たちです。これは全国の夜間中学校もネパールの方たちがとても増えているみたいですので、似たような傾向になっていると思えます。

教員ですけれども、教頭が1名、保健の先生が1名、授業を担当する教員が9名で、事務の方が1名です。全て常勤の方ですが、プラス3名の非常勤の時間講師も来ています。

本来ですと春日の教員の人数は6人です。しかし、夜間中学校の状況を見て、奈良県は2人、奈良市は独自で1人の先生を雇っていただいております。今は9人になっているということです。また、プラス3名の非常勤の方が来ているの

で、配慮^{はいりよ}をしていただいているとおも^{おも}います。しかし、それでも、足りない^たときも
あります。

入学^{にゅうがくりゆう}理由^{りゆう}についてです。これもちょっと乱暴^{らんぼう}に分^わけてしまったのですが、先^{さき}
ほど言^いったように、戦争^{せんそう}・貧困^{ひんこん}・差別^{さべつ}などで未就学^{みしゅうがく}の方が16名^{かた}います。そのう
ち、残留^{ざんりゅう}孤児^{こじ}の1世^{いっせい}の方が2名^{かた}在籍^{めいざいせき}しています。それから、新渡日^{しんとにち}（注^{ちゅう}2）の
方^{かた}が35人^{にん}で、形式^{けいしき}卒業^{そつぎょう}の方^{かた}が5名^{めい}という内訳^{うちわけ}になっています。

学習^{がくしゅう}時間^{じかん}はこんな形^{かたち}です。45分^{ふんじゅうごう}授業^{じかん}で4時間^{あいた}で間^{こうりゆう}に交流^{じかん}の時間^{じかん}があつて、
昔^{むかし}はここで補食^{ほしょく}を取^とっていたのですが、今^{いま}は補食^{ほしょく}がなくなっています。今^{いま}はこ
の時間^{じかん}帯^{たい}で生徒^{せいと}会^{かい}のお金^{かね}でお菓子^{かし}を買^かったり、お茶^{ちや}を飲^のんだりしています。

どんな学習^{がくしゅう}活動^{かつどう}をしているのか^かということ^{こと}です。中^{ちゅう}学校^{がっこう}ですので、1年^{ねん}、2
年^{ねん}、3年^{ねん}生^{せい}とあるのですけれども、実^{じつ}際^{さい}の授^{じゅ}業^{ぎょう}ではそれ^とを取り^はら^らせてしまつて
います。学^{がく}年^{ねん}に^{かん}係^{けい}なく小^{ちい}さな^わグルー^ぷに分^わかれて、それ^あぞれの^あニーズ^にに^あ合^あ
つた^あ学習^{がくしゅう}を^あしています。

今^{いま}、春^か日^す夜^や中^{ちゅう}は56人^{にん}を七^{なな}つの^わグルー^ぷに分^わけています。そのうち^{ふた}の二^{ふた}つは
日^に本^{ほん}語^ご指^し導^{どう}の要^いら^ない^{ほう}方^{わた}で、私^わた^しは識^し字^じク^らスと^よ呼^よんでいます。このク^らス
の中^{なか}には、ゆ^{べん}っ^きり^き勉^か強^たしたい^{こう}方^{こう}も^{にゅう}い^がれば、高^{こう}校^{こう}に^{にゅう}入^が学^{がく}したい^{きょう}ので、教^{きょう}科^か書^{しよ}を
使^{つか}つて^{べん}勉^か強^たしたい^かという^{こま}方^わも^{たい}い^{おう}るので、さ^{こま}ら^わに^{たい}細^{たい}かく^お分^おけて^わ対^{たい}応^{おう}しています。

それ^い以^が外^いは日^に本^{ほん}語^ご指^し導^{どう}が^{ひつ}必^{ひつ}要^{よう}な^か方^かですが、会^{かい}話^わが^{たい}大^{たい}分^{ぶん}で^かき^かる^かよ^かう^かにな^かつた^か方^か
と日^に本^{ほん}に^き来^かて^かす^かぐ^かの^い方^いと^いっ^いしょ^いに^が学^{がく}習^{しゅう}でき^{こま}ま^わせん^わので、な^{こま}る^わべ^わく^わ細^{こま}かく^わ分^わけ
て^{たい}対^{たい}応^{おう}しています。

学^{がく}習^{しゅう}の^{きょう}教^{きょう}科^かに^{ちゅう}つて^がは^が中^{ちゅう}学^が校^がで^{ぜん}す^きので、全^{ぜん}教^{きょう}科^かで^しす。し^かし、こ^れは^{もん}文^{ぶん}部^ぶ
科^か学^{がく}省^{しやう}も^み認^めて^いま^すが、学^が校^がの^が状^{じやう}況^{きやう}に^あ合^あつた^{じゅう}カ^くリ^くキュ^くラム^くを^わり^と自^じ由^{ゆう}に^く組^く
む^くこ^とが^でき^るの^です。そ^れは^{こう}校^{こう}長^{ちやう}先^{せん}生^{せい}の^{さい}裁^{さい}量^{りやう}で^でき^るよ^うに^なつて^おり^まし
て、例^{たと}え^ば、日^に本^{ほん}に^き来^かて、い^きな^り理^り科^かの^{きょう}教^{きょう}科^か書^{しよ}を^{つか}つて^{じゅ}授^{ぎょう}業^{ぎょう}を^する^のは^なか
な^か難^むし^いこ^とで^す。で^すか^ら、日^に本^{ほん}語^ごが^わ分^から^ない^方は、ま^ず、必^{ひつ}要^{よう}な^に本^{ほん}語^ご

を習得してもらいたいということで、日本語を中心に学習している方もいます。

これは授業風景です（写真3）。ちょっと古い写真も入っていますね。新しいものが手に入らなかったのです。5教科だけでなく、全教科ですので、これは、美術・工作とって美工と呼んでいるのですが、技術と家庭と美術を合わせた授業です（写真4）。ここでいろいろな作品を作って、毎年作品展などをして広報活動につなげています。

生徒会の話は少しはなしましたが、生徒会の時間を隔週の金曜日に1時間取っています。それが基本的な活動になっていますが、それ以外に、例えば、生徒募集のビラ配布があります。昨年度は、コロナウイルスの影響でできなかったのですが、伝統的に続けられている活動です。それから、奈良県内や近畿地方の行事に参加します。

それから、この生徒会の時間に話し合ったことを奈良県や市の教育委員会に要望書を提出します。それを受けて、奈良県の教育委員会と話し合いをするのですが、これは奈良県も合同で年2回行います。

それから、奈良市教育委員会との話し合いを春日夜間中学単独で年に1回行います。この話し合いの中で、在籍年限を9年から12年に延ばしてほしいという要望書を出したわけです。

これは生徒会の時間（写真5）ですが、これもちょっと古くて米田さんの前の生徒



写真3 授業風景



写真4 美術・工作の授業風景



写真5 生徒会の時間

かいちょう うつ
会長が写っています。

これはピラ配布ですが、米田さんです。
これは、J R の奈良駅で配布しているところ
です（写真6）。

がっこうぎょうじ かすがちゅうがっこう きほんてき
学校行事です。春日中学校は基本的に
ちゅうがっこう ひる おな ぎょうじ
中学校ですので、昼と同じように行事があ
ります。ただし、たいいくたいかい
体育大会がないのです。
なぜないのかと聞いたら、やはりこうれい かた
が多いからだそうです。でも、たいいく じゅぎょう
体育の授業はあ
ります。にゅうがくしき そつぎょう
入学式があったり、卒業があつた
りということで、1ねんかん、いろいろなずつと
ぎょうじ
行事があります。

これは、きよねん にゅうがくしき しゃしん
去年の入学式です（写真7）。
せいとかい かんげい ことば の
生徒会からの歓迎の言葉を述べているところ
です。

これは、おかやま じしゅ やかんちゅうがっこう おかやま
岡山の自主夜間中学校と、岡山と
なら ちゅうかん ひめじ こうりゅうかい
奈良の中間の姫路で交流会をしたのですけ
れども、そのときのようす しゃしん
様子です（写真8）。

これは、しまねけん ちゅうがっこう まいとししゅうがくりょこう
島根県の中学校が毎年修学旅行
でなら きたときに、うち た よ
に立ち寄っていた
だいて こうりゅう しようす しゃしん
交流している様子です（写真9）。

そつぎょうしき そつぎょうしき ことし がつ
卒業式です。卒業式は今年の3月でした
が、コロナウイルスでざいこうせい こ
在校生が来られない
し、らいひん かた はい なか せい
し、来賓の方も入れないという中でも精いっ
ぱいやつていこうということで おこな
行った



しゃしん せいとほしゅう はいふ
写真6 生徒募集のピラ配布



しゃしん にゅうがくしき
写真7 入学式



しゃしん こうりゅうかい おかやま
写真8 交流会（岡山）



しゃしん こうりゅうかい しまねけん
写真9 交流会（島根県）

そつぎょうしき ようす しゃしん ことし
卒業式の様子です（写真10）。今年はお
ふたかた そつぎょう
二方が卒業されました。

さいご こんご かだい
最後になりますが、今後の課題です。

いま もんだい くに
今、問題になっているのは、いろいろな国
の生徒さんが増えていることによる
せいと
多言語化の対応です。これは昼の学校でも
たげんごか たいおう ひる がっこう
そうですが、母語、例えば、ネパールの方と



しゃしん 10 そつぎょうしき
写真10 卒業式

ネパール語でやり取りできるかどうかということが最初の段階で大きく違う
ぶぶん で
部分が出てきます。しかし、残念ながら、スタッフでその言語に対応できる者を
さが ひじょう こんなん きわ しょうきょう なん
探すのが非常に困難を極めている状況で、そこを何とかできないかということ
があります。

もう一つは、公立ですので、新渡日（注2）の生徒さんの出席率を上げてほ
しいということです。これを話すと長くなるのですが、仕事を持っていて学校
にく まいにち こ
に来るので、毎日なかなか来られないことがあり、これが非常に大きな課題に
なっています。

それから、広報活動の教科やSC、SSWの設置促進があります。SCはス
クールカウンセラーで、SSWはスクールソーシャルワーカーですが、形式
そつぎょう かた ぶ なか
卒業の方が増える中で、こういう方々の設置も非常に課題になってきています。

それから、他府県の生徒の受入れもあります。すぐ北が京都府ですけれども、
かすがちゅうがく ならけん かた はい
春日中学には奈良県の方しか入れないのです。しかし、今は教育委員会の対応
ひじょう
が非常によくなっているというか、前向きになっているので、ひょっとしたら
かのう
可能になるかもしれないです。

そのほかに、学齢期（注3）の生徒さんの受入れの問題などがあるのですが、
じっさい がくれいき こ はい
実際に学齢期の子どもさんは入れないのです。

さき い
先ほども言いましたけれども、公立夜間中学校は、いろいろな問題がある中

で、^{すべ} ^{にん} ^{もと} ^{まな} ^{むすか} 全ての人が求める学びをカバーすることはなかなか難しいのです。しかし、^{まな} ^{もと} ^{にん} ^{だれひとり} ^と ^{のこ} ^{エスディジーズ} ^{ちゅう} 学びを求める人を誰一人取り残さないとSDGs（注4）でうたっていますね。そういった意味で、^い ^み ^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ^{れんけい} ^{じゅうよう} 自主夜間中学校との連携はとても重要なものになっています。

この^か ^{すが} ^{ちゅうがっこう} 春日中学校も、^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ルーツは自主夜間中学校です（写真11）。^{つう} ^{しょう} ^{うどん} ^{がっこう} 通称うどん学校と言われた^い ^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} 自主夜間中学校の^き ^{かん} 期間を2^{ねん} ^{かん} ^へ ^{こう} ^{りつ} ^か 年間経て公立化している^れ ^き ^し 歴史があります。

^{さい} ^ご ^{なら} ^{けん} ^{じょう} ^{きよう} 最後に、奈良県の状況です。



春日夜中もルーツは自主夜間中学です。

^い ^ま ^{なら} ^{けん} ^{こう} ^{りつ} ^{やかん} ^{ちゅうがく} ^{こう} 今、奈良県には公立夜間中学が3校と

^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ^{こう} 自主夜間中学校が3校あります。これら

写真 11 自主夜間中学

^が ^っ ^{こう} ^ひ ^{じょう} ^{れん} ^{けい} の学校は非常に連携しています。この^{あい} ^だ ^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ^{でん} ^わ ^き 間も自主夜間中学校から電話が来て、この^か ^た ^{こう} ^{りつ} ^う ^い 方なら公立でも受け入れられるのではないかと、^い ^っ ^{かい} ^あ 一回会ってくださいますという^{れん} ^{らく} 連絡がありました。あるいは、こちらに来て、^き ^{こう} ^{りつ} ^む ^り 公立ではどうしても無理かもしれないとなったときに、^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ^{しょう} ^{かい} 自主夜間中学校を紹介するというやり方をしています。

それから、^{こう} ^{りつ} ^そ ^だ ^{かい} 「育てる会」「つくる会」「つくり育てる会」など、^が ^っ ^{こう} 学校によ

^な ^ま ^え ^{ちが} ^{みつ} ^{だん} ^{たい} って名前が違うのですが、三つの団体があり、^ご ^う ^{けい} ^{だん} ^{たい} ^{なら} ^{けん} ^{やかん} 合計9団体で奈良県夜間^{ちゅう} ^が ^{くれん} ^{らく} ^{きょう} ^ぎ ^{かい} 中学連絡協議会をつくっています。

^{まい} ^{つき} ^{かい} ^{だい} ^ひ ^{ょう} ^あ ^つ ^は ^な ^し ^あ 毎月1回代表が集まって話し合いをする中で、それぞれの^{じょう} ^き ^{よう} ^だ ^あ 状況を出し合っているということです。

^さ ^っ ^ぽ ^ろ ^{こう} ^{りつ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} 札幌にも公立夜間中学校が出来ますけれども、^{じしゅ} ^{やかん} ^{ちゅうがっこう} ^{やく} ^{わり} 自主夜間中学校の役割はなくなるわけではないのです。^{やかん} 夜間



写真12 文化祭での昼の

中学生との合同作品

の^{がくしゅう}学習のためにぜひともお^{たが}互いに^{れんけい}連携して、^{やかんちゅうがっこう}夜間中学校を^{じゅうじつ}充実させていただけよう、^{ねが}願いを^こ込めて^お終わりたい^{おも}と思います。

どうもありがとうございました。（^{はくしゅ}拍手）

○^{しかい}司会 ^{つづ}続いて、^{よねだ}米田さんから^{こうえん}ご講演いただきます。

^{えんたい}演題は、「^{だい}70代の^{こうこうせい}高校生 ^{よねだ}米田^{とよみつ}豊満」と^{だい}題して^{はなし}お話を^{おも}していただき^{おも}たいと思^{おも}います。どうぞよろしく^{ねが}お願いします。

○^{よねだ}米田 ^{みな}皆さん、^{わたし}こんにちは。私は、^{ならけん}奈良県の^{こおりやま}郡山から^こ来させて^{いただき}ました。しゃべらせて^{いただ}いてよろ^{しい}でしょうか。（^{はくしゅ}拍手）



^{いま}今、とても^{かんだう}感動に^{ひた}浸っております。なぜか^{わたし}という、私^{わたし}はこの^{きかい}機会を^{あた}温めて^{ひとり}いた^{いま}一人で、^{むね}今でも^{あつ}胸が^{あつ}熱くなるか^ららです。^{ぼく}僕は^きここへ^{すうねんまえ}来たいと^{ねが}数年前から^{ねが}願^{ねが}って^{いま}いました。^{ぼく}僕が^{かすがちゅうがっこう}春日中学校に^{にゅうがく}入学したのは^{ねん}2016年の^{がつ}6月で、^{よくとし}翌年、^{ねん}2017年の^{はる}春に^{こうたい}交代で^{せいとかいちょう}生徒会^{せいとかいちょう}長を^とさせて^わいただいた^{がっこう}のですが、^{やかんちゅうがっこう}その年は^{ぞうせつうんどう}我が学校で^{ぜんこくこうりゅう}夜間中学校^{ぜんこくこうりゅう}増設運動^{ぜんこくこうりゅう}全国交流^{しゅうかい}集会が^{ひら}開かれて^{くどうせんせい}いて、^{はじ}工藤先生^あとは^あその^あときに^あ初めて^あお会^あい^あし^あました。

^{くどうせんせい}工藤先生^{じっさい}を^{むか}実際に^{とうじつ}迎^{ぼく}える^{まつど}当日は、^{せいと}僕は、^{せいと}松戸の^{せいと}生徒の^{せいと}メンバーが^なフィールドワ^{なら}ークで^{だいぶつ}奈良の^{けんがく}大仏^{なら}を見^み学^みしたい、^{ふかざわせんせい}奈良^{ふかざわせんせい}を見^みたい^{ふかざわせんせい}という^{ふかざわせんせい}ことで、^{ふかざわせんせい}深澤先生^{ふかざわせんせい}とも^{ひとり}う^{せんせい}一人の^{せいとかいちょう}先生^{せいとかいちょう}、^{せいとかいちょう}そして^{せいとかいちょう}生徒会^{せいとかいちょう}長の^{ぼく}僕^{あんない}が^あついて^あ案内^あに^あ上^あが^あって^あい^あました。^あそれが^あ終^あわ^あって^あ無^あ事^あに^あ学^あ校^あに^あ帰^あり、^あ僕^あが^あ校^あ舎^あに^あ入^あって^あい^あって^あ中^あを見^あた^あとき^あに、^あ左^あ側^あの^あ突^あき^あ当^ありが^あ集^あ会^あ所^あに^あな^あって^あい^ある^あの^あです^あが、^あそこ^あに^あ工^あ藤^あ先^あ生^あが^あ立^あっ^あて^あ話^あを^あさ^あれ^あて^あい^あま^あした。^あ僕^あは、^あその^あとき^あの^あ記^あ憶^あを^あい^あま^あだ^あに^あ持^あっ^あて^あい^あま^あす。^あ工^あ藤^あ先^あ生^あの^あ名^あ前^あは^あ聞^あい^あて^あい^あた^あの^あです^あが、^あ工^あ藤^あ先^あ生^あが^あ「^あ夜^あ間^あ中^あ学^あ校^あの^あこ^あと^あを^あ知^あっ^あて^あら^あお^あう^あ」^あと^あい^あう^あ活^あ動^あを^あさ^あれ^あて^あい^ある^あこ^あと^あは^あ知^あり^あま^あせ^あん^あで^あした。

というのも、僕には生徒会長として動きたいなどという思いはなく、生徒会長になるのはとんでもないことで、学びたいという気持ちでいっぱい、机に向かって先生の授業を受けたい一心で入学したのです。だから、面接のときは、深澤教頭先生ともう一人の先生に立ち会っていただいたのですが、僕は高校も行きたいし、大学も行きたいとその場ではっきり言いました。

ところが、授業を受けるなり、えらいことが起きたのです。

2011年の福島の原発問題について書くことになりました。僕は、自分がかまて読み書きができるのかということ进行测试されていると悟ったのですが、これは絶対に書けないけれども、第三者のことを考えてどういう書き方をしてええかと戸惑いました。適当な内容になってしまっただけは申し訳ないので、僕は絶対に書きたくないと思ったのですが、先生は書けと言うので、原稿用紙に思ったとおりに書きました。

その後で、先生からちょっと来てくださいと呼ばれました。そこには私たちのグループの担当の先生が2人いたのですが、僕は、その先生に昼間の学校の生徒と同じ教科書を持って学ばせていただきたいと言ったのです。先生はそれをすんなりと受け入れていただき、人数が少ないからか、最初はマンツーマンで勉強させていただいたので、非常に勉強になりました。

先ほど深澤先生がおっしゃったように、今、奈良県には公立の夜間中学が3校ありますね。月に一度の会議で3校の責任者に来ていただいたときに、僕は高校に入りたいので、教科書を使って学んでいるけれども、おたく、天理市立北中学校の夜間中学はどうですかと先生に聞いたら、そういう取組はしていませんとおっしゃるのです。

榎原にも畝傍夜間中学がありますが、その生徒会の会長と話をする機会もあるので、そのときに尋ねても、教科書を使わない生徒はたくさんおられますと言うのです。3校の公立夜間中学があっても、教科書を持って勉強させて

いただいているのは我が春日中学校だけです。

後で聞いた話ですけれども、僕が提起したことを教頭先生が市の教育委員会に申し込んでくれたため、教科書がばんと入ってきたということです。僕は、学んでいると、なるほどと理解できることが出てくるので、非常にうれしかったです。

それから、時間帯について一番心配してくださった先生がいてるんです。日中の子の学習時間は6時間くらいあるのですが、僕らは4時間なので、半分くらいの時間で学ばなければいけません。ところが、僕は仕事を持っていて、1時間目が始まる5時30分には、とてもではないけれども、入れませんので、1時間遅れます。2時間目の頭から入りたいと思っているのですが、申し訳ないけれども、それがだんだん難しくなり、そうはいかなくなりました。2時間目の途中から入るようなことが多々あったのです。

先生には非常に申し訳ないと思って、すみません、先生、今日も遅れますと電話を入れるのですが、そんなやり取りの日が続きます。仕事の現場と家は近いのですが、僕は現場の臭いを学校に持っていきたくないという気持ちがあるので、最低でも顔と手を洗うのですが、そうすると5分や20分はあっという間です。そんな毎日で3年7か月通いました。

僕が遅れて行ってガラガラと戸を開けるでしょう。すると西畑先輩が「いらっしゃあい」と三枝のように言うのです。毎日頭が下がる思いです。ガラガラと開けると「いらっしゃあい」と言っていただけ。すごく元気をもらいますよね。これは僕だけです。僕は行儀の悪いことはしないでノックをしてからガラガラと開けます。これは常識ですね。

でも、選択授業が設けられたので、それは短い期間でした。先生はそれなりに工夫されてくださって、僕は西畑さんと別れることになり、高校進学勉強にと取り組みます。しかし、西畑のおやじは、帰りしなにきちんと僕に挨拶して帰

ってくれるのです。みな、こんな先輩いますか。

今日は何人の生徒さんがおられますか。僕が見る限りスタッフや先生方が多いのではないのでしょうか。

○高津勝行（遠友塾受講生） 私は生徒です。

○米田 ありがとうございます。

僕は71歳ですけれども、同じぐらいですか。

○高津勝行 数えの91歳です。

○米田 90歳ですか。

○高津勝行 昭和4年生まれです。

○米田 すごいね。頭が下がりますね。

僕は、和歌山の自主夜中の先生のフェイスブックを見させていただいていますが、この4月に88歳で30年間かかって高校を卒業しましたという方がばんと載っていました。スカッとして、すごくええ顔をしておりました。僕は、「すごいですね、いい顔をしていますね」と返信しました。

僕はこの4月に高校に入学したので、現在は高校1年ですが、今を境に遡って、3月に夜間中学を3年7か月で卒業しました。そこからさらに遡ったあるときに、「夜間中学へようこそ」という山本悦子さんの本を2か月かかってみんなで読破しました。すごく感動したし、勉強になりました。僕は、学校の夏休みの宿題で作文を書いているのですが、そんな中で、僕も「夜間中学へようこそ」のストーリーの一部を走っていることに気がついたのです。そのものがたりに出てくるカルロスという青年が、ある老人に、「一緒に高校に行きませんか」と尋ねた場面があります。僕は、その場面を読む1日前に、ある市議会議員に、「今の中学校ですと学びたいので、離れたくない」という話をしたら、その市議会議員から、「今の学校だけではなく、高校へ行って勉強せなあかんのではないか」という形で問題を提示されたのです。



そして、そのあくる日に、カルロスが老人に言ったことと全く同じことを僕は西畑のおやじに言っているのです。これには驚いたのですが、そんなことから、僕はその本から離れられないのです。

今現在、その文集をある程度まで書き上げたのですが、僕にとってはまだ物足りないのです。僕には重要なことがまだ残っています。僕は、教えてください。先生方の尊い役割、使命をすごく熱く感じているので、先生方から教えていただいたことをつなげていきたいと思っています。

奈良県は3校の自主夜間中学がありますが、僕は、先生に、「今日はこの自主夜中に行きたいので、アポを取ってくださいますか」とお願いして、3校を全部回りました。プラス、春日中学の夜間学級に非常勤で勤めている先生が京都の京田辺で読み書き教室を開校しているのですが、月曜日が休みだったら西畑のおやじとそこへばっと思っています。今でもですよ。

プラス、今、大変な岡山の自主夜間中学ですが、そこにも行っています。先月の29日に行ったときには、生徒手帳というか、何を学んだかとか、誰が担当の先生だったかというカードができたのですが、そのカードと僕の名前のプレートもいただきました。この岡山は毎月1回行っています。なぜかというと、僕は勉強よりも学校や先生方とのつながりを持っていたい、どうしても続けてもらいたいという一念で通っています。

ここに数学の先生がおられますね。因数分解と連立方程式は、どうして数字が右から左へ移動しなければあかんのか、プラス、マイナスどっちやねんと今でも迷って腹が立ちます。

僕は71歳のおっさんです。しかし、僕は分からなくても勉強をしたいという気持ちがあるから、愚痴は一言も言いません。先生から教えていただいていることにありがたさを感じています。そして、そのありがたさを一人一人の生徒の皆さんが心の中でどう感じているのか、僕はどこの学校に訪問させていただ

てもそれを絶えず言います。

2018年に春日夜間中学を辞められた先生が、北海道に家を買われていたので、病気がちなこともありそちらのほうにお帰りにになりました。今日も、その先生に、札幌に着きましたと真っ先にeメールを送ってやり取りをしました。この先生もすばらしいです。

夏休みに僕に、先生が教えられなかった時間を補うために、「米田、夏休みに2日間、勉強するけど、ええか」と言われました。夏休みで2人の孫がいるのですが、僕は、「はい、わかりました、教えていただけるなら来てくださいと」言って、教えていただきました。おまけに、その先生が入院されたときも、僕が2回ほど病院へ行って、面会室で教えていただきました。こんな温かい先生はおられますか。先生は、生徒に対してそれだけ熱い気持ちを持っているのです。

工藤先生は、そういう意味で、一歩も二歩も先を読んでいて、夜間中学校の在り方を、全国夜間中学校研究大会でそのお話を僕は聞いています。

沖縄の戦時中はほんまに苦しい思いをしました。それは口では言えないくらいで、死ぬか生きるかという状況です。そのときに学んでおられない人のことを取り上げて、市教委にばっと訴えているのです。そんな先生がおられますか。いかに我々生徒の一人一人のニーズに合った取組をしているかということです。

学校で勉強してきたことは、はっきり言うと自分の大きなバックボーンになり、社会の貢献にもつながります。ですから、今学んでいる人はしっかり続けて高校や大学にもぜひ行ってもらいたいと思います。人間に生まれてきて学校に行けないことがどれほど悔しいことかというその気持ちが分かりますか。

みんなは、若返ってよかったとか、ぼけが進まないとか、60、70の手習いとか、そう言うのですが、僕は、あほなことを言うなと言います。学ぶということとはそんなものとは違います。人々がどう生きていくか、どう社会に打って出

るのか、大事なのはそこなんです。

人生はあっという間に過ぎます。前にいらっしゃる方（遠友塾の受講生）にお聞きしますが、人生を生きてきて大事だということはわかりますね。

ここへ来る前に国語のテストを終わらせたのですが、月曜日から1週間、残りの教科のテストがあります。僕は投げやりなことを一つも考えていないし、できれば1問でも答えたいという気持ちでいっぱいです。

僕は、先生から、「米田君、今の君の時間帯と通常の通っている学校の時間帯を比較すると6年から7年はかかる」と言われました。僕もそう踏んでいたのですが、おっとどっこい、先生が3年7か月で僕を卒業させました。数学、国語、理科、社会を3年7か月で終えたです。何でだろうと思ったのです。

それは、僕の年をちゃんと把握して、今ここで卒業せえへんかったら、一年一年、だんだん年がいきますね。それがどれくらいつらいことかということを考えてくれたのです。今、それがやっと分かりました。「先生、卒業させてくださいありがとうございます。」そう思っています。

僕にはもう大学のプランが浮かんでいます。おまけに、卒業論文のテーマも自分の中でちゃんとできています。はっきり言いましょうか。

「教育の種」というのが僕の卒論なのです。教育の種というのは深いですよ。では、その種は誰なのか。自分自身一人一人ですね。その種は両親を選択できないでしょう。その両親が子どもにどう教育を与えるのか。でも、種をまいて、草や要らないものを刈って育てて、立派になったら「はい、そうですか」と言って、ぱっと出て行って、あほなことをする若い子がいます。でも、真面目な子どもいます。その辺のことを僕は深く掘り下げて、一冊の本として最後に残したいんです。

今、深澤先生は同和問題関係史料センターにいらっしゃるのですが、僕はこちらにも深く感謝しているのです。人権問題と教育の種をどう結びつけるのかとい

うと、もうきっちり^{むす}結びついているのです。少しずつでも^{すこ}人権^{じんけん}のことを^{おし}教えて
いただいています。そんなことをやりながら、^{きょう}今日はここまで^{よろこ}喜んで^こ来させて
いただきました。

^{ぼく}僕は、^{くどうせんせい}工藤先生と2022年に^{ねん}公立の^{こうりつ}夜間中学が^{さっぽろ}札幌に^{かいこう}開校できることを^{よろこ}喜
んでいるのですけれども、^{いま}今の^{じしゅ}自主夜中を^{やちゅう}をどう^{のこ}残していくのかということもぜ
ひ^{ふか}深く^{かんが}考えて^{おも}いただきたいと思います。

^{ひとりひとり}一人一人の^{まな}学べない人たちのために、^{ぼく}僕らが^{いっしょうけんめい}一生懸命に^{そと}外へ^う打って^で出るよう
なことを^{ひと}一つでも^{おお}多くできるように^{がんば}頑張っていきたい。読み書きのできない者
が^よ読み^が書きができるように^{ひと}一つでも^{おお}多く^{てつだ}お手伝いができたらいいんじゃないか。

^{コングラチュレーション}「Congratulations 30th anniversary. OK?」「^{しゅうねんきねんぎょうじ}30周年記念行事おめで
とうございます」(^{はくしゅ}拍手)

^お終わりたいと思います。ありがとうございました。^{はくしゅ}(拍手)

○^{しかい}司会 ^{さいご}最後にご講演の^{こうえん}西畑^{にしはた}さんです。

これから、「^{つま}妻への^{てがみ}手紙」ということでお^{はなし}話をさせていただきます。

^{にしはた}西畑さん、どうぞよろしく^{ねが}お願いいたします。^{はくしゅ}(拍手)

○^{にしはた}西畑 ^{みな}皆さん、こんにちは。

^{にしはた}西畑保です。

^{さき}先ほど^{ふかざわせんせい}深澤先生が^{せいとてちょう}生徒手帳の^{はなし}話をしましたね。^{ぼく}僕も
^{やかんちゅうがく}夜間中学のときは、^{せいとてちょう}生徒手帳も^{しんかんせん}新幹線

^{とうきょう}で東京に行くときも^い学割で^{がわり}行けました。その^か代わりに、^{ときどき}時々、^{しゃしょう}車掌が^{しら}調べること
があるでしょう。そのときに、^こ子どもの^{がわり}学割も^も持っていたら「^{がくせい}おまえは学生か」
と^い言うわけです。だから、そのときはやっぱり^{がくせいでちょう}学生手帳も^も持っていかなあかんわけ
です。



あるとき、博物館へ行ったら、大人1,000円と学割が800円と書いていて、大人で入ろうかと思ったけれども、これは学割を使わな損やろと思っ
て学割を使いました。学割を使って買ったら、シルバーは無料と書いてました。
シルバーは無料と書いていたから、もう一回返しに行きました。僕、シルバーや
からシルバーに替えてくれと言ったら替えてくれました。

先ほど深澤先生が言うてたけれども、夜間中学は女の人が多いの。だから、
僕はもてるかなと思ったけど、20年間行って女の友達は一人もできなかった。
やっぱりあきませんもん。

米田さんが、さっき、戸を開けたら僕が「いらっしゃい」と言うと言ってまし
たね。僕が「いらっしゃい」と言うのは、すし屋で働いていたからくせなので
す。とにかく、お客さんが入ってきたら、「いらっしゃい」とどんな人でも言う
わけです。

せやから、うちにセールスが来ても「いらっしゃい」って言うからセールスの
人が驚いていました。でもこの頃は、家ではそんなこと言いません。

しょうもない話をして、ごめんなさい。

皆さん、こんにちは。

今日は、北海道に3人をお招きいただきまして、本当にありがとうございます。
す。

僕は、今年、奈良県春日夜間中学校を卒業しました。84歳です。

僕は、今年の1月の終わり頃から2月にかけて、孫と3泊4日で北海道に来ま
した。そして、帰ってからすぐに日本列島が新型コロナウイルスに襲われまし
た。職場や学校はほんまに苦しんでいます。早く普通の生活に戻ることをほんま
にお祈りします。

僕は、夜間中学に入学するまでは、自分の名前もよう書けませんでした。僕
はこれで結婚は絶対に無理かなと思いました。自分は読み書きができないから

ぜったいにおも 絶対にあかんと思いましたが、夜間中学に入学してやっと字が書けるようになりました。

ぼく はは みえけん す 僕の母は三重県に住んでいて、離婚して実家に帰っていたわけです。僕をおなかに入れて9か月でした。おなかが自立つようになってから、隣近所の恥やからいうて、無理やりわかやまけんやまおくすみや 和歌山県の山奥で炭を焼いている父と結婚しました。そして、1か月して僕は生まれました。

う 生まれたけれども、先に旦那の先妻の女の子がいて、母はその子の面倒を見ながら僕を育てました。そうしたら、またすぐに妊娠したわけですわ。電気がつかないから夜は早く寝るのかなと思います。

ぼく した こ 僕の下の子どもをすぐに妊娠したんだけれども、そのときに、お母さんはいつも山の神さんにお参りに行っていたの。山の神さんは神さんではないんやけど、洞穴のところへ行って、神さんみたいなところで、「神さん、次にできる子は女の子でありますように」とずっと参っていたらしいです。何で参っていたかというと、男の子ができたら、僕が男やったから、お父さんは下の弟をかわいがると思ったらしいです。そうしたら、男の子ができて母はがっくりしたそうです。山の神さんに毎日参っていたけれども、次にできた子は男の子でした。

それから、2人の子どもが次から次へとできました。僕が7歳のときに母が重い病気で亡くなりました。僕は母と会話した記憶はほんまに全然ありませんでした。7歳やったら普通は覚えているでしょうといわれるけれども、ほんまに母の後ろ姿しか覚えていません。

そして、7歳になって小学校に入学しました。炭焼き小屋の僕の家から学校までは12キロメートルで、昔は「3里」といっていました。学校へ行くまでに3時間もかかったような気がします。山で炭焼きをしてる家から道のないところをずっと歩いていくんです。でも、学校は夏場しか行けませんでした。冬場

は学校まで3時間かかるので、朝5時に行かなければ学校には間に合わへんの
です。だから、1年のうち学校へ行ったのは半分くらいだったと思います。

何も知らないまま2年生になりました。それでも、学校へ仕方がなしに行っ
ていました。山にはお札を造るガンピという木があったんですが、その皮を剥い
て干したら高く売れるんです。実際にそのガンピで家を建てた人もいてるらし
いです。僕と友達とで山に行き、そのガンピを取って干して売ったら、それを
買いにくる人がいるので、内緒でそれを売っていたら100円ぐらいたま
ったわけです。

そのガンピを売ったお金をいつも汚い袋に入れて腹巻にしまって学校へ行
っていたけれども、使い方がよく分からないのです。そうしたら、学校の教室
でそのお金を落としたの。そうしたら、そのお金が出てきて、先生が「この汚
い袋の中のお金は誰のですか」と言うから、「僕のです」と言ったら、「西畑
の家は貧乏だからそんなお金は絶対ない」と言われたの。先生に何ほ説明して
も聞いてくれなんだ。僕と一緒に山に行っていた友達も学校にはほとんど行っ
てないし、いろいろして悪い少年やったの。その子の言うことも僕の言うこと
も誰も信用しなかったの。

そうしたら、先生が出てきて、「嘘を言った人は廊下に立っていなさい」と言
われて、僕は廊下に立たされました。

2日ぐらい立たされてから1週間ぐらい休んで、学校に行ったら、僕の机と
か全てのものが廊下に出してあったのです。先生に「西畑は廊下に立ちなさい」
と言われたから廊下に立ったけれども、生徒の中には、「うそつきや」と言っ
て唾を吐いて通る男の子もいました。

そのときから学校へ行くのをやめました。ほんまに僕はもう行けなくなった。
先生は、それ以降一度も家に訪ねてきませんでした。そのときは2年生だから、
10歳頃だったと思います。

僕は、12歳のときに初めて家を出て働きに行きました。今だったら中学生だと思えます。三重県のパン屋さんへ働きに行きましたが、そのときは、焼きたての温かいパンを食べて、ほんまにうれしかったです。それまではいつもおかしいパンばかり食べていたから、そのパンを食べた時はほんまにおいしかったです。

パン屋さんに2年間ぐらい働いてから、奈良県のおすし屋さんに働きに行きました。このときに、僕は読み書きができないことを初めて分かりました。

意地悪い先輩がいて、「おい、西畑、これ買ってこい」と言うわけです。（「蝦」の文字をかざす）

この字は難しいほうの字です。皆さんはここに書いてある字はご存じでしょう。（「海老」の文字をかざす）

これも同じ「エビ」ですねん。（「えび」の文字をかざす）

これを書いてくれたら大体分かったわけですね。そやけど、さっきの難しい字を書いて、「おい、買い物せい、買ってこい」と言うわけです。その意地悪い先輩がいて、毎日、僕が買い物に行くときは難しい字を書くために字引を引いていました。それから、魚屋さん独特の当て字もあります。それを書いてきます。僕はいつもお店の人に「これは何ですかと」聞いて買いましたが、お店の中には知らない人がいるわけです。

それもつらいけれども、ほんまに一番つらいのは出前の電話がかかってくることです。店にいたら電話がかかってきます。すし1人前と吸い物と造りをそのまま持ってきてくれという注文でも、すし1人前くらいだったら覚えられるのです。でも、書かないので、あとは覚えられないわけです。それから、相手の名前を聞いてメモをしなければならぬのです。

優しい先輩は、西畑さん、書いてあげるわと言って、僕が聞いていた後から書いてくれるのです。そやけど、世の中には意地悪い先輩がいっぱいいるわけで

す。僕が電話を聞いていたらぱっとほかに逃げていきよるんです。つらいことはいっぱいあったけど、その電話が一番つらかった。ほんまに電話の夢を見るぐらい電話が怖かったですわ。その電話が1日に何十回もかかるわけです。だから、いつやめようかなあと、ほんまに毎日思うてました。

僕は読み書きができないから、人より早く起きて遅くまで仕事をしました。でも、親方はあまり認めてくれなかったのです。僕は引け目がちょっとあったし、先輩がいじめるのも怖いから辞めようかなと思うた。それで店を何回も変わりました。

なぜ変わったかという、ほかのすし屋の前に行ったら募集の紙が貼っているのですが、僕はそれをよく読めないけれども、これは店員募集だということは何分かっていました。なぜ分かったかという、僕が勤めていたすし屋でも店員募集の紙をみんなが書いていたからです。

あるときに、違うお店に働かせてくれと行きました。そうしたら、ここへ来て名前と住所を書いてくれと言われた。それはほんまによく書けなかったのです。それで、この店もあかんかなと思いました。その店の人は、一遍、働いてみるかいと言って働かせてくれたけれども、こさえたのを持っていく出前ばかりでした。そして、たまに領収書を書いてくれと言われても書けないわけです。いつも一旦帰って、店の人に書いてもろうて持っていった。そういうことがほんまに何回もありました。

みんなはスーパーカブという単車で配達しているわけですが、僕もスーパーカブが乗りたくてもかなわなかったの。でも、勉強して取らなあかんから、クリスマスの日原付の免許を取りに行きました。それは12月20日だったのですが、今でも日にちを覚えてます。

筆記試験場には約30人いましたが、20人が通りました。そして、今とは違うのですが、試験官が、今日はクリスマスだから、もう一遍試験やってもいいで

すと言ってくれた。そして、5人が通ったのですが、僕は通らないほうの5人の
中に入っていました。残った5人に試験官は「よっしゃ、用紙を出せって」と言
うので、用紙を出したら、「よっしゃ、みんな合格」と言うてくれました。その
時分はそういうことがありました。

合格させてくれたので、僕は試験官に頭を下げて、ありがとうございますと
言ったら、試験官がおまえもよう頑張ったなと言うてくれました。その一言がよ
かったです。でも、僕は頑張って通ったわけやなく、通してくれたわけです。そ
れでも、免許を取ったというのがうれしかった。僕はそのときから配達してい
ました。

その後、大阪へ働きに行きましたが、どこに行っても読み書きができないの
で、ほんまに苦労しました。おまえは真面目に働くから、店長になってくれと
言う店の人もいたのですが、僕は読み書きができないからなれなかったのです。
読み書きができないことがこれほどつらいのものと、ほんまに夢にも思い
もせんでした。

僕は読み書きができないから結婚は絶対無理やと諦めていました。でも、僕
が年頃の35歳のときに、人の紹介で見合いをすることになりました。そうし
たら、見合いの席に座っている人がえらくすてきな人だったので、僕は気に入
ってしまいました。ほんまに笑顔のすてきな人でした。自分が読み書きできな
いのをほんまに忘れました。この人と一緒になりたいと仲人に頼み込んだら、
仕方がなしなのはわからないけれども、結婚してくれました。

僕は、読み書きができないことを言いませんでした。相手も言わないし、仲人
にも言いませんでした。相手に言ったら終わりやと思ったからです。結婚する
まで、時々御飯を食べに行っただのですが、僕はいつも格好よくスポーツ新聞を下
げていたわけです。そうしたら、向こうは、この人は新聞を読むのが好きやなあ
と思っただけです。でも、それは体裁です。

結婚しても、いつばれるかと毎日思いました。それは、ほんまに仕事が手につかないぐらいですが、妻は、朝はいつも笑顔で送ってくれるし、ほんまにようできた人でした。

半年ぐらいたって、あるときに隣から回覧板が回ってきました。そのときに、お父ちゃん、「回覧板に私の名前が書いてあるから、そこへお父ちゃんの名前を書いてな」と言われたの。おまえが書いてくれと言ったら、本人が書かなあかんと言われたの。そこには、代理人は駄目と書いていたわけです。そのときに、嫁はんは、僕が読み書きができないことを初めて分かったです。

もうこれでほんまに終わりかなと思いました。僕は引け目があったから、二、三日は、朝、仕事に行くときに、行ってきますと言わないで黙って出たりしたわけです。でも、二、三日してから、嫁はんは、一緒に頑張ろうなと言ってくれた。その代わりに、自分の名前と私の名前ぐらいは書いてくれと言われました。

それからは、毎日、仕事から帰ってきて練習ですわ。それを書かされるのがほんまにつらかった。自分の住所と名前を何ぼ書いても書かれへんです。でも、嫁はんは、いつも辛抱して教えてくれたの。そして、名前はやっと書けたけれども、住所は書けなかった。

そうこうしているうちに子どもができたので、市役所へ出生届を出すことになりました。嫁は寝ているので、どうしようかなと思いつつながら手に包帯を巻いて市役所へ行って、けがをしたから名前を書いてくださいと言いました。

そうしたら、係の人が、痛いやろと言うて書いてくれたのです。その帰りしなに公園のベンチに座って、自分の子どもの名前ぐらいは自分の手で書きたいなと思いました。そして、次の子どもができたけれども、そのときもやっぱり同じようにうそを言って、子どもの名前を市役所で書いてもらったのです。書いてもらったけれども、そのときも、やっぱり自分の子どもの名前ぐらいは自分で書きたいと思いました。

子どもがだんだん大きくなって、小学校へ行くようになりました。2人とも女の子ですが、「お母ちゃん、お父ちゃんの書いた字、一遍も見たことない」と言うのです。そして、時々、僕に「お父ちゃん、字を覚えてくれ」と言うのですが、今は教えられへんと言ったら、「お父ちゃんの書いた字、一回も見たことない」と言われました。そのときが一番こたえました。そのときに、僕はやっぱり自分で字を書きたいなあとおんまに思いました。読み書きがもっとできれば仕事ももっと出世しているなと思ったのです。それは、ほんまに何遍も思いました。

でも、ようできた妻やったから、お父ちゃんは、小さいときに貧乏で学校へ行けなんだのよ。その代わりに、私のために働いてくれていると子どもにうまく説明してくれました。それを言われたときはほんまに感謝しました。

子どもがやっと片づいた頃、仕事へ行くときに夜間中学の看板を目にしていたのですが、僕が仕事から帰る9時頃に、その夜間中学からお年のいったおばちゃんがいっぱい出てくるわけです。それで、一遍思い切って、ここは何をするところですかと聞いたたら、ここは勉強するところよと言われたので、僕はそのときに、定年になったら、絶対に夜間中学に行こうと思いました。

やっと定年になって、夜間中学に手続に行きました。そのときに、嫁はんと子どもの前で、お父ちゃんは勉強できへんから、夜間中学に行つて勉強するねと言いました。2人の子ともとお母さんがどれだけ喜んでくれたか。みんなは祝い金をくれて赤飯もちちゃんと炊いてくれたのです。

そして、夜間中学へ行つて、自分の住所と名前を書けて、それを見たときはほんまにうれしかったです。そして、新聞を読むのがほんまに楽しみになりました。そして、県庁にたくさん新聞が置いているから、毎朝、朝起きたらすぐに県庁に新聞を見にいっくわけです。上と下の字がわかっていて真ん中の字は分からなくても大体読めるときがあるわけです。一つ字が抜けても、あ、大体こ

れやなと分かるから、新聞を読むの楽しみになりました。

そのとき、住友信託銀行が「夫から妻へ、妻から夫へ、60歳のラブレター」を募集していました。これを書こうと思ったのです。でも、それは便箋ではなくて、はがき一枚に思いを書かなあかんわけです。はがき一枚に住所書くのですが、どう書こうと思いつながら何回も書いたのですが、書くことがなかったから、「今は妻へラブレターを書きたいので、夜間中学で勉強しています。書けるようになったら絶対に君にラブレターを書きます」と簡単に書いたのです。それが見事に入選して住友信託銀行から30万円をもらいました。そして、旅行券ももらって妻と北海道と沖縄に行ってきました。

でも、その妻は5年ほど前に亡くなったのです。今は孫が5人いて、1人は埼玉で1人は家の近くにいて、僕はひとり暮らしやけど、孫やたくさんの友達がいいて、本当に幸せです。

たまたま、僕が夜間中学に行くときに、毎日新聞の記者がいたのですが、西畑さん、何か新聞に載せられるような記事を書けへんかと言うから、僕は書けないと言ったのです。そうしたら、嫁はんにラブレターを書きませんかと言われました。それで、僕は毎日新聞の記者に後押しされてラブレターを書いたのです。それを便箋7枚に書いたら、それを記者が毎日新聞に載せてくれたのです。これは、僕も不思議でたまらないのですが、夕刊の1面記事の「毎日」と書いている一番上に書いてくれたの。それをたまたまテレビ局の人が見て、アンビリバボーの番組に取り上げてくれたのです。

その後、小学校のときに僕がいじめられたことが朝日新聞に載ったのですが、たまたまいじめた人がその新聞を見て、あるときに、男の人から「西畑さんですか」と電話がかかってきたのです。僕はそうですと言ったら、その人は僕を覚えていますかと言うから、僕は小学校にほとんど行ってないから覚えていないと言いました。すると「あのときはごめんやった」と言われました。いじめら

れたのは70年ねんも前まえのことです。僕はいじめられた本人ほんにんだから一生いっしょう忘れないけれども、いじめたほうはころわすっと忘れています。でも、たまに覚えておぼている人ひともいるような気きがしました。いじめた本人ほんにんも心こころの隅すみにそんな気持きもちちがあるのです。そのときは、「ごめんやでえ」と言いってほんまに謝あやまってくれたので、それが誰だれかはおぼえていないけれども、そのときはほっとしました。

今いま、僕は夜間よかん中学ちゅうがくに来て皆みなさんと会あえることがほんまに幸しあわせです。夜間よかん中学ちゅうがくでたくさんの人ひとと出であ会かいいました。僕は夜間よかん中学ちゅうがくに行いかないで、昼間ひるまの中学校ちゅうがっこうに行いっていたらここにも来きていないわけです。

僕は中学校ちゅうがっこうの最後さいごのときに「今は青春せいしゅんです」と言いったのですが、そのときに、後あとに残のこされた生徒せいとさんが青春せいしゅんってどんなことなのかと思おもって勉強べんきょうしたらしいのです。青春せいしゅんと言いうと若いわかいときのことと思おもっていた人ひとがいたようです。若いわかいときのことかもしれないですね。その後ご、先生せんせいから、「青春せいしゅん」という言ことば葉ははどんなことばかという勉強べんきょうを学校がっこうでしと言いわれました。

今日きょうはしょうがない話はなしばかりして、えらいすみません。

ありがとうございました。(拍手はくしゅ)

○中島啓幸なかじまひろゆき(旭川あさひかわに公立夜間こうりつやかん中学ちゅうがくをつくる会かい代表だいひょう) お

さんかたにそれぞれ質しつもん問もんさせていただきたいのですけれども、西畑にしはたさんは、文字もじを書かけない状態じょうたいから、内閣府ないかくふのコンクールで賞しょうをもらうくらいになって、人生じんせいがひっくり返かえってしまったわけですね。一番いちばん苦手にがてな文字もじを書かくことゆうしゅうしょうで優ゆう秀しゅう賞しょうをもらったわけですね。



○西畑にしはた 僕はパソコンを打うっているのですが、パソコンやったらばっと打うてるから、文章ぶんしょうを書かくのは好すきです。でも、自分じぶんで字じを書かくのはなかなか難むずかしいの

です。そやから、例えば、何か文章を書くことないかなと思って、新聞を毎日
見えています。それで何かがあったら応募します。それが入選するだけでうれし
いわけです。そやけど、ブログの会報を練っていたのですが、ページにしたら
大分長く書いたと思います。それは入選したので、ほんまにありがたいと思っ
ています。小さいときのことを思い出して書くのは大好きです。

○中島啓幸 小さいときのいじめのことをお話していましたが、今は、
コロナウイルスのいじめとか、老人のいじめとか、北海道で言えばアイヌ民族の
いじめとかいろいろとありますけれども、今の子どもたちに、いじめをしてい
たり、傷ついたりしている子どもたちに何か伝えたいことがあったら教えてく
ださい。

○西畑 ある学校で小学生の女の子から手紙をいただいたのです。ほんまに
真剣な手紙です。僕は答えるのがほんまにつらかった。「私は毎日いじめられて
います。あの子にいじめられているから、西畑さん、あの子に勝てる方法を教え
て」と言われたのです。私はあの子といつもけんかしていじめられているから、
何でもええから勝ちたいというのです。

僕はどう説明しようかと思ひましてんけど、僕はその子の相談を受けている
わけやから、返事を書かなあかんと思ひました。

それが答えになっているかどうか分らないけれども、「とにかくあなたは
人一倍勉強しなさい、勉強したらあの子に絶対勝てるよ。あんたが勉強したも
のは誰も取らへんから、勉強して勝ちなさい」と答え
ました。僕はけんかで勝つとかそんなことはできない
から、たくさん勉強したら、ひょっとしたら勝てるか
も分からんと思ひました。

僕が小学校に行ったときに、小学校の先生から、す



し屋の職人はどのぐらいで一人前になれるかと聞かれました。そのときは、学校の先生でも大学の先生でも毎日勉強で、すし屋の職人も毎日勉強だから、一人前になるということは絶対になくて、一生勉強ですよと言いました。

○中島啓幸 ありがとうございます。(拍手)

○中島啓幸 米田さんにお聞きしたいのですが、12歳からコツコツと職人を続けられることはすごいことだと思うのですが、職人のときに生かされたことで、夜間中学の学びに生かされたことはありますか。

○米田 本当に遡るのですが、住み込みで働いたときのことを話します。

僕には12歳の差の姉がいたのですが、その姉がある村に嫁ぎました。そして、3月に母親が急遽、脳溢血になって10日ほどで病院で亡くなったのです。そのとき僕は、ちょうど4月に入学を控えていたのですが、それまでは父親に泣かされて、泣かされて、泣かされてきました。でも、母は離婚したかという、そうはしませんでした。

おやじから生活費をもらうために、兄貴と一緒に、自転車の後ろに僕が乗って女がいるところへ生活費もらいに行ったことが数回あります。往復10キロメートルはあったのですが、それを今でも覚えています。そのおやじのいる家から追い出されて、たどり着いたところがひとり暮らしのひいばあさんの家でした。その家で母親が病気で倒れました。僕が入学する直前の大事なときの3月です。

このときに一番嫌だったのはお金のことでした。何よりもお金が要るので金を持ってきてくださいと先生から言われました。米田君、どのようになっているの

と言われるのです。先生にも先生のことがあるので、分かります。でも、お金のことを言われたら、本当につらかったのです。

だから、これはもう自分で働くしか仕方がないと思いました。姉の嫁ぎ先の近くにグローブの作り方を大阪から学んできた人がいました。ちょうど一回り年が離れて、僕が12歳、親方は24歳だったのですが、その親方のところに口利きで、住み込みで働かせてもらうようになりました。そこは、姉の住んでいる家と道を挟んでちょうど隣の家でした。

そこへ飛び込んで働きました。白い御飯はおいしいですね。温かくて分厚い布団、そして、お風呂も入れるし、こんなありがたいことはないと思っている日々が続きました。

そういう環境の中で、自分がだんだん何を見つめてきたかという人の顔色でした。これこそ、本当につらいですね。毎日毎日、親方は僕をどういう目で見ていいのか、親方のご両親から僕はどういう目で見られているのかというところで僕の頭の中は格闘です。好きになってもらうとかそんな余裕はありませんでした。ひたすら働く、働く、働くのです。12歳ですが、忙しいときは夜12時、1時です。朝は7時に起きて8時から仕事をして、7時30分頃に御飯ができます。忙しいときはそんな状態が続きます。

ところが、その家の隣に、その家の一人の息子がいたのです。中学校の子だったのですが、裏にも同級生がいたのです。詰め襟を着て学校へ行くんですよ。これには、なぜ僕だけこうなのだろうと参りました。

兄弟が6人いてるんですけども、上から姉、姉、兄貴、そして僕が4番目で、下に妹が2人いるのです。僕はその中のど真ん中ですが、僕だけが学校に行けなかったというか、行かなかったのです。でも、姉はちゃんと行ったほうがいいよと言うのです。「行ったらいい」と言っても、嫁いでいる姉がどれだけの責任を持って僕のことをやれるのかと考えると、ちょっと無理ですね。嫁い

僕はそんな青春時代を過ごしました。

では、その青春時代をどこで打ち消すのか。

はっきり言って、20歳です。

選挙権が与えられますから、自分は社会に責任を
持って果たさなあかんと思いました。これが頭から

離れませんでした。よく選挙権を僕にくれたなと物すごく思いました。だから、

僕は18歳で政治活動をしていました。自分自身である党に足を運んで、何回
も演説を聞きに行きました。どこの党が正しいことを言っているのかと自分の
頭の中で勉強しました。

僕は、人に頼んでおいてどうのこうのと言うことは大嫌いです。けれども、
西畑のおやじはいじめられました。僕は反対です。僕は3回学校が替わっていま
す。この手の傷は、転校したときに、僕の消しゴムが机に置いてあったのです
が、二つ前の男の子がその消しゴムを取りに来たのです。それで、何すんねん
ということになって、もめたのです。なにかを持っていたら分かるのですが、僕
はバサッと1.5センチぐらいの傷をつけられました。

それから、僕は逃げるのが嫌いです。まして、人にそんなことをするのも嫌い
です。やられたらやり返しますのですが、これはテレビのドラマみたいですね。

倍返しやとかそんなことをしているけど、そんなことではないのです。ないお

金で消しゴムを買っているので、自分のものは自分のものと主張したいです。

学校の靴はべろんべろんで前の口が開いて、風呂も何回も行っていないから靴下
は臭いし、親指は穴が開いて自分で手で縫うけど、1回はいたらまた破れます。

その繰り返しです。

自分は負けてたまるかと戦いました。今、社会では、いじめの問題やいじめ
た子の問題があります。でも、それに立ち向かった子の話を聞いたことがありますか。



ないでしょう。いじめといたら大概いじめられるほうの権利ばかりですが、そこには打ち勝ってきた者もいるんです。マスコミも、そこがみそなんです。こういう子もいるということです。僕はそういう子がいるからどうのこうの言っているのではないのです。いじめられたらいじめ返すとかそんなのではなしに、自分に降りかかったものを取り払うのは自分しかないのです。

親に相談して、こうせいとかあせいとか言われても、結局は自分で結論を出さなあかんです。その指導は先生や両親、友達など、横のいろいろなつながりがあって教えられていきます。僕はそういうことに恵まれていました。特にあほなことはしたらあかんということを知っていました。

これは何というか、貧しい生活の中で自分で生きていかなあかんという大きなファイトがあるのです。僕が負けて泣いて帰っても、親が泣いたり抗議をすることはしなかった。学校が替わるたびにめめていましたが、自分に降りかかったものの解決はできるだけ自分でやろうと考えていました。教室にはちゃかす子が1人か2人はいたのです。みんな逃げていました。僕も追いかけられたけれども、逃げないでね。そして、1.5センチの傷をつくって、薬をペッペって塗ってばんそうこうを貼られて、教室に帰ってきたら、「米田、おまえも水の入ったバケツを持って廊下に立て」と言うのです。2人とも黙って立つしかありません。

だから、いじめの問題は、どこから出てきて、どこからどう解決するか、いつまでも不透明でしょう。何が問題になって起きて、何が正解なのかということはなかなかつかみづらいのです。記事にはこうや、ああやと事件のことは載っています。

今、僕はあちこちでしゃべるような機会を設けていただいておりますが、手伝ったときは、そういう問題に対して十分ではないけれども、答えることはできます。

あとは環境の取り巻く中で、両親や友達とどうかかわっていくのか、あるいはそれを教えるのは誰なのかという問題が発生しますね。これからは、子どものことを真剣に考えることを続けていかなければなりません。

まして、このコロナウイルスの問題で学校を拒否している生徒がいるんです。親に言うと、コロナウイルスの病気にかかるから行かせたくないと止めるんです。子どもが友達が行っているから行きたいと言っても、コロナウイルスの問題で感染したら危ないと止める親がいてるんです。

もう一つは、子どもが学校へ行きたがりません。今、オンライン授業などと言っていますけれども、僕も入学して1か月半くらいは学校に行かないで、オンライン授業でした。テキストを送ってくるわけです。スマートフォンに転送してくるものを一々見るのですが、そのオンライン授業はなかなか取りにくかったです。だから、先生、ごめんなさい、全然できていませんと言っていたのですが、そういうものがほとんどでした。

そういう意味で、今の子どもの問題でどう子どもを救ってあげるのか。僕は、自主夜間中学が一番のキーポイントを大きく握っていると思います。そうですよ。笑い事ではない。絶対に入ってくるのです。

非常に大事なことを聞いていただいて、ありがとうございます。(拍手)

○司会 最後に3人の方に、御礼の言葉ということで、急に指名して申し訳ないのですが、卒業生の坂尻倫代さんから、ぜひよろしくお願いします。

○坂尻 こんにちは。

遠友塾卒業生の坂尻です。私は、6月の中旬ぐらいから、お三方のお話が聞きたく、待っていた一人です。

一人ずつの感想を自分の思うように話させてください。



ふかざわせんせい い ことりつ じしゅ やかんちゅうがく はなし わたし りょうほう ひつよう
深澤先生の言っていた公立、自主夜間中学の話ですが、私は両方とも必要
だと思ひます。それはなぜかという、公立の夜間中学はいろいろな規定があ
り、9年間、最長でも12年しか通えませんが、でも、自主夜間中学は、多国籍、
年齢、いろいろなことがある方でも自分が学べるときに学び、納得できるところ
だと思ひます。

えんどうせんせい ことりつ やかんちゅうがく ひつよう つよ い
遠藤先生もそうでしたが、工藤先生は、公立夜間中学が必要と強く言ってい
ましたけれども、私は自分が通っていて思っていたのですが、今思うと自主夜間
中学のほうが必要ではないかと思ひました。

よねだ はなし き むね つ
米田さんのお話を聞いて、ちょっと胸が詰まりました。

12歳から学びたくても学ばなくて、なおかつ、いろいろなご苦労があり、6
7歳から普通の昼の中学校と同じくらい学びたいといういちずさがあり、仕事
で学校に通うのも大変な中、3年7か月という短い期間で卒業されました。な
おかつ今年から高校に行き、それでもまだ次の大学に行きたいと思ひていら
っしゃいます。こんなにいちずに学びたい、勉強したいという方なのに、私は
というとたった週1回の遠友塾に通うのも嫌だと思ひていて、そんな自分がす
ごく情けないという、通っていて申し訳ないと思ひました。

よねだ じぶん
米田さんは、自分でいろいろなことができるたくさんのパワーがあつて、な
おかつ、いろいろな知識のある方なので、何年かかってもいいから、先ほどおっ
しゃっていた自分の本を出してください。私は、それを待って、ぜひとも読ま
せていただきたいです。(拍手)

にしはた わたし がつ ちゅうじゆん で さき め
西畑さんには、私は6月の中旬くらいに、ちょっと出た先でふと目につい
たのが、「60歳のラブレター」という、正直に言ひ、ほんのちっちゃな記事
でした。そのときにそれを見て、たった二、三日くらいしてから、また違うとこ
ろで同じものがあつたのです。そのときは、時間がちょっとあつたから、その
記事を少し読ませていただきました。

20年間も夜間学校に通うとはどういうことだろうと思いました。私が以前行かせていただいた大阪府の夜間中学校でお話しされていた方は、長くても9年だよと言っていたのですが、そんな中で20年間なんて、うそではないだろうかと思いました。

私はその記事を読んで分かったことは、幼いときや小学校の苦勞ばかりではなく、仕事に就いてからも読めない、書けないというつらい思いをしてきたこと、それから、中学校に行けるようになったいきさつなどいろいろ含めて、20年間ですごく努力されたのだと思いました。

そして、今話を聞きましたが、よい方に恵まれて、すてきな家族にも恵まれました。私は、西畑さんと米田さんの二人は、振り返れば、苦しいとかつらいことなどがたくさんあったと思います。でも、話を聞いていて、2人は夜間中学に通っていろいろな方とお会いして、その中でたくさんのお話を聞かされたと思います。また、年齢の違う方と触れたことによって、いろいろな人に触れたことによって得たものもたくさんあると思います。

私が言うのも何ですが、お二人とも年齢よりずっとずっと若いのです。それこそ、またこれからが青春だと思います。ちょっと物足りないかもしれないですけども、私は、今日は、お二人の方と深澤先生のお話を聞いて、とてもよかったです。

今日は本当にどうもありがとうございました。(拍手)

○司会 坂尻さん、本当にありがとうございました。言葉がありませんね。皆さん、感動の拍手を送っていただきたいと思います。(拍手)

今日は、本当にありがとうございました。

皆さん、ありがとうございました。(拍手)

(以上)

ようご せつめい 用語の説明

(注1) バリアフリー： 階段や通路への手すりの設置、エレベーターの設置などで、高齢の方や障がいのある方が生活するうえで困ることを取り除いたり、設備を設けること。

(注2) 新渡日： 1980年代以降の移住労働者の流入という新しい現象で、フィリピン・ベトナム・ブラジル等から日本に来た外国人を指している。

(注3) 学齢期： 学齢とは、学校教育法によって定められた義務教育を受ける年齢のことで、満6歳から9年間（満15歳）の期間を言う。

(注4) SDGs： 2015年国連総会で採択された「持続可能な世界のための目標」を指す。この先の世界が今以上によくなるために、2030年までに世界の人全員で協力して解決したい17の目標を掲げている。例えば「貧困をなくそう・すべての人に健康と福祉を・質の高い教育をみんなに・安全な水とトイレを世界中に・平和と公正をすべての人に」などなど。

印刷・発行：2021年3月

ねんど ほっかいどうじしゅ やか ちゅうがくこうりゅうかい
2020年度 北海道自主夜間中学交流会
さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんきねんじぎょう きろくしゅう
ならびに **札幌遠友塾 30周年記念事業 記録集**

はっ こう どうじょう じっこういんかい
発行：(同上) 実行委員会

れんらくさき さっぽろえんゆうじゅくじしゅ やか ちゅうがく じむきょくちょう くろさわせいいち
連絡先：札幌遠友塾 自主夜間中学 事務局 長 黒澤晴一

(TEL/FAX 011-827-8072 HP: <http://enyujuku.com>)
